

### 一三 同盟及聯合諸國ノ対露政策関係一件 六〇四

七四四

英國政府ハ前記八月十日付ノ波蘭政府宛ノ通牒ヲ十一日午後仏国政府ニ送附シ仏国ガ英國ノ勧告ニ参加セン事ヲ求メタルモ一日仏国ハ英國ノ要求ヲ拒絶シ英國ノ十日付通牒ハ「リム」ノ覺書ト両立セザル事ヲ指摘シタルガ「カーヴン」卿ハ同様ニ仏国ノ「ウランゲル」承認ニ対シテ抗議セリ

七、本件ニ關シ倫敦ニ於テ「カーヴン」卿ト仏国代理大使

トノ間ニ數次ノ会見アリ巴里ニテ英國大使ト「パレオログ」ノ會談アリ何トカシテ対露問題ニ關スル英仏協調ヲ復帰セシメン事ニ努メ八月十二日ヨリ十八日迄引続キ行ハレタル意見ノ交換ハ遂ニ何等ノ効果ヲ齎サザリキ八月十六日ニ英國側ハ一ノ共同宣言案ヲ提議シタルガ其ノ要旨ハ仏国ハ波蘭ヲシテ reasonable peace ヲ為サシムル為努力ス可キ事及「ソビエト」ガ波蘭ニ對スル「リーザナブル、ピース」ヲ約セルトキハ「ウランゲル」ヲ援助セザル事ヲ約束スルニアリ十八日仏国政府ハ之ガ対案トシテ「リム」ノ覺書ノ通「ウランゲル」ガ過激派ノ攻撃ヲ受ケザル限り之ガ救援ニ赴ク事ナカルベキヲ約スル事トナシ度キ旨申出タルモ英國ハ之ニ反対シテ共同宣言案モ御流レトナリ結局当分時局

ノ發展ヲ待ツ事トシテ物分レノ姿ニアリ云々在歐米各大使ヘ転電セリ

六〇四 九月二十四日 内田外務大臣宛（電報）

在瑞典國烟公使ヨリ

レーニンハ日本ニ対シ沿海州ノ割讓ヲモ辞セ

ズトノヘルシングフォース操鰐界及外交界ノ

疇ニ付報告ノ件

第二〇五号

（九月二十六日接受）

「ヘルシングフォース」來電ニ依レバ最近赤軍ノ戰況振ハス之力為後方ニ於テモ一般ニ意氣沮喪シ勞農政府ハ甚シク憂慮シツツアリ「ヘルシングフォース」操鰐界及外交界ノ疇ニ依レハ「レーニン」ハ昨今非常ニ日本ヲ恐レ其攻撃ヲ免レンカ為ニハ沿海州地方ノ割讓ヲモ辞セサル意嚮ヲ有シ居レリ尚彼等ノ考ニ依レハ歐洲諸國ハ平和克復後露國ニ對シ經濟的戰爭ヲ開始スルコト必然ナルヲ以テ勞農政府ハ亞細亞諸國ヲ糾合シ之ニ对抗セサルヘカラス然ルニ此計画ニ對シ唯一ノ障礙ハ日本ナルヲ以テ日下同國ヲ攬乱セント計畫シツツアリ

### 事項一四 尼港事件及樺太内必要地點ノ一時占領ニ関スル件

六〇五 一月二十三日 在ニコライエフスク石田領事代理ヨリ田外務大臣宛（電報）

#### ニコライエフスクノ不穏ナル情勢ニ付海軍陸

##### 戦隊ノ急派ヲ稟申ノ件

第六号（海軍無線電信）

（一月二十六日接受）

其ノ後不穏ノ情報刻々來リ敵ハ既ニ當市ニ殺到セントスルノ形勢ヲ示シ益々傍若無人ノ態度ナルガ我守備隊ノ兵力寡少ニシテ討伐及在留民保護ハ到底充分ヲ期シ難ク更ニ威力ヲ増加スルニアラザレバ今後長ク著シキ不安ノ状態ヲ繼續

スペシト思ハルニ付此ノ際特ニ海軍陸戦隊ヲ急派セシメ

樺太經由當方面ノ警備ニ當ル様御取計ノ方如何ノ御詮議ヲ請フ（二十三日）

六〇六 一月二十四日 楠内海軍次官ヨリ  
埴原外務次官宛

#### 北樺太出兵問題ニ付柄内海軍次官ヨリ意見申

越ノ件

埴原様 一月二十四日

柄内

所要経費

「ニコライエフスク」地方ノ現状ニ鑑ミ在尼港陸軍守備隊及海軍無線電信隊ト連絡シ且該地居留帝國臣民ノ保護並該地方ノ治安維持ニ任スル為メ歩兵一大隊ヲ基幹トスル一部隊ヲ「ニコライエフスク」ニ増派シ右部隊補給ノ為歩兵一中隊ヲ「デカストリー」ニ派遣ス

六〇七 二月十三日 閣議決定

頓首

#### ニコライエフスクヘ増兵ノ件

一四 尼港事件及樺太内必要地點ノ一時占領ニ関スル件

六〇五 六〇六 六〇七

七四五

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六〇八 六〇九 六一〇

七四六

一時費

約四拾弐万円

維持費

月額約拾六万円

六〇八 三月十六日 在ハバロフスク杉野領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

在ハバロフスク日露代表ヨリ尼港ニ於ケル戦

鬪中止方申出及委員派遣ニ関スル件

第十七号

(三月十七日接受)

「ニコライエフスク」ニ於テ「パルチザン」ト日本軍トノ間ニ市街戦行ハレ(居留民モ参加シ居ル如シ)此儘ニ放置セバ同市ハ大慘害灰燼トナル可キ虞アリト当地「ソヴィエト」側ヨリ戦鬪中止ノ措置ヲ執リ度キ旨申込アリ三月十五日日露代表(軍司令官「ブルガルコフ」外交部長「ゲイツマン」山田旅団長本官)当館ニ会合シ「ニ」港日露軍隊長宛当方面平穏ノ状態ニ鑑ミ無益ノ戦鬪ヲ中止スペク事件調査ノ為日露双方ヨリ委員ヲ急派スベシト電報セリ右委員ハ日本參謀大尉通訳医師及護衛数名露国軍代表外交員及護衛五名右十七日当地ヲ発シ二十一、二日頃到着ノ筈ナリ從来戰鬪中止ノ命令ヲ種々ノ方法ヲ以テ双方ヨリ発シ居リタルモ先方両軍ニテハ之ヲ戦鬪上ノ欺瞞トシテ相互ニ之ヲ疑ヒ

居ルモノノ如シト  
政務部長ヘ電報ズミ

第一六号

(三月二十九日接受)  
六一〇 三月二十一日 第五戦隊司令官(在肥前艦)ヨリ  
内海軍次官宛(電報)  
尼港ニ於ケル戦鬪状況ニ關シ同軍管区赤衛軍  
司令官ノ報告浦潮ノ新聞ニ掲載ノ件  
(三月二十三日海軍省ヨリ外務省接受)

件

三月十八日「ニコライエフスク」來電ニ依レバ同市ニ於テ日本軍ト過激派軍トノ間ニ昼夜ニ涉ル激戦アリ其ノ結果同地駐屯軍隊及ビ在留民約七百名ハ殺害セラレ殲リ約百名負傷シ司令部領事館其ノ他邦人家屋ハ全部焼キ払ハレタル趣ナリ(十九日)

四名ハ燒死セリ第一聯隊第三中隊ハ司令部ニ來援シ我軍攻撃急ナリシ為日本軍ハ退却ヲ開始セリ我「パルチザン」隊ノ勇敢ナル戦鬪ニヨリ日本軍ハ間モナク混乱シ各建物ヲ放棄セリ特別部隊指揮官「ルイデニコーフ」ハ勇敢ニシテ指揮ヨロシキヲ得タリ戦鬪ハ一昼夜ニ亘リ絶エス継続セラレ大激戦ナリキ日本軍ハ其全居留民ノ援助ヲ得タルニモ拘ラス遂ニ破壊サレタリ我軍ノ死者四十名負傷者約百名ニシテ敵ノ死傷者ハ尚我ヨリ多シ戦鬪全ク終結シ市内ノ秩序ハ恢復セラレタリ

十二日「ソヴィエト」會議ハ之カ為延期セラレ二月十六日再開セリ

「ニコライエフスク」軍管区赤衛軍司令官

「ツリヤープチン」

「ニコライエフスク」ニ於テ「パルチザン」ト日本軍トノ間ニ市街戦行ハレ(居留民モ参加シ居ル如シ)此儘ニ放置セバ同市ハ大慘害灰燼トナル可キ虞アリト当地「ソヴィエト」側ヨリ戦鬪中止ノ措置ヲ執リ度キ旨申込アリ三月十五日日露代表(軍司令官「ブルガルコフ」外交部長「ゲイツマン」山田旅団長本官)当館ニ会合シ「ニ」港日露軍隊長宛当方面平穏ノ状態ニ鑑ミ無益ノ戦鬪ヲ中止スペク事件調査ノ為日露双方ヨリ委員ヲ急派スベシト電報セリ右委員ハ日本參謀大尉通訳医師及護衛数名露国軍代表外交員及護衛五名右十七日当地ヲ発シ二十一、二日頃到着ノ筈ナリ從来戰鬪中止ノ命令ヲ種々ノ方法ヲ以テ双方ヨリ発シ居リタルモ先方両軍ニテハ之ヲ戦鬪上ノ欺瞞トシテ相互ニ之ヲ疑ヒ

居ルモノノ如シト  
政務部長ヘ電報ズミ

第一六号

六一一 三月二十四日 第五戦隊司令官(在肥前艦)ヨリ

内海軍次官宛(電報)  
在ハバロフスク外交委員「ゲイツマン」ト尼

報道ノ件  
(三月二十六日海軍省ヨリ外務省接受)

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六一二

七四七

#### 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ閲スル件 六二

七四八

二十三日ノ露字新聞ニ尼港ノ状態ト題スル記事ノ要領ヲ摘要セハ左ノ如シ

三月十六日哈府外交委員「ゲイツマン」ハ山田少将ト会見ノ結果ヲ同少将ノ承諾ヲ得テ尼港革命軍ト電話ニテ左ノ要領ノ談話ヲ交換セリ

「ゲイツマン」革命軍ハ日本守備隊ニ対スル戦闘ヲ中止シ日本軍ニシテ希望セハ速ニ講和談判ヲ開始スヘク戦闘ハ日本ニ取りテハ全ク無意味ニシテ無益ナル終結ヲ見ルノミ山田少将ハ命令伝達ノ為メ日本電信掛リト直接日本語ニテ通話シタキ希望ナルヲ以テ日本電信掛リ呼出方ニ尽力アリタ

シトニ対シ尼港側ヨリ且下尼港ハ全市砲火ニ包マレ日本電信掛リヲ招ク能ハサル状態ニアルカ故ニ同少将カ露語ニテ命令ノ伝達ヲ承諾セハ或ハ成シ得ルヤモ知レス兎ニ角目

下市内ニハ激戦行ハレ日本軍ニ接近スル能ハス又使節ヲ派遣スルコトモ不可能ナレハ不取敢此ノ旨山田少将ニ報告シ尚適當ノ手段ヲ講セラレ度配慮ヲ乞フ我革命軍ハ戦闘ヲ中止セシメ得ヘキ兵力ヲ有セスト之ニ対シ「ゲイツマン」ハ何レノ側ヨリ攻撃ヲ開始セシヤラ尋ネタルニ此ノ事ニ閑シテハ後日詳細ニ報告スル訴アルヘキモ吾人革命軍ノ行動ハ

六一二 三月二十五日 在浦潮菊池總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)  
在尼港石田副領事ノ消息及同地へ日露調停委員派遣ノ問題ニ付在ハバロフスク杉野領事外  
交委員ゲイツマン会談ノ件

第一〇五号 (三月二十六日接受)  
杉野ヨリ左ノ通り

第七号

貴電第一二二号ニ閑シ当地外交官「ゲイツマン」ニ尋ねタルニ同人ニ於テハ「ニコライエフスク」本邦領事が日露多数犠牲者中ニアリトハ明言セズ唯日本領事館焼失シタリト

ノ事ナレバ其ノ事実否定シ難シト思ハル該地ノ「バルチザン」ハ野暴ニシテ当地代官等ノ言ヲ用ヒズ且日露委員派遣ニ閑シ日本文電報(羅馬綴)授受シ得ルヤトノ間ニ対シ絶対不可能ト申込ミ來タリ現下ノ模様等ハ追テ回報スベシトノ事故二十一日以来何等カノ通電アルベク待チ居ルモノニテ委員派遣モ中止シタリ此ノ上ハ自分等ハ日露両国政府トノ交渉關係ヲ絶チ浦潮斯徳代官ノ手ニ委スベシト語レリ丁度此ノ席ニ「ブラゴベスチエンスク」労農兵會長「ヤコセフ」アリタルヲ以テ当地ニ伝ハレル「ブラゴベスチエンスク」日本人殺害風聞事実ヲ尋ねタルニ決シテ然ル事無シ昨二十三日同地代官等ト通話ヲ交シタリト答ヘタリ

六一三 三月三十日 内田外務大臣ヨリ  
在ベトロバウロフスク塩田領事館事務代理宛(電報)  
尼港居留民殆ド全滅セシトノ報道ニ付更ニ事実調査ノ上回電方訓電ノ件

第二二号

貴電第一六号ニ閑シ若シ事実ナリトスレバ在留民殆ンド全滅シタルモノニシテ誇大ニ失スルノ懸念アルモ目下ノ場合ニ付或ハ如何ナル重大事件発生シタルヤモ難計尚一層正確

三四 四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ閑スル件 六三 六四

必要已ムヲ得サルモノニシテ事件ノ責任ハ全然日本軍ニ帰スヘキモノナリト談話ハ之ニテ終レリ「ゲイツマン」ハ右談話ノ内容ヲ日軍ニ通知セリ尚昨日日露両軍ヨリ尼港ニ使者ヨリ「パウロフ」外一名ヲ選定シ黒竜江沿岸地方ニハ右使節カ速ニ到達シ得ル為メニ特別ニ橇馬車ノ準備ニ閑スル命令ヲ發セリ最近ノ情報ニヨレハ尼港ニ於テハ多數ノ犠牲者ヲ出タシ日本領事モ其ノ一人ナリト

節ヲ派遣スルコトニ決シ日軍側ヨリイエダ大尉外一名露軍側ヨリ「パウロフ」外一名ヲ選定シ黒竜江沿岸地方ニハ右使節カ速ニ到達シ得ル為メニ特別ニ橇馬車ノ準備ニ閑スル命令ヲ發セリ最近ノ情報ニヨレハ尼港ニ於テハ多數ノ犠牲者ヲ出タシ日本領事モ其ノ一人ナリト

六一二 三月二十五日 在浦潮菊池總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)  
在尼港石田副領事ノ消息及同地へ日露調停委員派遣ノ問題ニ付在ハバロフスク杉野領事外  
交委員ゲイツマン会談ノ件

第一〇五号 (三月二十六日接受)  
杉野ヨリ左ノ通り

第七号

貴電第一二二号ニ閑シ当地外交官「ゲイツマン」ニ尋ねタルニ同人ニ於テハ「ニコライエフスク」本邦領事が日露多数犠牲者中ニアリトハ明言セズ唯日本領事館焼失シタリト

ニ承知シタキニ付貴電ノ前段「ニコライエフスク」来電トハ如何ナル出所ニシテ誰ニ宛テタルモノナリヤ又領事ノ身辺ニ危害ナカリシヤ其他事件ノ真相何等ノ方法ニ依り確メ回電アレ

六一四 三月三十日 在浦潮菊池總領事ヨリ  
新開ノ伝フル尼港事件ノ概況報告ノ件

第一一二号 (三月三十一日接受)

往電第一〇五号「ニコライエフスク」事件ニ閑シ三月三十日当地新聞ノ伝フル所ニ拠レバ白水師団長ノ命令ニ依リ一旦中立ノ態度ニ出デタル同地日本軍隊ハ同市ニ入込ミタル赤衛軍本部ニ対シ三月十一日夜半突如包囲攻撃ヲ開始シ時日本側優勢ナリシモ漸次赤衛軍ノ圧迫ヲ受ケタル結果遂ニ守勢ニ転ジ同地居留民ノ加勢ヲ得其ノ主力ヲ日本領事館兵營及守備兵集会所等ニ集メ防禦ニ力メタルモ刻々悲境ニ陥リ戦闘ハ十四日夕刻迄引続キ行ハレタルガ同時刻ニ至リ露軍側ハ在「ハバロフスク」日露軍司令官ヨリ戦闘中止ノ命令ニ接シタルヲ以テ捕虜中ノ日本軍通訳ヲ介シ右來電ノ趣ヲ日本軍側ニ通ジタル結果日本軍モ戰闘中止ニ同意シ兵

一四 尼港事件及樺太內必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六一五 六一六

七五〇

當ニ在リテ防禦中ノ日本軍ノ一部百三十名モ十五日正午ニ至リ白旗ヲ掲ゲ武器ヲ捨テ露軍ニ降伏事件ハ一先ダ落着シタリ云々又露軍ノ損害死者五十負傷百以上ト在リ何ノ点迄果シテ事実ニ符合セルヤ詳知シ難キモ領事館側ガ軍主力

ノ所在ノ一タリシ記述ハ注目スペキモノト認ム日本側ノ損害ニ付テハ何等記載セズ從ツテ石田副領事ノ運命モ尚不明ノ處同副領事ノ消息ニ付テハ屢々當地露國側官憲ニ付問合中ナルモ今ニ明言ヲ与ヘズ當地支那總領事方ニモ「ハ」府ヨリ石田殺害ノ情報ニ接シタル趣ニ付同總領事ニモ実否探知ノ上通知方依頼シ置キタリ

六一五 三月三十一日 在浦潮菊池總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

尼港事件ニ於ケル日本側ノ損害状況ニ關シ

地ヨリ脱出セル一露人談話ノ件

(四月一日接受)

往電第一一七号ニ関シ

三月三十日「ハバロフスク」陸軍側五味大佐發当地軍司令部宛電報要旨左ノ如シ

最近「ニコライエフスク」ヨリ同地ニ來レル露人購買組合員ノ言ニ依レハ日本軍カ三月十三日過激派司令部ヲ攻撃セル後彼我ノ争鬭激烈トナリシカ日本軍遂ニ不利ニ陥リ日本

領事館ハ燒カレ領事死セシカ如シ日本軍ノ損害多大ニシテ残存者健全者九十名負傷者四十名ニテ今尚一地ヲ死守シツツアリ過激派ノ暴虐到ラサル所ナク日本居留民ノ被害莫大ナルハ勿論露人ノ殺戮ニ遭ヒタルモノ多数ナリ云々不取敢

六一七 三月三十一日 浦潮派遣軍參謀長ヨリ

福田參謀次長宛(電報)

(四月一日接受)

在尼港石田副領事ノ遭難ニ關シ在浦潮中國總領事直話ノ件

第一一七号

往電第一一二号ニ關シ

三月三十一日当地支那總領事が平塚ヘノ直話ニ依レバ三十日夜同總領事ハ在「ニコライエフスク」自國副領事ヨリ本

月十五日附電報(郵便ニテ送付)ニ接シタルガ同地日本領

六一七 三月三十一日 浦潮派遣軍參謀長ヨリ  
福田參謀次長宛(電報)  
尼港事件ノ詳細ハバロフスクノ一過激派新聞  
掲載ノ件

至急 四月二日 (四月五日參謀本部ヨリ外務省接受)

浦參第二四六号

一、尼港派遺隊ノ状況不明ナルヲ以テ軍ハ在哈府露國無線電信ヲ以テスル通信ヲ企図シ最近又支那軍艦ヲ通シテ該地ノ状況ヲ知ランコトヲ努ムル等各種ノ手段ヲ講シアルモ未タ確報ヲ得ルニ至ラス然ルニ昨三十日哈府過激派新聞「コムニスト」ハ尼港ヨリノ詳報ト題シ尼港過激派軍司令部ノ発表セシ所トシテ左記要旨ノ記事ヲ掲載セリ

(左記)

曩ニ赤軍カ尼港ヲ包囲シアル当初ヨリ一月上旬同軍ノ「チヌイラフ」要塞占領後ニ至ルマテ約一ヶ月間赤軍ハ日本軍及其指揮ニ属セル自衛軍ニ対シ二回媾和ヲ提議シテ斥ケラレ第三回ハ日本軍指揮官白水將軍ノ宣言ヲ受領シタル後之ヲ發セリ今回モ亦回答來ラサリシヲ以テ要塞長距離火砲ヲ以テスル市街砲撃ヲ開始シ一日間繼續スルヤ日本軍ハ一露

事及日本隊長ハ遭難死去日本居留民中ニモ多数ノ死者アル旨記載シアリタル趣ナリ

本電杉野ニ電報セリ

六一六 三月三十一日 在浦潮菊池總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

尼港事件ニ於ケル日本側ノ損害状況ニ關シ

(四月一日接受)

往電第一一七号ニ關シ

三月三十日「ハバロフスク」陸軍側五味大佐發当地軍司令部宛電報要旨左ノ如シ

最近「ニコライエフスク」ヨリ同地ニ來レル露人購買組合員ノ言ニ依レハ日本軍カ三月十三日過激派司令部ヲ攻撃セル後彼我ノ争鬭激烈トナリシカ日本軍遂ニ不利ニ陥リ日本

領事館ハ燒カレ領事死セシカ如シ日本軍ノ損害多大ニシテ残存者健全者九十名負傷者四十名ニテ今尚一地ヲ死守シツツアリ過激派ノ暴虐到ラサル所ナク日本居留民ノ被害莫大ナルハ勿論露人ノ殺戮ニ遭ヒタルモノ多数ナリ云々不取敢

第一一八号

(四月一日接受)

往電第一一七号ニ關シ

三月三十日「ハバロフスク」陸軍側五味大佐發当地軍司令部宛電報要旨左ノ如シ

最近「ニコライエフスク」ヨリ同地ニ來レル露人購買組合員ノ言ニ依レハ日本軍カ三月十三日過激派司令部ヲ攻撃セル後彼我ノ争鬭激烈トナリシカ日本軍遂ニ不利ニ陥リ日本

領事館ハ燒カレ領事死セシカ如シ日本軍ノ損害多大ニシテ残存者健全者九十名負傷者四十名ニテ今尚一地ヲ死守シツツアリ過激派ノ暴虐到ラサル所ナク日本居留民ノ被害莫大ナルハ勿論露人ノ殺戮ニ遭ヒタルモノ多数ナリ云々不取敢

第一一九号

(四月一日接受)

往電第一一七号ニ關シ

三月三十日「ハバロフスク」陸軍側五味大佐發当地軍司令部宛電報要旨左ノ如シ

最近「ニコライエフスク」ヨリ同地ニ來レル露人購買組合員ノ言ニ依レハ日本軍カ三月十三日過激派司令部ヲ攻撃セル後彼我ノ争鬭激烈トナリシカ日本軍遂ニ不利ニ陥リ日本

領事館ハ燒カレ領事死セシカ如シ日本軍ノ損害多大ニシテ残存者健全者九十名負傷者四十名ニテ今尚一地ヲ死守シツツアリ過激派ノ暴虐到ラサル所ナク日本居留民ノ被害莫大ナルハ勿論露人ノ殺戮ニ遭ヒタルモノ多数ナリ云々不取敢

第一二〇号

(四月一日接受)

往電第一一七号ニ關シ

三月三十日「ハバロフスク」陸軍側五味大佐發当地軍司令部宛電報要旨左ノ如シ

最近「ニコライエフスク」ヨリ同地ニ來レル露人購買組合員ノ言ニ依レハ日本軍カ三月十三日過激派司令部ヲ攻撃セル後彼我ノ争鬭激烈トナリシカ日本軍遂ニ不利ニ陥リ日本

領事館ハ燒カレ領事死セシカ如シ日本軍ノ損害多大ニシテ残存者健全者九十名負傷者四十名ニテ今尚一地ヲ死守シツツアリ過激派ノ暴虐到ラサル所ナク日本居留民ノ被害莫大ナルハ勿論露人ノ殺戮ニ遭ヒタルモノ多数ナリ云々不取敢

第一二一號

(四月一日接受)

往電第一一七号ニ關シ

三月三十日「ハバロフスク」陸軍側五味大佐發当地軍司令部宛電報要旨左ノ如シ

最近「ニコライエフスク」ヨリ同地ニ來レル露人購買組合員ノ言ニ依レハ日本軍カ三月十三日過激派司令部ヲ攻撃セル後彼我ノ争鬭激烈トナリシカ日本軍遂ニ不利ニ陥リ日本

領事館ハ燒カレ領事死セシカ如シ日本軍ノ損害多大ニシテ残存者健全者九十名負傷者四十名ニテ今尚一地ヲ死守シツツアリ過激派ノ暴虐到ラサル所ナク日本居留民ノ被害莫大ナルハ勿論露人ノ殺戮ニ遭ヒタルモノ多数ナリ云々不取敢

第一二二號

(四月一日接受)

往電第一一七号ニ關シ

三月三十日「ハバロフスク」陸軍側五味大佐發当地軍司令部宛電報要旨左ノ如シ

最近「ニコライエフスク」ヨリ同地ニ來レル露人購買組合員ノ言ニ依レハ日本軍カ三月十三日過激派司令部ヲ攻撃セル後彼我ノ争鬭激烈トナリシカ日本軍遂ニ不利ニ陥リ日本

領事館ハ燒カレ領事死セシカ如シ日本軍ノ損害多大ニシテ残存者健全者九十名負傷者四十名ニテ今尚一地ヲ死守シツツアリ過激派ノ暴虐到ラサル所ナク日本居留民ノ被害莫大ナルハ勿論露人ノ殺戮ニ遭ヒタルモノ多数ナリ云々不取敢

第一二三號

(四月一日接受)

往電第一一七号ニ關シ

三月三十日「ハバロフスク」陸軍側五味大佐發当地軍司令部宛電報要旨左ノ如シ

最近「ニコライエフスク」ヨリ同地ニ來レル露人購買組合員ノ言ニ依レハ日本軍カ三月十三日過激派司令部ヲ攻撃セル後彼我ノ争鬭激烈トナリシカ日本軍遂ニ不利ニ陥リ日本

領事館ハ燒カレ領事死セシカ如シ日本軍ノ損害多大ニシテ残存者健全者九十名負傷者四十名ニテ今尚一地ヲ死守シツツアリ過激派ノ暴虐到ラサル所ナク日本居留民ノ被害莫大ナルハ勿論露人ノ殺戮ニ遭ヒタルモノ多数ナリ云々不取敢

第一二四號

(四月一日接受)

往電第一一七号ニ關シ

三月三十日「ハバロフスク」陸軍側五味大佐發当地軍司令部宛電報要旨左ノ如シ

最近「ニコライエフスク」ヨリ同地ニ來レル露人購買組合員ノ言ニ依レハ日本軍カ三月十三日過激派司令部ヲ攻撃セル後彼我ノ争鬭激烈トナリシカ日本軍遂ニ不利ニ陥リ日本

領事館ハ燒カレ領事死セシカ如シ日本軍ノ損害多大ニシテ残存者健全者九十名負傷者四十名ニテ今尚一地ヲ死守シツツアリ過激派ノ暴虐到ラサル所ナク日本居留民ノ被害莫大ナルハ勿論露人ノ殺戮ニ遭ヒタルモノ多数ナリ云々不取敢

第一二五號

(四月一日接受)

往電第一一七号ニ關シ

三月三十日「ハバロフスク」陸軍側五味大佐發当地軍司令部宛電報要旨左ノ如シ

最近「ニコライエフスク」ヨリ同地ニ來レル露人購買組合員ノ言ニ依レハ日本軍カ三月十三日過激派司令部ヲ攻撃セル後彼我ノ争鬭激烈トナリシカ日本軍遂ニ不利ニ陥リ日本

領事館ハ燒カレ領事死セシカ如シ日本軍ノ損害多大ニシテ残存者健全者九十名負傷者四十名ニテ今尚一地ヲ死守シツツアリ過激派ノ暴虐到ラサル所ナク日本居留民ノ被害莫大ナルハ勿論露人ノ殺戮ニ遭ヒタルモノ多数ナリ云々不取敢

第一二六號

(四月一日接受)

往電第一一七号ニ關シ

三月三十日「ハバロフスク」陸軍側五味大佐發当地軍司令部宛電報要旨左ノ如シ

最近「ニコライエフスク」ヨリ同地ニ來レル露人購買組合員ノ言ニ依レハ日本軍カ三月十三日過激派司令部ヲ攻撃セル後彼我ノ争鬭激烈トナリシカ日本軍遂ニ不利ニ陥リ日本

領事館ハ燒カレ領事死セシカ如シ日本軍ノ損害多大ニシテ残存者健全者九十名負傷者四十名ニテ今尚一地ヲ死守シツツアリ過激派ノ暴虐到ラサル所ナク日本居留民ノ被害莫大ナルハ勿論露人ノ殺戮ニ遭ヒタルモノ多数ナリ云々不取敢

第一二七號

(四月一日接受)

往電第一一七号ニ關シ

三月三十日「ハバロフスク」陸軍側五味大佐發当地軍司令部宛電報要旨左ノ如シ

最近「ニコライエフスク」ヨリ同地ニ來レル露人購買組合員ノ言ニ依レハ日本軍カ三月十三日過激派司令部ヲ攻撃セル後彼我ノ争鬭激烈トナリシカ日本軍遂ニ不利ニ陥リ日本

領事館ハ燒カレ領事死セシカ如シ日本軍ノ損害多大ニシテ残存者健全者九十名負傷者四十名ニテ今尚一地ヲ死守シツツアリ過激派ノ暴虐到ラサル所ナク日本居留民ノ被害莫大ナルハ勿論露人ノ殺戮ニ遭ヒタルモノ多数ナリ云々不取敢

七五一

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六一八 六一九

七五二

六一八 四月二日

内田外務大臣ヨリ  
在浦潮菊池總領事宛(電報)

尼港事件ノ真相突止ノ為同地ヘ特使急派方訓

電ノ件

第四七号(至急)

「ニコライエフスク」ニ於ケル事件ノ真相殊ニ石田副領事同家族並ニ居留民ノ消息ハ從來御報告アリタル露人側ノ断片的報道ニテハ甚不正確ニテ懸念ニ堪ヘサルニ付既ニ貴官ニ於テ精々御手配中ト信スルモ尚充分ヲ期スル為メ此際同地ニ特使ヲ急派シ右ノ真相ヲ突止メ度目下交通杜絶ノ折柄同地ヘノ旅行困難トハ思考スルモ絶対不可能トモ思ハレサルニ付貴地又ハ「ハバロフスク」ニテ適當ノ者ヲ求メ至急派遣スル様御配慮アリタシ尤モ右特使ハ御裁量ニ依リ信用スヘキ露国人ヲ使用シ両三回ニ分チ派遣スルモ差支ナク其費用ハ稟申次第支出致スヘキニ付政務部及杉野領事トモ打合ノ上至急可然措置ヲ執ラレ何分ノ義回電アリタシ

六一九 四月一日 在浦潮矢野政務部長代理ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

尼港事件ニ遺憾ノ意ヲ表シ且日露間ノ平和回

燃ヲ防止シ且敵対行動停止ノ為至急日露間ニ平和談判ヲ開始スルハ極メテ必要ナリト認ム

外交部委員「チヂュリン」

在ハバロフスク杉野領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

六二〇 四月二日 在ハバロフスク杉野領事ヨリ

尼港事件ニ關シ外交代官ゲイツマンノ情報報

告ノ件

第二二二号 (四月四日接受)

貴電第二号ニ閲シ最近「ニコライエフスク」ヨリ到着四、五露人又支那人ノ伝ヘル所ニ依レハ領事館ハ火炎ニ罹リ日本領事及其家族ハ不幸殺害ニ遭ヒタリト言フモ外交代官

「ダイツマン」ニ就キ同人ノ有スル情報ノ開示ヲ求メタル

ニ前段同様ノモノニシテ其内ニ支那人民會長ハ殺サレ日本

領事ハ其難ヲ遁レ居ルモノノ如キモノアリ是以上突止メ様

ナシ尚有產階級ノモノ殆ント殺サレ死者千人以上アリシニ

徵シテ「ニコライエフスク」ノ「パルチザン」ハ「オリガ」

「スーチヤン」方面ヨリ入込ミタルモノナリ從テ「ニコラ

イエフスク」事件ノ確報ハ浦潮斯徳 Vilensky ノ手許ニ在ル筈ナリト同代官ハ附加ヘタリ

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六二〇 六二一

七五三

復ノ必要ヲ説ク露国外務人民委員ノ内田外務

大臣宛通牒受領ノ件

別電 同日在浦潮矢野政務部長代理発内田外務大臣宛  
右通牒

第一三三三号

四月二日「ヴィレンスキ」ハ労農政府極東外交全權ノ肩書ヲ以テ當方ニ書翰ヲ寄セ別電第一三四号「チヂュリン」発閣下宛三月二十三日附「ノート」ノ伝達方ヲ申来リ且同人ニ於テモ「ニコライエフスク」事件ニ對スル遺憾ノ意ヲ表明シ尚二月二十五日附「チヂュリン」發講和提議ニ對シ何分ノ回答ヲ望ミ來レリ書翰郵送ス

(別電)

四月二日在浦潮矢野政務部長代理発内田外務大臣宛電報第一三  
四号  
チヂュリン外務人民委員ノ内田外務大臣宛通牒

第一三四号 別電

「ニコライエフスク」駐屯日本軍ハ赤衛軍司令官トノ約束ヲ無視シ三月十二日同地赤衛軍本部ヲ攻撃シタル結果流血ノ悲慘事ヲ見ルニ至リシハ遺憾ニ堪ヘズ斯ノ如キ事件ノ再

往電第一一八号「ニコライエフスク」購買組合支店長「ゴンチャロフ」ナル者四月二日当地ニ着セルガ元同地ニ在留シ同人ヲ知レル當地居留民及川苦心ノ結果同人所在ヲ突止メ今回事変ノ委細ヲ内話セソコトヲ求メタルニ對シ同人ガ為セル内話中注目スベキ点左ノ通り

自分ハ三月二十三日「ニコライエフスク」ヲ出発セリ二月二十五日頃「パルチザン」ガ「ニコライエフスク」ニ於テ

政權ヲ掌握スルヤ要塞司令官「メドウェデフ」衛戍司令官「トウコレフ」其他ハ自殺セルガ其後三月十二日迄ノ間ニ

於テ「パルチザン」ハ前自治會長「ソウコレコフ」前自治會副長「カマノウスキイ」農民長官「ルウポフ」公証人某弁護士「カプツアン」商人「ルユウリ」(弟)「クルリヤ

ンドスキイ」「ウエイネルマン」「ミルモル」支那人民會長

#### 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六二二

七五四

其他多数ノ市民ヲ順次逮捕ノ上殺戮セリ（及川ハ内話者ノ口吻ニ依リ日本軍ガ起ツニ至リシハ此等暴行ヲ見ルニ見兼不タルニ因ルガ如キ暗示ヲ得タルニ依リ追究シタレドモ内話者ハ用心セルモノノ如ク此点ニ触ルルヲ避ケタリ）三月十二日日本軍ハ機関銃及爆弾ヲ以テ「パルチザン」ノ司令部「ネーベリ」商會ヲ攻撃シ其日ハ同軍ニ有利ナリシガ十三日ニ至リ「パルチザン」ノ数增加シ山砲亦来リ加ハルニ及ビ同軍不利ニ陥リ一隊ハ初メ島田商店ニ立籠レルモ到底守ルペカラザルヲ見ルニ及ビ同商店ニ貯蔵セル糧食等ヲ敵手ニ委セザランガ為自ラ放火セル處（脱語ト云ヘリ）領事館ニ遁レタルガ射界ヲ遮キレル隣家三戸ヲ焼キ払ヒ茲ニ死守ノ決心ヲ示セリ越エテ十四日朝ニ至リ立籠レル一隊ト兵營ニ占拠セル日軍ノ他部隊トハ全然連絡ヲ遮断セラルルニ至リ領事館方面ニ於テハ十四日以来ノ戰闘線ニ激烈ヲ加ヘ露軍ハ砲ヲ以テシ日本軍ハ機関銃ヲ以テ対抗セルガ午前十一時頃ニハ機関銃弾薬欠乏セル為カ銃声ヲ聴カザルニ至リシガ遂ニ同軍ハ自ラ火ヲ放チ三分通リモ焼ケタリト見ユル頃生存者約三十名ハ数回万歳ヲ（脱）其他何レモ火中ニ飛ビ込メリ一面兵營ニ立籠レル日本軍ニ対シテハ六「イン

三日ニ至リ「パルチザン」ノ数増加シ山砲亦來リ加ハルニ

及ビ同軍不利ニ陥リ一隊ハ初メ島田商店ニ立籠レルモ到底

守ルペカラザルヲ見ルニ及ビ同商店ニ貯蔵セル糧食等ヲ敵

手ニ委セザランガ為自ラ放火セル處（脱語ト云ヘリ）領

事館ニ遁レタルガ射界ヲ遮キレル隣家三戸ヲ焼キ払ヒ茲ニ

死守ノ決心ヲ示セリ越エテ十四日朝ニ至リ立籠レル一隊ト

兵營ニ占拠セル日軍ノ他部隊トハ全然連絡ヲ遮断セラルルニ至リ領事館方面ニ於テハ十四日以来ノ戰闘線ニ激烈ヲ加

ヘ露軍ハ砲ヲ以テシ日本軍ハ機関銃ヲ以テ対抗セルガ午前

十一時頃ニハ機関銃弾薬欠乏セル為カ銃声ヲ聴カザルニ至

リシガ遂ニ同軍ハ自ラ火ヲ放チ三分通リモ焼ケタリト見ユ

ル頃生存者約三十名ハ数回万歳ヲ（脱）其他何レモ火中ニ

飛ビ込メリ一面兵營ニ立籠レル日本軍ニ対シテハ六「イン

チ」砲ヲ以テ攻撃シ居リシガ此時「ハパロフスク」ヨリノ

命ニ接シ日本軍ハ白旗ヲ掲グルコトトナリタル以上戰闘ニ

ハ日本婦女モ参加シタルヲ以テ其死者少ナカラザルベキ見

込ナリ尚在留民ノ領事館ニ集合セルモノ少ナカラズ是等ハ

何レモ焼死セルモノト思考ス從テ石田領事及其家族亦死亡

セルモノト信ズ

居留民ノ食糧ハ全部島田商店ニ保管セラレ居リタル趣ニテ

此等食糧ノ焼失ノ為差当リ同地居留民ノ食糧如何ハ懸念ス

ベキ問題ナルガ右ニ閑シ内話者ハ「ニコライエフスク」ニ

ハ麵麩粉魚類等相当ノ貯蔵シアリタル旨ヲ述ベタル由右聞

込ミノ儘不取敢

六二二 四月八日 内田外務大臣ヨリ  
在ハルビン松島總領事宛（電報）

在「プラゴエシチエンスク」山口領事ヘ転電アリタシ

第一二〇号

左ノ通り

在「プラゴエシチエンスク」山口領事ヘ転電アリタシ

第一三号

浦潮事変ニ関連シ貴地ニ於ケル露人ノ感情一層悪化スルノ

恐アリト察セラルル処若シ貴官ノ身辺ニ危害ヲ加ヘラルル

虞アルカ其他職務執行上著シク障害ヲ生スル場合ニ於テハ

適宜対岸黒河ニ引揚ヶ當方ノ指図ヲ受ケラレ差支ナシ

本電到着ノ有無ヲ回電アレ

六二三 四月十五日 内田外務大臣ヨリ  
花岡書記官（註）宛

尼港事件ノ真相探査ノ為同地出張ヲ命令ノ件

通一機密送第三四号

貴官ニ今回「ニコライエフスク」出張ヲ命シ候ニ付左ノ通

リ御心得ノ上御措弁相成度此段及訓令候也

第一号

（四月十八日接受）

明十九日午後軍艦三笠ニ便乗シ小樽ヲ発シ「アレキサンド

ロフスク」ニ向フ多門大佐ノ率ニユル派遣軍モ同行シ三笠艦長

護ノ下ニ同港ニ上陸スル予定本官ハ樺太過激派ニ對シ強圧

手段ヲ加フル時ハ「ニコライエフスク」及「ペトロパウロ

スク」残存本邦人ハ其ノ復讐ニ犠牲タル虞アル旨三笠艦長

ニ述ヘタルニ同艦長モ此ノ点ニ苦心シ先ツ今十八日軍艦見

島ヲ先発セシメ平和入港視察ヲ遂ケシメタル上陸軍上陸ヲ

断行シ夫レト同時ニ過激派ノ無線電信ヲ押ヘ大陸遁逃ヲ妨

ケ樺太ノ出来事ヲ大陸過激派ニ知ラシメサル手筈ヲ為スヘ

シト語リタリ

三、出張先ニ於テ事件ノ善後及邦人ノ保護ノ為貴官ニ於テ

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六二三 六二四

七五五

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六二五 六二六

七五六

六二五 四月二十四日 外務省公表  
尼港事件ニ關シ軍隊派遣ノ件

外務省公表

露領沿海州「ニコライエフスク」地方ノ状況ハ三月初旬以来益險惡ニ赴キ遂ニ一大慘事ヲ惹起シタルモノノ如ク交通杜絶ノ為未タ的確ニ其ノ真相ヲ突止ム能ハザルモ今日迄ニ接受シタル諸情報ヲ綜合スルニ我守備隊ハ殆ンド全滅シ領事初メ数百ノ在留邦人慘殺ノ厄ニ遭ヒシコトハ略之ヲ事実ナリト認定スルノ外ナク事態頗ル重大ナルモノアルヲ以テ帝国政府ニ於テハ過般來西比利亞ニ在ル我領事官及軍憲ヲシテ露人側トモ交渉ヲ遂ケシメ百方事態ノ真相ヲ確ムルト同時ニ救援ノ手段ヲ講スルニ努力セシメタルモ同地方ノ猶ホ結氷期ニアルニ加フルニ前陳ノ如ク「ニコライエフスク」ト外部トノ通信交通ノ途杜絶シ且ツ地方状況混沌タルガ為到底從来ノ手段交渉等ヲ以テシテハ急ニ我目的ヲ達スルノ望ナキコト明白トナレルニ付茲ニ已ムナク此際不取敢居留民救援保護ノ目的ヲ以テ一部隊ヲ「ニコライエフスク」ニ派遣スルコトニ決定セリ然ルニ同地方ハ猶ホ結氷期ニア

ク此間必要ニ応シ北樺太ニ於ケル帝国居留民ノ保護ニ任セシムルコトトセリ則チ右決定ニ基キ派遣隊ハ既ニ四月十九日帝國軍艦三笠及見島護衛ノ下ニ小樽港ヲ出發シテ二十二日早朝北樺太「アレキサンドロフスキ」港ニ達シ戰闘ヲ交フルコトナク上陸シタルカ在留帝國居留民ハ皆無事ニシテ其ノ大部ハ不取敢軍艦三笠ニ収容セラレタリ  
大正九年四月二十四日

六二六 四月二十七日 閣議決定

尼港派遣隊司令官ニ与フル陸相指示ノ件

陸軍大臣ヨリ北部沿海州派遣隊司令官ニ与フ

ル指示ノ件

一、露軍ニ對シテハ先ツ温和ナル手段ヲ以テ目的ヲ遂行スルコトヲ努メ若シ其ノ抵抗ヲ受クルニ際シテハ適応ノ処置ヲ採ルベシ

二、派遣隊ニハ外交官ヲ附属セシメラル事ノ外交ニ関スル

モノハ同官ヲシテ處理セシムベシ

三、露國及諸外國官民トノ接觸ヲ良好ニシ帝国ノ誠意ヲ了解セシムルニ努ムベシ

四、軍事行動地域内ニ於ケル露國官憲ノ行政ハ民意ト旧慣トヲ顧慮セシメ要スレバ同官憲ヲ支援シテ施政ヲ容易ナラシムベシ而シテ特ニ露國民心ノ趨向ヲ察シ之ニ順応シテ措置宜シキニ適セシムル如ク指導スペシ

五、帝國軍隊ト外人トノ關係ハ其ノ風俗習慣ヲ異ニシ言語相通セザル為從來事故ヲ發生シタルコト歟カラズ努メテ之ヲ防止スルト共ニ若シ事端發生セバ所在官憲速ニ適宜ノ処置ヲ講ジ累ラ国交ニ及ボサザルコトニ留意スルヲ要ス

（附屬書）  
五月二十日 附花岡大使館書記官ヨリ埴原外務次官宛意見書  
「ニコライエフスク」事件ト露西亞問題ノ解決

（大正九年五月二十日）

外務次官 境原正直殿

五月二十日

三笠ニ於テ

花岡止郎

敬具

六二七 五月二十日 花岡大使館書記官ヨリ  
埴原外務次官宛

尼港事件対策及露國問題解決ニ關シ意見具申  
ノ件

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ關スル件 六二七

本年三月黒龍江畔「ニコライエフスク」市ニ發生シタル所謂「ニコライエフスク」事件ハ同地ニ在留セル本邦人數百名ノ生命ニ關係セルコトナルヲ以テ重大ナル出来事ナルニ

七五七

相違ナキモ其ノ解決ノ法理ハ一二帝国ノ独立権ノ作用ニ基キ対人的主權 (Personalhoheit) ヲ楯トシ 帝国臣民ノ保護ヲ完フルノ手段ヲ取り事件ノ真相ヲ調査シ且正当政府乃至權力ノ樹立ヲ待テ其ノ責任ヲ問フニアリ而シテ今ヤ帝国ハ其ノ必要ナル陸海力ヲ動カシ帝国臣民保護ノ実ヲ挙ケ又事件ノ真相ヲ調査スルノ手段ヲ講シ當面ノ措置殆ント施サレタリト雖之所謂「ニコライエフスク」事件ニ対スル當面ノ方策タルニ止マル

我力軍「ニコライエフスク」市ニ入り今年三月ノ不祥事件ヲ片付クルノ後同地方ノ秩序維持ヲ如何ニスヘキヤ又該事件ノ責任ヲ問フハ何者ヲ相手トスヘキヤハ次テ起ルヘキ問題ナリ加之「ニコライエフスク」地方ノ治安ヲ計ルハ之ヲ浦潮其ノ他一般沿海州ト分離シテ計画シ得ヘキヤト云フカ如キ更ニ別個ノ問題モアリ

思フニ現今日露両國間ハ交戦關係ニアルニアラサルヲ以テ帝国軍隊出動スルモ直ニ其ノ占領地域ニ軍政ヲ布クコト日清及日露両戦役ノ際ニ於ケルカ如クスルハ妥当ナラス必ス先ツ帝国政府予テノ声明ノ如ク露國ノ内政不干渉ノ方針ニ則リ之ヲ行ハサルヘカラス之カ為ニハ「ニコライエフスク」

地方自治團体例へハ同地方「ゼムストオ」若ハ市会ノ如キモノヲシテ該地方一円ノ政治中心タラシメ帝国文武官憲ハ之ヲ支持シ之ト聯絡ヲ保チ在留邦人ヲ保護シ帝国ノ通商航海條約及漁業条約ニ基ク權利ヲ擁護シ露國問題ノ一般的ニ解決セラルルカ若クハ同地方狀態ノ安全トナルト共ニ先ツ陸兵ヲ凱旋セシメ次テ軍艦ヲ引揚クルヲ順序ト信ス

然レトモ吾人ノ今日迄得タル情報ニ依レハ「ニコライエフスク」ハ目下「トリヤピジン」一派ノ過激派「パルチザン」ノ支配下ニアリ彼等ハ我力陸海軍ノ進入ト共ニ恐ラク「ヤクーツク」若クハ黒竜地方ノ奥地ニ遁逃スヘキモ其ノ今日迄既ニ少カラス非過激派ノモノヲ虐殺シ居リ又今日以後遁逃ノ際ニ至ル迄ノ間ニ同様ノ挙ニ出ツルナキヲ保セサルヲ以テ吾人ノ同市ニ入ルニ及ヒ同地人士ニシテ果シテ地方的ナリトモ自治團体ヲ組織且維持シ得ルモノ残存シアリヤ否ヤ疑ナキヲ得ス縱シ強テ其ノ生存セル地方政府アラソルモ之元ヨリ一時的ノ事ニシテ露国内政不干渉ノ主義ニ鑒ミ將又經濟及財政上ヨリ見ルモ「ニコライエフスク」ノ如キ小地域ヲ他ノ方面ト分離シ独立的状態ヲ保タシムルハ不

自然ニシテ又望ナキコトト云ハサルヘカラス要スルニ樺太及「ニコライエフスク」問題ハ不祥事件當面ノ解決ハ別トシ其ノ後ノコトハ之ヲ浦潮及後貝加爾地方ノ情況ト相待テ之ヲ研究セサルヘカラス然ルニ浦潮及後貝加爾地方ノ問題モ亦歐露其ノ他全露西亞ト切り離シ独リ東部西比利問題トシテ解決セラレサルハ最近二年間帝国政府ノ少カラサル學資ヲ費シテ今ヤ漸ク解得セムトシツアルトコロナリ我力

國ニ於テハ從来專ラ西比利問題若クハ東三州問題トシテ高唱セラレシモ露国人乃至歐米人ノ眼中ニハ斯ノ如キ問題ノ存在スヘキ理由ナシ西比利ハ其ノ東西ヲ合スルモ要スルニ露國ノ殖民地ニシテ人種ハ元ヨリ露国人ヲ主トスルヲ以テ之ヲ彼ノ人種ヲ異ニスル「エストニヤ」芬蘭及波蘭等ノ如ク露國ト分離シテ解決セラルル筈ナク況シヤ經濟的ニ東部西比利ノ独立シ得ルヤ否ヤヲ思ヘハ帝國從來ノ對露政策ハ余リニ地方的ナリシト云ハサルヘカラス之茲ニ露國全般ニ關スル問題ヲ講究シ之ヲ基礎トシ東部西比利「ニコライエフスク」地方及樺太ノ問題ヲ東西一貫シテ解決セムトスル所以ナリ

所謂露國問題ナルモノハ單ニ露國內ニ於ケル内亂ノ結果発

生セルニアラスシテ歐洲戰爭ノ余波トシテ起レルモノニシテ之ニ彼ノ戰爭中独逸側ノ支持ヲ得テ立テル「レーニン」一派ノ革命力兎ニ角近世社會組織ノ欠陥タル資本制度ノ攻撃ヲ標榜シ各國平民階級ノ要求スル所ニ當ルモノアルヲ以テ茲ニ外政及内政問題ノ混合ヲ來シ複雜トナレルモノナリ故ニ露國問題ヲ解決セムニハ左ノ三件ニ就キテ研究セサルヘカラス

(一)歐洲戰爭酣ナル際協商諸國ハ對独戰爭最後ノ勝利ヲ目的トシ過激派ハ其ノ政綱ノ如何ハ別トシ独逸側ニ有利ナリソ非戰論ヲ唱ヘ其ノ結果協商諸國ハ所謂健全分子タル非過激派ト提携シ東方戰線ノ再興ニ從事シタルハ否定スヘカラサル事實ナリ今日独逸側既ニ屈伏シ協商諸國ハ最早東方戰線ノ復興ヲ必要トセサルモ其ノ提携シテ事ニ當リ來レル所謂健全分子ヲ今ニ至リ遽ニ拋棄シ長ク露國国民ニ協商側國際信義ノ頼ムヘカラサルヲ信セシムルハ果シテ妥当ノ措置ナリヤ又永遠ニ亘リテ得策ナリヤ換言スレハ從來提携シ來レル所謂健全分子ニ対スル处分ハ之ヲ如何ニスヘキヤ

(二)「レーニン」一派ノ主張及手段ニ就テハ從來各國間ニ其ノ見解ヲ異ニシテ協商側ノ對露政策ニ一致ヲ見サリシヲ

以テ帝国政府ハ露国ニ於テ各種ノ行動ヲ取ルニ際シテハ其ノ過激派ニ對スル所信ヲ發表シ天下ニ誤解ナキヲ期セサルヘカラス從来帝国政府カ常ニ撤兵ヲ声明セルハ国内ニ於ケル政論ヲ定ムルニ利アランモ國際的ニ何等得ル所ナキハ今日迄ノ経験ニ徵シテ明ナルヘシ

抑露国ニ對シテ宣戰セルニアラサル帝国軍隊カ其ノ出動ノ目的タル任務ヲ遂行セル以上凱旋シ来ルハ当然ノコトニシテ之ヲ屢宣言スルカ如キハ反テ列国ヲシテ帝国カ何等軍閥政治的野心ヲ包藏シ為ニ自ラ之ヲ弁明スルモノナラスヤト疑ハルルノ虞アルヘシ

(三)過激派カ國際條約ヲ蹂躪シ國債廢棄ヲ企テタルカ如キハ亂暴ニシテ國際共存ノ理ニ反スル勿論ナリト雖彼等カ軍閥政治秘密外交ヲ排シ殊ニ資本主義ニ基ク金權政治ノ弊害及資產階級ノ横暴ヲ攻擊スル点ハ現代政治ノ陥欠ヲ指摘シ事実ニ該當スル所アリテ各國労働階級カ稍モスレハ露国過激派ニ共鳴セムトスル点ナルヲ以テ帝国政府ハ彼等ノ内政ニ關スル主張中彼ノ穩健ナル社會政策学者ノ唱道スル所ト同イノモノハ速ニ取テ之ヲ実施シ列国ニ先シテ金權政治ヲ打破シ且其ノ政策ヲ公表シ各國労働階級ヲシテ帝国政府ノ対

(一)帝国政府ハ協商諸國ニ提議シ帝国ハ今日迄専ラ協調ヲ主トシ列国ト對露問題ヲ處理シ來リタルモ不幸ニシテ露国ノ秩序ハ未タ恢復セラレス之ヲ其ノ儘ニ放置シ撤兵シ来ルハ独リ露国ト接壤スル帝国北辺ノ治安問題タルノミナラス從来提携シ來レル所謂健全分子ヲ過激派ノ処分ニ一任スルハ國際道德上妥当ナラズシテ他日大露西亞人再興ノ暁其ノ親獨政策ニ趨ルノ原因ヲナスモノタルヲ以テ協商諸國ハ露国内政ニ關与セサルト共ニ吾人ノ露国健全分子ニ負フ所ヲ支払ヒ完全ニ歐洲戰爭ヲ終了スルヲ協議セシムヘシ即チ之ヲ具体的ニ云ヘハ過激派ヲシテ其ノ戰争中敵タリシ独塊側ノ支持ヲ得テ不自然ニ獲得セル勢力ヲ拠棄シ單純ナル政党トナリ武装ヲ解キ他ノ露国一般政党ト同一ノ言論集会及結社ノ自由ノ下ニ存在セシメサルヘカラス換言スレハ帝国政府ハ列国ニ提議シ露国過激派ヲシテ武装ヲ解除シ他ノ政党

同様普通ノ政党タラシムルヲ条件トシテ反過激派ニ彼等ヲ芟滅セントスル戰争ヲ中止セムコトヲ仲裁シ而シテ其ノ聴カサルニ於テ共同武力ヲ用キンカ為其ノ分担ヲ協議セムトルモノナリ

帝国政府ハ一方列強ニ對シ前述ノ提議ヲナスト共ニ他方在巴里露国大使ヲ介シテ何人ヲシテ「ニコライエフスク」及浦潮地方ノ行政ニ当ラシムヘキヤヲ協議スヘシ在仏露国大使「マクラコフ」氏ハ世上或ハ非難スルモノアランモ兎ニ角革命後成立シ各國政府ノ承認セル臨時政府ノ代表者ニシテ同氏ノ周囲ニアル「サービンコフ」「チャイコフスキ」其ノ他ノ人々ハ露国ニ於テ旧政治ニ反対シ「デモクラシ」ヲ主張シタルモ過激派ノ如キ極端ノモノニアラス比較的稳健ニシテ且全露の人物ナリ若シ「サービンコフ」「チャイコフスキ」其ノ他ニシテ彼ノ過激派ニ離レ専ラ軍事ニ從事セシムルコトトセハ之ヲ彼ノ過激派ニカ帝国ハ之ヲ支持シ「セメヨーノフ」頭領ノ如キハ政治ヲ近キ「メドベーデエフ」及過激派ノ使命ヲ帶フル「ウイレニスキ」ノ徒ヲ相手トシ信用シ得ヘカラサル交渉ヲ試ルニ反シ益スルコト多カルヘシ加之之ニ依リ帝国ノ政策カ全

露的ニシテ彼ノ東三州ヲ火事泥セントスルカ如キ誤解ヲ一拭シ且同時ニ所謂「ニコライエフスク」事件ノ善後処分ヲトアルヘキモ露國人士ハ帝國ノ態度ヲ多トシ其ノ愈成ラサルニ当リテモ其ノ責帝國ニアラサルヲ認ムヘク茲ニ於テ帝國ハ止ムヲ得ス单ニ自衛ノ方法ニ出ツヘキヲ声明シ今日ヨリモ自由ノ行動ヲ取り或ハ地方自治体ヲ支持シ或ハ緩衝地帶ヲ設ケ樺太「ニコライエフスク」浦潮及後貝加爾方面ノ秩序ヲ保チ我カ通商的利益ヲ保護スルト共ニ過激派ノ惡意ノ「プロパガンダ」ヲ防止スルヲ得ヘシ「チエックスロヴァック」兵援助ヲ聲明セル帝国軍隊カ彼等ノ帰還後何等其ノ主張ヲ言明セシムテ不徹底ナル現状ヲ維持スルハ恐ラク適當ノ措置ニアラサルヘシ而シテ帝国カ其ノ尽スヘキ方法ヲ取リタル上止ムヲ得ス取ルヘキ自衛政策ハ之ヲ今日ノソレニ比シ一層強硬且徹底的ナルヲ得ヘシ之実ニ事大主義ノ思想ニ富メル露國国民ニ對シ必要ナル所ナリ

(二)「レーニン」一派カ國際協定ヲ無視シ從来ノ國際條約ヲ

# 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六二七

七六一

官僚又ハ軍閥政治ノ製產物トシ独断以テ之ヲ破壞セムトスルハ事實ニ於テ人類發達ノ歴史カ争闘ノ結果タルヲ忘レ人類将来ノ理想ヲ以テ過去及現在ヲ律シ邊ニ天下ヲ覆サムトシ國際共存ノ基礎ヲ危クセムトスルハ許スヘカラサル暴論ニシテ又彼等カ露国人トシテ戰爭中敵タリシ独逸側ノ支持ヲ受ケ非戰論ヲ唱へ為ニ白耳義及「セルビヤ」ノ如キ何等罪ナキ小国ニ甚大ノ苦痛ヲ与ヘタルカ如キハ彼等自身ノ主張ニモ矛盾スルモノト云フヘク又露国内ニ於テ反対党ニ対スル手段トシテ「テロル」政治ヲ取レルカ如キハ頗ル憎ムヘキモノアルモ翻テ其ノ国内政策就中資本制度ノ弊害タル金權政治ヲ打破セムトスルハ現代社会組織ノ陥れニ當レルモノアルヲ以テ斯ノ如キ一種ノ思想カ他国ニ於テ發生スルヲ妨ケントスルハ不必要且不可能ノコトト云フヘク從テ帝國政府ハ過激派カ戰爭中敵タリシ独逸側ノ支持ニ依リテ為シタル武装ヲ解キ吾人ノ戰争中健全分子ニ負ヒタル義務ニ違反セサル如ク行動シ且其ノ主張ヲ外國ニ「プロ・ガンダ」スルナキニ於テハ露国国民ノ認ムル限リ露国内ニ於テ普通政党トシテ過激派ノ存在スルハ露国ノ内事ニシテ帝国政府ハ何等異議ナキコトヲ声明スヘシ

(三)對外政策トシテ露西亞問題及對過激派政策ヲ前述ノ如ク決定スルニ於テハ過激派ノ惡意ノ「プロ・ガンダ」ハ之ヲ防止シ得ンモ其ノ思想ハ之ヲ國境ニ依リ防ク能ハス加之同主義者ノ主張中近代資本制度ノ欠点ヲ攻撃スル点ハ事實ニ適合スル所アリ從テ帝国政府ハ過激主義ノ名ニ恐レス同主義者ノ所論ヲ冷靜ニ研究シ彼ノ穩健社會政策ノ主張ト一致シ國際法ニ悖ラス且大和民族發展ノ歴史ニ照シ差支ナキモノハ列国ニ先チテ之ヲ採用シ一日モ速ニ社會狀態ヲ健全ナラシメ危險ナル社會革命ノ勃発ヲ未然ニ防カサルヘカラス例ヘハ(一)普通選舉(二)銀行業運輸業外國貿易業及鉱山業等ノ官公吏及軍人就中其ノ下級者ノ恩給及保險制度ノ改良(八生級ノ租稅負擔(四)學校教育ノ平等及人才登用ノ自由(五)兒童保育ニ対スル國家ノ援助(六)労働者保護(七)少額定給生活者殊ニ如キ少數者ニ富ラ集中セシムル業務ニ対スル監督(八)生産者ト消費者ノ中間ニアリ暴利ヲ貪ル者ノ取締(九)私人又ハ会社ノ独占スル庭園土地及家屋ノ制限等ハ必スシモ過激派ノミノ主張スル所ニアラス溫和社会改良論者モ亦唱フル所ニシテ唯彼等ノ實行力薄弱ナルカ為過激主義ノ爆發ヲ促シタルニ過キサルヲ以テ帝国政府ハ一日モ速ニ之等社會改

革ニシテ大和民族發達ノ歴史ニ矛盾セサルモノヲ實行シ而シテ之ト共ニ國民思想ヲ健全ニシ簡易生活ノ美風ヲ鼓吹セサルヘカラス

六二八 五月二十四日 増原外務次官ヨリ  
政機密送第五六号 山梨陸軍次官宛

北部沿海州派遣隊司令部附外交官ノ權限ニ關  
スル件

附屬書 本件ニ關スル覺書

右ニ閲シ囊ニ貴省ヨリ「司令部附外交官ハ司令官ノ方針ヲ承ケ専ラ涉外事項ヲ掌ル」ノ一項ヲ軍令中ニ加フル事ニ關シ当省ノ意見御照会有之候處右ハ別紙覺書記載ノ如キ諒解ノ下ニ異存無之候条右様御承知相成度此段及回答候也追而右覺書ハ五月二十二日兩省主任官ノ間ニ打合ヲ了シタルモノニ有之候ニ付御含相成度此段申添候

(附屬書)

一、外務大臣ハ涉外政務ニ閲シ直接ニ司令部附外交官ニ指示スルコト

二、司令部附外交官ハ前項指示ノ事項執行ニ付予メ司令官示スルコト

三四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ關スル件

六二八 六二九

(欄外註記)  
「五月二十二日陸軍省軍務局長ト協定済」

六二九 六月一日 内田外務大臣ヨリ  
花岡書記官(尼港出張中)宛(電報)

北部沿海州派遣隊司令部附外交官ニ任命シタ  
ルニ付指示ノ件

第三号

貴官ハ囊ニ尼港事件調査ノ為メ該地出張ヲ命セラレタル今回更ニ北部沿海州派遣隊司令部附外交官ニ命セラレタルニ付右様御承知ノ上本年四月十五日附機密第三四号訓示ノ外左記事項並ニ別電第四号陸軍側ト當省間覺書御含置ノ上

七六三

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六三〇

七六四

(六月四日接受)

- (イ)当該地方露国行政機関及露国民ノ実情並ニ是等ト他地方間ノ諸政治団体等トノ関係連絡等特ニ御調査ノ上報告アリタシ

- (ハ)尼港在勤石田領事代理ノ死亡ニシテ事實ナル場合ニハ後任者任命アル迄便宜領事ノ職務ニ属スル事務ヲ処理セラルヘシ

- (二)尼港事件真相御調査ノ上ハ善後策ニ付司令官トモ協議ヲ遂ケ案ヲ具シ調査ノ結果ト共ニ當方ニ具申請訓セラレタシ

- 尚司令部附外交官ノ職務ニ關スル軍令ハ「司令部附外交官ハ司令官ノ方針ヲ承ケ専ラ涉外事項ヲ掌ル」ノ意味ニ於テ發令アル筈ナリ

註 別電第四号ヲ省略ス右ハ前出六二八文書ノ附屬書ト同文ナリ

六三〇 六月三日 在浦潮松平政務部長ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

尼港事件ニ關スル「メドヴェジエフ」ノ見解

聽取ニ付報告ノ件

第二四六号

七六四

尼港事件真相取調ノ為臨時政府ヨリ尼港へ出張ヲ命セラタル「クラーギン」ナルモノ「アレキサンドロフスク」ニテ日本軍憲ノタメ上陸ヲ許サレザリシ為「シーシャン」号ニテ其儘引還ヘシ數日前帰来セシカ同人カ尼港労兵会ヨリ「ア」港ニ派遣セル旧部下ノ兵卒ヨリ聽取リタル情報ヲ報

告セル所ニ拠レハ尼港事件ハ酸鼻ヲ極メタル空前ノ不祥事件ニシテ其張本人ハ「トリヤペーチン」及其參謀長「ニーナ、レベジヨワ」(女)ト称スル無政府黨員ニシテ「ト」ノ姿ニ關シテハ何人モ知ルモノナク僅ニ「レベジヨワ」ニ關シテハ曾テ「ヤクーツク」ニ於テ同女ヲ知レル当地共産党ノ一員ハ同女カ常ニ「ヒステリー」的狂婦(二拾四五歳ニシテ常ニ男装セリト)ニシテ過激派モ殆ント持テ余シタル由ヲ語レルカ彼等ハ多數ノ囚徒上リノ露人及鉱山等ニ使用セラレタル支那人朝鮮人等ト共ニ今次ノ兇行ヲ遂ケ日本官民ノミナラス露国知識及資産階級者ヲ虐殺シ「ゼムストウラ」議長「ショルコニコフ」及助役其他女学生數十名モ其毒

手ニ殞レタリ彼等ハ我カ「ゼムスト」政府ヲ以テ売國奴ト宣シ我代表者ノ「ア」港ニ來着セハ直ニ之ヲ逮捕シテ処刑ノ為尼港ニ護送スヘキヲ命シ日本カ派遣隊ヲ尼港ニ差向ケタル由ヲ聞クヤ直ニ日本ニ對シ宣戰ヲ布告シ尼港住民ニ動員ヲ命シタル由ニテ彼等ノ行為ハ野獸的ナリ本件當時當方ニ達シタル情報ハ全ク彼等一派カ自己ニ都合好キ情報ナリシ

コト明カニナレリ何分彼等兇徒ノ蛮行ハ露国革命史上ニ著大ノ汚点ヲ刻シタルモノニシテ日本カ同港方面ヘ出兵セラレタルモ当然ノコトニシテ一言ノ辞モナシ而シテ本件ノ解決ハ既說ノ如ク當地方ニ於ケル問題ト全ク別個ニ解決スルコト然ルヘシ尤モ罪ナキ住民ニ對シテハ日本軍ニ於テモ成ルヘク穩便博愛ノ趣旨ニ拋リ取扱ワレンコトヲ切望ス云々

六三一 六月四日 第三艦隊司令長官ヨリ  
尼港占領ニ付報告ノ件  
第三艦隊機密第二五八号

臨時海軍派遣隊司令官報告  
六三二 六月五日 第三艦隊司令長官ヨリ  
尼港邦人全員殺戮ノ状況ニ付報告ノ件  
第三艦隊機密第二百六十一号

臨時海軍派遣隊司令官報告旨  
一、六月三日尼港市街ノ占領ニ引続キ要塞ヲ占領ス  
尼港ニ於ケル殘留邦人ハ五月二十五日頃全部殺戮セラタルモノノ如ク纔ニ露支人ノ妻妾タル婦人十名「マゴ」ニ避難シ居レル外生存者一名モ無之尚詳細取調中

六三三 六月十日 花岡大使館書記官ヨリ  
尼港占領及視察ノ結果報告ノ件  
別電 六月十三日花岡書記官発内田外務大臣宛電報第  
右視察ノ結果報告

第三艦隊機密第二五八号

臨時海軍派遣隊ノ後発部隊ハ六月三日午前四時三十分陸軍運送船團ヲ護衛シ仮泊地「イシヨノフスク」(尼港ノ上流三十露里)発何等抵抗ヲ受クルコトナク午前七時尼港ニ達

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ關スル件 六三一

六三一 六三二 六三三

七六五

## 附記 尼港居留民被害事件調書

第九号

六月三日「アムール」艦隊援護ノ下ニ多門隊ハ「ニコライエフスク」ヲ占領シ次テ海上ニ在リシ司令官モ入市シ本官ハ六月六日水雷艇ニ便乗閉鎖船ノ側ヲ通過當市ニ着陸軍司令部タル「アムール」旅客船内ニ宿泊爾來市内一般領事館跡及当地上流一時間支那砲艦碇泊地点等ヲ視察セル結果別電トシテ報告ス 六月十日

(別電)

六月十三日在宗谷岬花岡書記官發内外務大臣宛電報第九号ノ

別電

尼港事件視察ノ結果報告

第九号ノ別電

今尚水雷艇以外ノ出入困難ナリ死骸ハ大半烏有ニ帰シ「パルチザン」首領ハ「アムグン」上流ニ遁逃シ残党ハ猶「マリンスク」其ノ他ニ出没スルモ「ニコライエフスク」ハ既ニ鎮静ニ帰シ避難セル住民ハ既ニ約二千帰還セリ

二、過激派ハ五月二十五日ヨリ一十七日ニ涉リ残存日本兵百三十余名ヲ殺シ又多数ノ住民ヲモ虐殺セリ從テ帝国臣民

スヘキ旨電報シ且日露双方ヨリ委員ヲ急派スヘキ旨ヲ決議セリ

尋テ三月二十四日在浦潮帝国總領事ヨリ同地新聞ノ報ニ依レハ今回ノ日露交戦事件ニハ多数ノ犠牲者ヲ出シ日本國領事モ亦其ノ中ニアル旨記載シアルニ付取調方在「ハバロフスク」帝国領事ニ電報シ置キタル趣電報アリ三月二十五日杉野領事ヨリ左ノ通り電報アリ

当地代官ニ尋ネタルニ日露多数犠牲者中日本領事アリトハ明言セサルモ唯日本領事館焼失シタリトノコトナレハ其ノ事実ハ否定シ難シト思ハル當該地ノ「パルチザン」ハ野暴ニシテ當地代官等ノ言ヲ用キス且日露委員派遣ニ關シ通信ノ保障ヲナス能ハスト申出テタルニ付委員派遣モ中止シタリト語レリ

三月十八日「ペトロパウロフスク」領事發二十五日外務省着電報ニ依レハ「ニコライエフスク」來電ハ「ニ」市駐屯日本軍及在留民約七百名ハ殺害セラレ残リ約百名ハ負傷シ司令部領事館其ノ他邦人家屋ハ全部燒棄サレタリト如上ノ電報ニ接シタルヲ以テ外務省ハ三月三十日在浦潮「ハバロフスク」「ペトロパウロフスク」各領事ニ対シ事実ノ真相探知報道

ハ支那砲艦ニ避難セル十数名ノ醜業婦以外全滅セルハ本官ノ最モ遺憾トスル所ナリ

三、石田領事其ノ他領事館ニ在リシ者ハ三月十三日頃領事館ニ於テ職ニ殉シタルモノト認ム其ノ壯烈ナル最後ハ郵報スルコトハ当分不可能ナル而已ナラス人民ノ給養迄我方ニ於テ之ヲ為ササルヘカラズ

委細ハ拙信第三号御参照アリタシ (六月十三日)

(附記)

尼港居留民被害事件調書(六月十一日外務省政務局調) 在「ニコライエフスク」居留民被害事件

大正九年三月十七日在「ハバロフスク」杉野領事ヨリ左ノ通リ電報アリ

「ニコライエフスク」ニ於テ「パルチザン」ト日本軍トノ間ニ市街戦行ハレ此ノ儘ニ放置セハ全市大慘害ヲ蒙ルヘキ虞アルニ付同地「ソヴィエト」側ヨリ戦闘中止ノ措置ヲ執リ度旨申込アリ三月十五日日露軍代表者當領事館ニ会合シ「ニコライエフスク」ニ宛テ無益ノ戦闘ヲ中止

方電訓シタルカ右電訓ト行違ニ在浦潮菊池總領事ヨリ左ノ通電報アリ

三月三十日当地新聞ノ伝フル所ニ拵レハ白水師團長ノ命令ニ依リ一旦中立ノ態度ニ出てタル同地日本軍隊ハ同市ニ入込ミタル赤衛軍本部ニ對シ三月十一日夜半突如包围攻撃ヲ開始シ一時日本側優勢ナリシモ漸次赤衛軍ノ圧迫ヲ受ケタル結果遂ニ守勢ニ転シ同地居留民ノ加勢ヲ得其ノ主力ヲ日本領事館兵營及ヒ守備兵集会所等ニ集メ防禦ニ力メタルモ刻々悲境ニ陥リ戦闘ハ十四日夕刻迄引続キ行ハレタルカ同時刻ニ至リ露軍側ハ在「ハバロフスク」日露軍司令官ヨリ戰闘中止ノ命令ニ接シタルヲ以テ捕虜中ノ日本軍通訳ヲ介シ右來電ノ趣ヲ日本軍側ニ通シタル結果日本軍モ戰闘中止ニ同意シ兵營ニ在リテ防禦中ノ日本軍ノ一部百三十名モ十五日正午ニ至リ白旗ヲ掲ケ武器ヲ捨てテ露軍ニ降伏事件ハ一先ツ落着シタリ云々又露軍ノ損害死者百五十負傷百以上トアリ何ノ点迄果シテ事實ニ符合セルヤ詳知シ難キモ領事館側力軍主力ノ所在ノ一タリシ記述ハ注目スヘキモノト認ム日本側ノ損害ニ付テハ何等記載セス從テ石田副領事ノ運命モ尚不明ノ処同副

領事ノ消息ニ付テハ屢々当地露國側官憲ニ付問合ナル  
モ今ニ明言ヲ与ヘス當地支那總領事方ニモ「ハ」府ヨリ石  
田殺害ノ情報ニ接シタル趣ニ付同總領事ニモ実否探知ノ  
上通知方依頼シ置キタリ

然ルニ以上ノ諸報告ハ其ノ根拠孰レモ露國側ノ情報ニ基ケ  
ルモノニシテ是等断片的報導ノミニテハ頗ル不正確ニテ懸  
念ニ堪ヘサルニ付在浦潮帝國總領事ニ対シ此ノ際「ニ」市ニ  
特使ヲ急派シ事實ノ真相ヲ突キ止メ度ニ付日下交通杜絶ノ  
折柄同地ヘノ旅行困難トハ思考スルモ何等カノ方法ニ依リ  
浦潮又ハ「ハバロフスク」ニ於テ適當ノ者ヲ求メ派遣スル様  
電訓シタル处在浦潮總領事ヨリハ烏蘇利鐵道線露軍ノ為ニ  
破壊セラレ當分開通ノ見込無ク從テ「ハバロフスク」發馬  
橇最終便ニ間ニ合ハサルニ付不可能ナル趣及在「ハバロフ  
スク」領事ヨリハ交通杜絶道路通行困難ナルノミナラス事  
変後「パルチザン」殘兵附近ニ横行スルカ故幾許ノ報酬ヲ  
与フルモ該使命ノ遂行ニ応スルモノナキ趣回電アリタリ  
四月四日ニ至リ在浦潮總領事ヨリ左ノ通電報アリ  
「ニコライエフスク」購売組合支店長「ゴンチャロフ」ナ  
ル者四月二日當地ニ着セルカ元同地ニ在留シ同人ヲ知レル

ルモ到底守ルヘカラサルヲ見ルニ及ヒ同商店ニ貯藏セル糧  
食等ヲ敵手ニ委セサランカ為自ラ放火セル所（脱語）ト云  
ヘリ）領事館ニ遁レタルカ射界ヲ遮キレル隣家三戸ヲ焼キ  
私ヒ茲ニ死守ノ決心ヲ示セリ越エテ十四日朝ニ至リ立籠レ  
ル一隊ト兵營ニ占拠セル日軍ノ他部隊トハ全然連絡ヲ遮断  
セラルニ至リ領事館方面ニ於テハ十四日以来ノ戰鬪線ニ  
激烈ヲ加ヘ露軍ハ砲ヲ以テシ日本軍機関銃ヲ以テ対抗セル  
カ午前十一時頃ニハ機関銃弾薬欠キセル為カ銃声ヲ聴カサ  
ルニ至リシカ遂ニ同軍ハ自ラ火ヲ放チ三分通リモ焼ケタリ  
ト見ユル頃生存者約三十名ハ數回万歳ヲ（脱）其ノ他何レ  
モ火中ニ飛ヒ込メリ一面兵營ニ立籠レル日本軍ニ対シテハ  
六「インチ」砲ヲ以テ攻撃シ居リシカ此ノ時「ハバロフス  
ク」ヨリノ命ニ接シ日本軍ハ白旗ヲ掲クルコトナリタリ  
以上戰鬪ニハ日本婦女モ参加シタルヲ以テ其ノ死者少カラ  
サルヘキ見込ナリ尚在留民ノ領事館ニ集合セルモノ少カラ  
ス是等ハ何レモ焼死セルモノト思考ス從テ石田領事及其ノ  
家族モ亦死亡セルモノト信ス

居留民ノ食糧ハ全部島田商店ニ保管セラレ居リタル趣ニテ  
此等食糧ノ焼失ノ為差当リ同地居留民ノ食糧如何ハ懸念ス

当地居留民及川苦心ノ結果同人所在ヲ突キ止メ今回事變ノ  
委細ヲ内話セシコトヲ求メタルニ対シ同人カ為セル内話中  
注目スヘキ点左ノ通り

自分ハ三月二十三日「ニコライエフスク」ヲ出発セリ二月  
二十五日頃「パルチザン」カ「ニコライエフスク」ニ於テ  
政權ヲ掌握スルヤ要塞司令官「メドウエジエフ」衛戍司令官  
「トウコレフ」其ノ他ハ自殺セルカ其ノ後三月十二日迄ノ  
間ニ於テ「パルチザン」ハ前自治會長「ソウコレコフ」前  
自治會副長「カマノウスキイ」農民長官「ルウポフ」公証  
人某弁護士「カブツアン」商人「ルユウリ」（弟）「クル  
リヤンドスキイ」「ウエインエルマン」「ミルモル」支那人民  
會長其ノ他多數ノ市民ヲ順次逮捕ノ上殺戮セリ（及川ハ内  
話者ノ口吻ニ依リ日本軍カ起シニ至リシハ此等暴行ヲ見ル  
ニ見兼ネタルニ因ルカ如キ暗示ヲ得タルニ依リ追究シタレ  
トモ内話者ハ用心セルモノノ如ク此ノ点ニ触ルルヲ避ケタ  
リ）三月十二日日本軍ハ機関銃及爆弾ヲ以テ「パルチザン」  
ノ司令部「ネーベリ」商會ヲ攻撃シ其ノ日ハ同軍ニ有利ナ  
リシカ十三日ニ至リ「パルチザン」ノ數增加シ山砲亦來リ  
加ハルニ及ヒ同軍不利ニ陥リ一隊ハ初メ島田商店ニ立籠レ  
右ニ閑シ外務省ハ實地調査ノ為花岡大使館參事官ヲ同地ニ  
派遣スルコトニ決定シ同官ハ四月十五日軍艦三笠ニ便乗出  
發シ六月六日同官ヨリ尼港着ノ旨電報アリ一方本件ニ閑シ  
在浦潮松平政務部長ヨリ左ノ通リ電報アリタリ  
六月二日本官「メドウエジエフ」ト時局ニ閑シ懇談ノ際  
「メ」カ尼港時事ニ閑シナシタル談話何等御参考迄ニ報告ス  
尼港事件真相取調ノ為臨時政府ヨリ尼港へ出張ヲ命セラレ  
タル「クラーギン」ナルモノ「アレキサンドロフスク」ニ  
テ日本軍憲ノタメ上陸ヲ許サレサリシ為「シーシャン」号  
ニテ其ノ儘引還シ数日前帰来セシカ同人カ尼港勞兵会ヨリ  
「ア」港ニ派遣セル旧部下ノ兵卒ヨリ聽取リタル情報ヲ報  
告セル所ニ拵レハ尼港事件ハ酸鼻ヲ極メタル空前ノ不祥事  
件ニシテ其ノ張本人ハ「トリヤペーチン」及其ノ參謀長  
「ニーナ、レベジヨワ」（女）ト称スル無政府黨員ニシテ「ト」  
ノ姿ニ閑シテハ曾テ「ヤクーツク」ニ於テ同女ヲ知レル当地共

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六三四

七七〇

産党ノ一員ハ同女カ常ニ「ビステリー」的狂婦（二十四歳ニシテ常ニ男装セリト）ニシテ過激派モ殆ント持テ余シタル由ヲ語レルカ彼等ハ多数ノ囚徒上リノ露人及鉱山等ニ使用セラレタル支那人朝鮮人等ト共ニ今次ノ兇行ヲ遂ケ日

トウヲ一議長「ショルコニコフ」及助役其ノ他女学生数十名モ其ノ毒手ニ殞レタリ

彼等ハ我ガ「ゼムスト」政府ヲ以テ売国奴ト宣シ我代表者ノ「ア」港ニ来着セハ直ニ之ヲ逮捕シテ処刑ノ為尼港ニ護

送スヘキヲ命シ日本カ派遣隊ヲ尼港ニ差向ケタル由ヲ聞クヤ直ニ日本ニ対シ宣戰ヲ布告シ尼港住民ニ動員ヲ命シタル由ニテ彼等ノ行為ハ野獸的ナリ本件當時当方ニ達シタル情報ハ全ク彼等一派カ自己ニ都合ヨキ情報ナリシコト明カニナレリ何分彼等兇徒ノ蛮行ハ露國革命史上ニ著大ノ汚点ヲ刻シタルモノニシテ日本カ同港方面へ出兵セラレタルモ当然ノコトニシテ一言ノ辞モナシ而シテ本件ノ解決ハ既説ノ如ク当地方ニ於ケル問題ト全ク別個ニ解決スルコト然ルヘシ尤罪ナキ住民ニ対シテハ日本軍ニ於テモ成ルヘク穩便博愛ノ趣旨ニ拠リ取扱ハレンコトヲ切望ス云々

本官民ノミナラス露國知識及資產階級者ヲ虐殺シ「ゼムス

トウヲ一議長「ショルコニコフ」及助役其ノ他女学生

数十名モ其ノ毒手ニ殞レタリ

機密第三号

附屬書 右報告書

花岡大使館書記官ヨリ  
内田外務大臣宛

六三四 六月十一日

尼港事件顛末報告書提出ノ件

大正九年六月十二日  
（六月二十四日接受）

在尼港 大使館書記官 花岡止郎（印）

外務大臣 内田康哉殿

尼港事件顛末ハ往電第九号別電トシテ委細具報ノ筈ニ有之候處電信輻輳ノ際不得止別電ハ要領ノミトン詳細ハ茲ニ書面トシテ郵報候条御查閱相成度此段申進候 敬具

（附屬書）

尼港事件顛末報告書

（）尼港過激派ハ帝國軍隊ノ樺太及「デ」港方面活動ト共ニ漸次其ノ準備ヲナン殊ニ海上水道ハ重キヲ置キ市民ヲ鞭チ石ヲ搬ハシメ石船十数隻ヲ造リ解氷ト共ニ之ヲ航路ニ沈メ機雷ヲ沈設シ為メニ我津野少将本隊ハ今尚全部上陸出来サル有様ナルカ海軍「アムール」砲艦隊及「デ」港

スク」ヨリ下江シ目下埠頭ニアル「アムール」旅客用汽船内ニ起臥シツツアリ尤モ「チヌイラフ」要塞兵舎ハ使用シ得ルヲ以テ陸軍部隊ハ漸次之ニ収容サレ次テ司令部ハ市内ニ焼残レル唯一ノ建物タル実業学校ニ入ル予定ナルモ昨今日々白旗ヲ掲ケタル小船ニ依リ帰還スル避難民ハ家ナク食ナク而シテ其ノ多クハ過激派ノ為メニ或ハ父或ハ夫若ハ妻子ヲ殺サレ居リ總數三千位ニモ達スヘシト云

フヲ以テ今後如何ニ之ヲ措置スヘキヤ現ニ一鉄工場以外全部建物ヲ失ヒタル島田元太郎ノ如キモ旧知多キコトヲテ其ノ世話ニ當惑シ居レリ思フニ之ニ對スル當面ノ方策三アルヘシ（）ハ当地外国人及露国人中浦潮其ノ他ニ頼ル人アルモノハ速ニ出発セシムルコト（）本邦漁業家及実業家ノ來リテ業ヲ起シ此等窮難民ヲ使用救護スルコト（）ノ他ノモノハ雜役ニ就カシメ其ノ報酬トシテ食糧ヲ給与スルコト

（）爾來數日尼港モ燒ケルタケ燒ケ稍々鎮靜トナリタル結果

ヲ見ルニ使用シ得ル家屋ハ支那町十數軒ハ別トシ露人家

屋ハ四五軒ニ過キス從テ海路水雷艇又ハ小蒸氣ニ便乗シ

入市セル陸軍司令部其ノ他ハ我砲艦隊ト共ニ「ハバロフ

中村 ミツ 平石 トミ 末松 トメ  
宗 キク 上田ツゲノ 池尻 カヨ  
佐藤 サキ 佐藤 ツユ 佐藤 壮之助  
長嶋 イキ 桑原 イマ 長浜 ミセ  
重浦 トミエ 友永 キソ 川嶋セキノ  
嶋谷 タネ

要スルニ現下ノ尼港ハ露國人自ラ支配スルカ如キ政治團体ヲ組織スルコト当分望ナキノミナラス給養ニ至ル迄帝國政府ノ手ヲ借ラサルヘカラス

（）支那領事及露國人側ノ言竝新聞其ノ他ヲ綜合スルニ当地

日本守備隊ハ石田副領事其ノ他ノ斡旋ニ依リ二月二十四日過激派トノ間ニ講和ヲナシ中立ヲ守ルコトトシ自衛隊ハ武装ヲ解除スルモ過激派ハ之ヲ虐殺セサルコトトナシタルニ過激派ハ白軍武装解除後直チニ約ニ違ヒ反対党ヲ惨殺セルノミナラス三月十一日午後ニ至リテハ帝国軍隊ニ武装解除ヲ求メ然モ其ノ期限ヲ翌十二日正午トナシタルヲ以テ我海陸守備隊其ノ他ハ夜襲ヲ断行シ過激派本部ヲ包囲セントセシモ成功セス退イテ海軍部隊其ノ他ハ領事館ニ立籠リ陸軍守備隊ハ主トシテ中隊本部ニ入りタルモ領事館ハ同十二日過激派軍ノ砲撃ニ依リ火災ヲ生シ石田副領事及三宅少佐以下殉難シ少數残余ノ兵ハ陸軍部隊ニ合併セント脱出シ悉ク途上ニ倒レタルモノノ如ク又陸軍部隊ハ其ノ後モ兵營ニ依リ戦闘ヲ继续セシカ三月十七日過激派軍軍使來リ在「ハバロフスク」司令官ノ戦闘中止勸告ヲ伝ヘタルニ依リ評議ノ上三月十八日分隊長ノ命令ニ依リ一同武装ヲ解除シ爾来百三十余名ハ監獄ニ収容セラレ時々労役ニ苦使セラレシカ五月二十五日ヨリ同一十七日ニ亘リ悉ク殺戮セラレタルナリ

(四)支那領事ハ三月十二日事變三日以前我石田副領事ニ面会

### ヨリ委細報告ノ筈ナリ

(五)過激派ノ徒ハ「アムグニ」上流ニ遁逃シ又残党ハ尚「マリンスク」其ノ他ニ出没シ土民ヲ脅カシツアルモ尼港ハ昨今稍々鎮静ニ帰シ避難民徐々帰還スルモ焼趾ヲ眺メ衣食ニ窮シ只茫然タル有様ナルヲ以テ今彼等ヲシテ自ラ治メシムトスルモ不可能ノコトナルヲ以テ暫ク帝国軍隊ノ力ニ依リ秩序ヲ維持シ給養ヲナスノ外ナシ

六三五 六月十二日 在宗谷岬津野陸軍少将ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)  
中国砲艦ト尼港事件トノ関係ニ付花岡書記官  
報告ノ件

(六月十三日接受)

花岡書記官ヨリ外務大臣ヘ  
第一一号

貴電第五号ニ閲シ

(一)当方面ニアル支那軍艦江鞏以下四隻ハ昨年浦潮ヲ経テ当地ニ來リ先頃「ハバロフスク」ニ至リ「カルムイコフ」ニ砲撃セラレ尼港ニ引返セルモノナリ且下尼港上流約二時間「マゴ」ニ碇泊シ居レリ一昨日支那領事ノ本官ニ語

セルニ御真影及重要書類全部燒棄セルヲ語レリト云ヘリ又露国人側ニハ石田副領事其ノ他ハ最後ニ万歳ヲ唱ヘ火ニ投シタリ又同官ハ「バルコン」ニ出テ過激派ノ徒ニ向ヒ「トパリッジ」汝等ハ此ノ儘ニ済ムモノニアラサルヲ知レト云ヘリトノ事ヲ伝フルモノニアリ露国人技師「ウシヤコフ」ハ三月十二日頃帝国領事館ニアリシニ石田副領事ハ領事館ハ長クモ十四日迄守備シ居ルニ過激派ノ徒ニシトテ同日同技師一家ヲ領事館以外ニ避難セシメタリトノ事ニテ同領事ハ其ノ最後ヲ自觉シ居リシモノト思ハル之ヲ要スルニ石田副領事ハ凡ユル辛苦ヲ嘗メ然モ其ノ職務ニ對シテ用意周到最後ニ至ル迄間然スル所ナク之ヲ尽シ一家ヲ挙ケテ悲壯ナル最後ヲ遂ケ職ニ殉シタルモノニシテ誠ニ帝国官吏ノ龜鑑トシテ表彰スヘキモノナリ又帝国領事館ニ立籠レル石川少佐、三宅少佐及海軍部隊カ終始石田副領事ト行動ヲ共ニシ且ツ壯烈ナル最後ヲモ共ニシ帝国軍人ノ名誉ヲ維持シ好ク共同ノ精神ヲ發揮シタルハ當地海軍司令官ヨリ報告アルヘシ而シテ之ト共ニ我守備隊本部ニ籠城シ領事館焼失後尚勇戦奮闘セル帝国陸軍ノ苦心及ヒ勇敢ナル行動ニ関シテハ當地陸軍司令官

ル所ニ依レハ同艦隊ハ元来松花江ヲ遡リ哈爾賓市ノ護衛ニ任せントシタルニ前記ノ如キ顛末ニ依リ偶然尼港ニ冬籠シタルモノニテ今後ノ行動ニ関シテハ本国政府ノ訓令ナケレハ不明ナリトノ事ナリ  
(二)御來示ノ香月昌三一等卒日記三月十三日ノ項ニハ左ノ通り記載シアリ中隊百三十四名(不明)日ノ後約千米突ノ近距離ニ近ツケルト共ニ數門ノ砲及支那砲艦ヨリ砲撃ヲ受ケ兵舎ノ破壊悽惨ヲ極メ更ニ後藤大尉ノ一隊ハ其後消息全ク不明ニシテ噂ニ聞ケハ殆ント全滅ノ後殘部ハ支那ノ砲艦ニ突撃シ全滅ニ至リタリト思フ  
(三)尼港ニ於ケル支那人及他ノ家屋ハ被害頗ル尠ク過激派ハ支那商人ト取引ヲナシ支那領事モ「バルチザン」領袖ト接触ニ努メ労兵会(不明)モアルモノノ如ク又五月十二日執行委員会ニテハ支那砲艦ニ必要ナル物資ノ信用充渡ノ許可ヲ決議シ居レリ  
(四)支那領事ノ談ニ依レハ「ニコライエフスク」過激派ハ四千三百ニシテ其ノ内露国人三千朝鮮人一千及支那人三百アリ該支那人ハ先般(アムグン)地方ニ遁逃シ取締ノ方法ナシトノコトナリ

#### 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六三六

七七四

(五) 支那砲艦碇泊地（マゴ）ニハ交代ニ我砲艦一隻碇泊シ  
従テ彼等ノ行動ヲ監視シ居ル有様ナリ又支那領事ハ其ノ  
砲艦一隻ニ便乗シ「ニコライエフスク」ニ来リ（マゴ）  
ニ避難セル多数支那人ノ処分ニ関シ我司令官ニ御相談シ  
度シト申出テタルモ本官ハ「ニコライエフスク」ノ秩序  
尚危険ナルヲ以テ延期スル様勧告シ置キタリ

(六) 当地露国人中ニハ支那砲艦カ我兵ヲ砲撃セルヲ証言スル  
モノ多キモ同艦ノ機関砲ノミヲ亡ヒ尚研究ヲ要スル点ア  
ルヲ以テ目下陸海軍側ニ於テ調査中

(七) 支那領事「ワード」ノ談（脱）屢々露国内政不干渉ノ主

義ニ依リタルヲ述ヘ我「ハバロフスク」司令官モ在「ニ  
コライエフスク」日本隊長ニ露國ノ内事ニ干涉スヘカラ

サルヲ訓令セラレタルヲ「ニコライエフスク」新聞紙上

ニテ知レルヲ語リ「ニコライエフスク」過激派ノ横暴モ

支那人ニ対セサル以上何等手段ヲ取ラサリシヲ弁護セリ

右ハ本官ノ有スル情報ノ要領ニシテ之ヲ以テ支那砲艦カ

我兵ヲ砲撃セル確証アリト断スルハ尚早計ナルモ支那領

事カ其ノ砲艦四隻ノ威力ヲ（脱）三月十二日ノ不祥事件

ノ際何トカ積極的態度ヲ取ラサリシハ本官ノ頗ル遺憾ト

（六月十一日）花岡  
陸軍省ヘモ伝ヘラレ度シ

六三六 六月十六日 外務省公表

#### 尼港守備軍領事館員及多数居留民力過激派軍 ニ依リ慘殺セラレタル件

外務省公表

本年三月尼港ニ於テ我守備軍過激派ノ襲撃ヲ受ケテ殆ント  
全滅シ同時ニ領事始メ数百名ノ在留邦人慘殺ノ厄ニ遭ヒタ  
ル趣ノ報道ニ接スルヤ帝国政府ニ於テハ事態ノ真相ヲ明カ  
ニシ併セテ生存者ヲ救援センカ為メ在西比利亞帝国領事館  
並ニ軍憲ニ訓令シ露國官憲側トモ交渉ヲ遂ケシメ百方手段  
ヲ講シタルモ結局本件善後ノ方法ハ不敢救援軍ヲ直接尼

スル所ニシテ露国人中同領事ヲ評シテ怯懦ナリト云フモ  
ノアルハ其ノ権利アルヤ否ヤハ別トシテ國際道德殊ニ同  
人力我石田領事トハ懇意ノ間柄ナリシニ顧ミ本官モ同感  
ナリ以上ノ事実ニ基キ支那砲艦ニ対スル態度ニ閑シテハ  
当地陸海軍共充分研究中ナルモ其ノ大体ノ方針ニ付心得  
方何分ノ義御回訓アリタシ

港ニ派遣スルノ外ナキ事明瞭トナリタルヲ以テ先ツ一部ノ  
軍隊ヲ北樺太亜港ニ派シ解氷ヲ待ッテ尼港ニ進マシメント  
セルハ曩ニ公表セル所ナルカ其後尼港方面ノ情勢ニ顧ミ右  
派遣軍ノ兵力ヲ増加シ海軍亦第三艦隊並ニ臨時派遣隊ヲ以  
テ相協同シ六月三日ヲ以テ我軍ハ遂ニ尼港ニ到達セリ

派遣隊尼港到着ト共ニ政府ハ銳意事件真相ノ闡明ニ努メタ  
ルモ過激派軍ハ我軍到着前尼港全市ニ火ヲ放チテ逃走シ邦  
人ノ生存者一人モナク露人又多く同市ヲ去リタルヲ以テ的  
確ナル手掛リヲ得ル事甚ダ困難ナルモ今日迄ニ得タル諸方  
面ノ情報ヲ綜合スルニ

過激派軍ハ無賴ノ露、支、鮮人等ヲ駆リ集メ三月十二日ヨ

リ十四日ニ亘リ大挙シテ我守備軍ヲ攻撃シ殆ントコレヲ鑿  
殺シ其際我領事館ハ焼失シ副領事石田虎松及家族ヲ始メ多

数ノ在留邦人守備隊ト運命ヲ共ニシタルコト並ニ右戦闘後  
生残レル約百三十名ノ邦人（多ク老幼傷病者）ハ「チュレ  
ムヌイ」街ノ獄舎ニ拘禁セラレタリシガ五月二十五日我

援軍ノ接近ニ先チ過激派軍ノ遁送スルニ際シ悉ク其慘殺ス  
ルトコロトナレルコトハ略確実ナリト認メラル  
遭難居留民ノ数ハ明確ナラザルモ大正八年六月末ノ調査ニ

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六三七

スル所ニシテ露国人中同領事ヲ評シテ怯懦ナリト云フモ  
ノアルハ其ノ権利アルヤ否ヤハ別トシテ國際道德殊ニ同  
人力我石田領事トハ懇意ノ間柄ナリシニ顧ミ本官モ同感  
ナリ以上ノ事実ニ基キ支那砲艦ニ対スル態度ニ閑シテハ  
当地陸海軍共充分研究中ナルモ其ノ大体ノ方針ニ付心得  
方何分ノ義御回訓アリタシ

（六月十一日）花岡

陸軍省ヘモ伝ヘラレ度シ

六三六 六月十六日 外務省公表

尼港守備軍領事館員及多数居留民力過激派軍  
ニ依リ慘殺セラレタル件

外務省公表

本年三月尼港ニ於テ我守備軍過激派ノ襲撃ヲ受ケテ殆ント  
全滅シ同時ニ領事始メ数百名ノ在留邦人慘殺ノ厄ニ遭ヒタ  
ル趣ノ報道ニ接スルヤ帝国政府ニ於テハ事態ノ真相ヲ明カ  
ニシ併セテ生存者ヲ救援センカ為メ在西比利亞帝国領事館  
並ニ軍憲ニ訓令シ露國官憲側トモ交渉ヲ遂ケシメ百方手段  
ヲ講シタルモ結局本件善後ノ方法ハ不敢救援軍ヲ直接尼

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六三八

入二付報告ノ件

七七六

爆破セラレ苟モ持運ヒ難キモノ又ハ日本軍ニ利用セラレ得  
ヘキモノハ總テ吾人之ヲ破壊焼却シタリ今後日本軍市ニ進

入スルトモ彼等ハ市及要塞ニ一片ノ灰燼ヲ認メ得ルニ過キ

サルヘシ吾人ハ敗北ス失望スルモノニアラス不日所信ヲ貫

徹シ依然反対党ト金力トニ飽迄抵抗シ最後ノ勝利ヲ期セん

吾人ハ慘刻仮借ナキ手段ヲ以テ日本軍及社会革命党タル

「ゼムストウヲ」即チ壳国奴ニ当ラン吾人ハ總テ為サン

ト欲スル所ヲナシ最後迄踏止マレリ今ヤ日本ノ大艦隊ハ河

海兩方面ヨリ市ニ迫リ来レリ最早市ヲ維持スルコト不可能

トナレリ吾人ハ事変ニ対スル罪ヲ何人ニ帰セシムヘキカラ

知ラサルモ極東ノ主權カ「ゼムストウヲ」ニ移ラサリシ

ナランニハ吾人ノ自由事業ハ斯クマテニ破壊セサリシナル

ヘク「ゼムストウヲ」ノ愚策ハ日本トノ戦争ヲ余儀ナク

セシメタリ吾人ハ勞農界ヲ毒スル極東「ゼムストウヲ」

及日本軍ノ帝国主義的侵害行動ニ対シ飽クマテ武器ヲ棄テ

サルヘシ

六三八 六月十七日

在浦潮松平政務部長ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

尼港派遣日本軍ニ対スル中傷記事ノ取締方申

註 「トリヤピーチン」ノ檄文ハ前掲ニ付別電第二七五号ヲ省略ス

リ破壊スルコトナリタリ

浦潮臨時政權ヨリ尼港へ救援調査隊派遣方申

出ニ閑シ回答ノ件

官房機密第八〇六号

大正九年六月二十一日

海軍次官 棚内曾次郎(印)

浦潮ヨリ尼港救援調査隊派遣ノ件

(六月二十二日參謀本部ヨリ外務省接受)

今回当地ニ司令部ヲ設置セル海軍吉黒江防司令王崇文少將

八日小官ヲ訪問シ著任挨拶ヲナシ且其部下ニ入ルヘキ三隻

ノ砲艦ハ尼港ニ止マリ未タ遡航ノ運ニ至ラス彼等ハヨモヤ

尼港ノ残虐事件ニ参加セリトハ信シ得サルモ貴見如何ト問

ヒタルヲ以テ予モ日支ノ国交上該事件ニ貴國軍艦ノ參加セ

シ報道ノ虚偽ナランコトヲ望ムモノナリ又貴官又ハ貴國力

參加ヲ命シタリトハ信シ能ハサルモ先キノ者心得違ニ

テ妄動シタル事ヲ絶無ナリトモ信シ難シ要スルニ事ハ重大

ナリ調査モ進行中ナル可ケレハ其内真偽判明セント答ヘ置

ケリ

軍、次官済ミ

六四〇 六月二十一日

柄内海軍次官ヨリ

埴原外務次官宛

一四

尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ閑スル件

六三九

六四〇

七七七

第二七六号

(六月十八日接受)

我カ「ニコライエフスク」派遣軍ノ活動ニ閑シ此程來当地

ニ於テ種々中傷的風説行ハレ昨今新聞ハ西比利亞地方新聞

ノ伝ヘタル(在「オムスク」西比利亞電報通信社發電)尼港

ノ焼却ハ我海軍ノ砲撃ニ依ルトノ捏造説ヲ掲クルアリ臨時

政府カ同港ニ委員ヲ派遣セントスルヲ我軍カ恰モ故意ニ妨

クルカ如ク報道スルニ至リタルニ依リ本官ハ不取敢「メド

ベジョブ」ニ對シ本件ノ如キ明白ナル事實ニ對シ責任回避

ノ為斯カル根拠ナキ記事ヲ新聞ニ掲クルコトガ甚タ不都合

ニシテ他日彼我ノ關係ニ及ホスヘキ悪影響ヲ指摘シテ嚴重

ナル警告ヲ与ヘ且之力取締方ヲ要求シ置キ一方當部ヨリ之

等記事ノ取消文ヲ各新聞ニ掲ケシムルコトトナシ置キタル

カ「メ」ハ恐縮シテ取締ニ注意スヘキ旨ヲ述ヘタルカ本件

ニ閑シテハ幸ヒ別電(註)第二七五号ノ通り「トリヤピーチン」

ノ檄文「ウオリヤ」紙ニ掲載セラレタルヲ以テ同港焼払行

為ハ彼ノ行為ナルコトトナリタリ

#### 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六四

七七八

(四)水路及陸上ノ危険ニ関シテハ保証セサルコト但シ日本軍憲ニ於テハ可及的援助ヲ与フヘシ  
右依命回答ス

尚本回答ハ海軍限ニ有之陸軍ニ対シテハ一応陸軍省ニ御協議相成様致シ度

(欄外註記)  
「陸軍ニテモ同意、芳賀少佐ヨリ電話、七月三日」

六四一 六月二十三日 陸軍省公表

##### 尼港事件ノ顛末

目 次

第一 尼港守備隊派遣ニ至ル迄ノ情況

第二 尼港守備隊到著ヨリ大正八年結氷期迄ノ情況

第三 大正八年結氷期ヨリ尼港救援隊派遣ニ至ル迄ノ情況

第四 尼港救援隊ノ派遣及尼港占領

第一 尼港守備隊派遣ニ至ル迄ノ情況

ニコライエフスク  
尼港ハ黒竜江口ニ位置シ人口一万五千余該方面ニ於ケル漁業ノ中心地ニシテ邦人ノ發展著シク大正七年ニハ我居

勢アリタルヲ以テ軍事行動上並内外官民保護ノ為陸戦隊上陸ノ必要ヲ認メ第三艦隊司令長官有馬中將ハ第三水雷戦隊司令官ニ命シ九月九日陸戦隊ヲ尼港ニ揚陸セシメ該隊ハ何等抵抗ヲ受クルコトナク「チヌイラフ」砲台、過激派軍本部及兵営ヲ占領シテ武装解除ヲ行ヒ独壇俘虜ハ之ヲ我軍ニ収容シタリ  
陸戦隊上陸後一般露人及在留外人等何レモ衷心我軍ニ信頼シ秩序漸次恢復シテ市内極メテ平静ニ帰セリ第三水雷戦隊ハ進テ黒竜江系水路及沿岸ノ保安ニ任シ以テ陸軍トノ協同動作ニ從事セリ

歩兵第二十四聯隊第二大隊（第六、第七中隊及大行李缺）ハ九月十九日哈府出発黒竜江ヲ下航シ途中敵ニ遭遇スルコトナク二十四日早晚無事尼港著陸戦隊ト交代シテ守備ニ任シ又同地ト外部トノ通信ハ海軍之ヲ担任スルニ決ス時恰モ薩哈哩州自治府長ヨリ無線電信所設置ノ請願アリタルヲ以テ海軍ハ之ヲ受理シ在来ノ無線電信所ヲ修理シ臨時海軍無線電信隊ヲ配備シテ通信ニ任セリ

我艦隊ハ十月中旬結氷直前尼港方面ヲ撤退ス又臨時海軍派遣隊司令官中村少将ハ押収露國河用砲艦ヲ率キ哈府ニ冬營セリ

第二 尼港守備隊到著ヨリ大正八年結氷期迄ノ情況

七年八月第十二師団長隸下部隊ノ烏蘇里鉄道沿線ノ敵ヲ席捲シ九月四日哈府ヲ占領スルヤ敵ハ急遽黒竜州方面ニ撤退スルト共ニ一部ヲ以テ黒竜江下流方面ニ遁走セシヲ以テ益尼港ニ占拠シテ黒竜江ノ死命ヲ制スルノ必要ヲ生シタルト同方面ニ行動中ノ海軍部隊ハ結氷前撤退セラルヘキヲ以テ浦潮派遣軍司令官ハ其ノ任務ニ基キ哈府ヨリ一部隊ヲ尼港ニ派遣スルニ決シ九月十三日第十二師団長ニ対シ大隊長ノ指揮スル歩兵一中隊ヲ以テ同地ノ守備ニ任シ少クモ來春解氷期ニ至ル迄之ヲ繼續スヘキヲ命セリ

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六四

留民四百余ヲ算シ六月ヨリ十月ニ至ル解氷期間此ノ地ニ集ル者頗ル多シ

独壇両国ノ勢力東漸シ過激派軍ヲ使嗾セル独壇俘虜ノ對敵企図極東ニ及フヤ七年七月帝国ハ米国ト共ニ「チエック、スローヴィック」軍救援ノ目的ヲ以テ第十二師団長隸下部隊ヲ浦潮方面ニ派遣スルニ決シ又極東露領沿海及附近海面ヲ警戒シ所在帝國及与國臣民ヲ保護スルノ目的ヲ以テ八月上旬先ツ第三水雷戦隊ノ一部ヲ尼港ニ、次テ第三艦隊ノ全カヲ同方面ニ派遣セリ

第三水雷戦隊司令官田所少将ハ八月二日軍艦千早及第五驅逐隊ヲ率キテ尼港ニ到リ専ラ平和的手段ニ依テ任務ノ遂行ニ努メタリ

八月中旬尼港方面ノ過激派ハ活動ヲ始メ反過激派トノ紛争ヲ惹起スルニ至レルヲ以テ尼港市民ハ我軍ニ依テ治安ノ維持ヲ切望シ内外居留民モ速ニ我海軍陸戦隊ノ揚陸ヲ請願シ加之独壇俘虜ヲ混入セル尼港過激派軍ハ哈府過激派軍ト策応シテ兵器弾薬及軍需品ヲ哈府方面ニ輸送シ烏蘇里沿線ニ於テ我陸軍ト対抗セル過激派軍ヲ援助シツツアルコト判明シ又黒竜江用砲艦ヲ以テ反抗的行為ニ出テントスルノ形

#### 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六四一

七八〇

シメ在来ノ尼港民兵亦新ニ極東司令官タル「ホルワット」

次テ「ロザノフ」ノ直属トナリ其ノ編成ヲ改メテ尼港支隊ト称シ我守備隊ト親善ノ関係ヲ保持シ相協力シテ尼港ノ治安維持ニ任シ以テ八年春季ニ至ル

八年五月沿、黒両州ニ在ル第十二師団カ新ニ到著セル第十

四師団ト交代スルヤ歩兵第二聯隊第三大隊（本部及第十一、機

少佐石川正雅）新ニ尼港守備隊トナリ黒龍江ヲ下航シ五月

二十七日尼港著六月一日引繼ヲ了シ旧守備隊ハ六月十日同

地乗船内地ニ帰還ス

新守備隊交代後モ尼港方面ノ情況ハ依然平穏ニ経過シ時ニ

「マリンスク」附近ニ「バルチザン」ノ蠢動スルモノナキニアラサリシモ其ノ勢力微弱ニシテ何等憂フヘキ兆候ヲ認

ムルニ至ラス又當時尼港ヲ起点トシ黒龍江水系ニヨリテ後貝加爾黒龍州守備部隊ニ対スル糧秣補給ヲ実施セシモ何等

故障ヲ見シテ第二年ノ結冰期（当年ニ於テハ十一月上旬黒龍江全部結冰ス）ニ入レリ

此ノ間支那國淺吃水砲艦隊（砲艦三、運送船一）ハ長江ヨリ尼港ニ廻航シ哈市ニ向ヒ黒龍江ノ溯江ヲ試ミタルモ十

月下旬哈府下流ニ於テ露軍ノ拒ム所トナリ尼港ニ帰航シ同

地ニ冬営セリ

我海軍ハ解氷期間再ヒ第三艦隊主力及第三水雷戦隊ヲ尼港方面ニ派遣シテ警備ニ任シ又臨時海軍派遣隊ハ哈府ヲ根拠トシ黒龍江系上流水路ニ活動シテ陸軍トノ協同作戦ニ從事セリ

#### 第三 大正八年結氷期ヨリ尼港救援隊派遣ニ

大正七年以來「コルチャック」政府ハ列國ノ支持ヲ受ケ基礎漸次鞏固ヲ加ヘ其ノ勢威全西伯利ヲ圧シ將ニ列國ノ承認ヲ得ントスルノ状勢ニアリシカ八年晚秋ニ至リ「ウラル」

戰線ニ於ケル戰況反過激派軍ノ不利ニ帰スルヤ延テ「コルチャック」政府ノ動搖ヲ來シ十一月十五日遂ニ「オムスク」

撤退ノ余儀ナキニ至リ爾米西伯利ノ政情ハ漸次悪化シ極東露領各地ニ於テモ亦過激派ノ擡頭ヲ來セリ

九年一月上旬「コルチャック」政府崩壊シ情況益々險惡ヲ加フルヤ當局ハ同月中旬第十三師団ノ主力ノ派兵ヲ行ヒ該部隊ハ二月中旬ヲ以テ浦潮ニ上陸ヲ終レルモ露國革命派ノ妨害ニ依リ北送ヲ實施スルヲ得ス四月四日武装解除事件ノ後始メテ輸送スルヲ得タル実情ナリ

一月下旬ヨリ二月上旬ニ至リ沿、黒両州各地ニ於テ政變相踵キ尼港方面亦其ノ余波ヲ受ケ情況ハ俄然一転シ過激派ノ勢力ハ尼港附近一帯ニ及ヒ同市内ノ商業停頓シ流言蜚語盛ニシテ人心动摇ス我守備隊ハ尼港ニ於テ獲タル野砲二門ヲ以テ臨時砲兵小隊ヲ編成シ日露自衛團及露軍ト協力シテ一意住民ノ保護ニ任シタリ

一月二十四日及同二十六日尼港駐在三宅海軍少佐及石田副領事ヨリ海軍々令部長及外務大臣ニ對シ陸戰隊派遣ノ意見具申アリタルヲ以テ當局ハ救援隊派遣ノ計畫ヲ進メタリ

過激派軍ハ益々尼港ニ迫リ一月二十八日遂ニ「チヌイラフ」砲台ヲ占領シ二月五日前八時同砲台ノ敵ハ我無線電信所附近ニ対シ砲擊ヲ開始シ砲彈ノ構内ニ落下スルモノ多ク同地附近ニ在リシ我守備隊ノ一部（歩兵六十名、機関銃一）モ亦五日早朝ヨリ過激派軍ノ攻撃ヲ受ケ敵ハ十二珊加農二門及五十七密速射砲二門ヲ以テ正確ナル射擊ヲ実施シタル為兵舎破壊セラレ同守備隊ハ已ムナク同地ヲ撤シ六日午後

六時海軍無線電信隊（海軍少佐石川光儀外隊員四十二名）ニ合シ協力シテ電信所ノ掩護ニ努メタルモ敵ハ更ニ其ノ砲兵陣地ヲ進メ砲擊ヲ繼續シタル為遂ニ電信室ハ破壊セラレハナリ

兵陣地ヲ進メ砲擊ヲ繼續シタル為遂ニ電信室ハ破壊セラレハナリ

我海軍ハ尼港ノ情況悪化セルト樺太<sup>アムナンドロッカウ</sup>港亦形勢險惡ナラントスルニ對シ同方面ノ在留邦人ヲ保護シ且尼港救援隊上陸ニ閑シ韓靼海峡水原視察ノ目的ヲ以テ二月上旬軍艦三笠及見島（碎氷裝置ヲ有ス）ヲ亞港方面ニ行動セシメ両艦ハ流水ノ危險ヲ冒シ北上スルニ從ヒ堅氷ヲ破リ辛ウシテ二月十五日亞港南方約二十浬ノ「アグネオ」沖ニ達シタルモ遂ニ堅氷ニ閉サレテ北上スルヲ得ス取敢ヘス三笠ヨリ万難ヲ排シ數名ヲ派シテ亞港官憲ト平和的折衝ニ依テ居留民ノ安全ヲ図リ又見島ヲシテ「デカストリー」港方面ヲ偵察セシメタル處韓靼海峡中央ニ於テ一帶堅氷ノ閉斯所トナリ極力碎氷ニ努メタルモ前進スルヲ得ス更ニ三笠ヨリノ飛行機偵察ニ依リ該方面ハ一面ノ堅氷ニシテ艦船ノ近接不可能ナルヲ知リ得タリ

亞港附近亦厚サ約二尺ノ氷原ヲ以テ蔽ハレ且該氷原ハ一時間約五浬ノ流速ヲ以テ移動シツツアリテ氷面所々ニ不時ノ大鱗裂ヲ生シ是レ亦近接スルヲ得ス亞港以南ハ沿岸一帯ニ急峻ニシテ道路ナク行軍ハ樺太中央道路ニ依ルノ外ナキヲ以テ救援軍ノ樺太ニ於ケル上陸地點ハ邦領樺太ノ久春内ヲ以テ最北トシ同地ヨリ尼港迄氷雪約二百里ニシテ其ノ間利

用シ得ヘキ村落ナク宿營給養等ノ關係上諸兵連合ノ部隊ヲ進ムルコト殆ト不可能ナリ依テ尼港救援隊派遣ノ計画ハ遂ニ延期ノ已ムヲ得サルニ至リ小樽ニ於テ乗船ヲ開始シタル尼港派遣隊ヲ一時旭川ニ於テ待命ゼンムルニ至レリ之ヨリ先二月二十一日尼港方面過激派軍指揮官ハ哈府無線電信所ニ宛テ尼港日本守備隊ハ全ク外部トノ通信連絡杜絶セルヲ以テ戰闘中止ニ閑シ露國無線電信ヲ通シテ同守備隊ニ對シ適當ノ指示又ハ訓令ヲ与ヘラレンコトヲ提議スル旨電報セリ

右電報ノ通報ヲ受クルヤ陸軍當局ハ浦潮派遺軍ニ對シ「尼港ニ於ケル兩軍ノ衝突ハ過激派軍カ濫リニ我守備隊ヲ攻擊シタルニ基キ我軍ハ單ニ正當防衛上之ニ対抗シタルニ過キス将来日本軍及居留民ニ損害ヲ生セハ其ノ責過激派軍ニアリ過激派軍ハ先ツ其ノ攻擊ヲ中止シ其ノ無線電信ヲ我守備隊ノ使用ニ供シ以テ守備隊ト哈府山田旅團長ト交渉シ得セシムルヲ要ス」トノ要旨ヲ以テ尼港過激派軍指揮官ニ回答スヘキ旨ヲ指示ス

第十四師團長ハ二月二十三日尼港守備隊長ニ對シ過激派軍

カ我居留民ヲ害シ若ハ我ニ對シ攻擊態度ヲ採ラサル限り從

來ノ關係ニ顧慮スルコトナク平和ノ解決ニ努ムヘキ旨過激派軍無線電信ニ依リ命令セリ

二月二十五日尼港石川守備隊長ヨリ同月二十三日附ヲ以テ過激派軍無線電信ニ依リ「二十三日附第十四師團長命令受領依テ海軍無線電信隊ト協議シ對敵行動ヲ中止ス將校及下士卒無事健全ナリ」トノ電報アリ

次テ三月三日ニ至リ尼港石川守備隊長及尼港方面過激派軍指揮官連名ヲ以テ在哈府山田旅團長宛（二月二十八日午後五時白水將軍ノ命令通り講和ヲ締結シ彼我國際法ヲ完全ニ遵守シ概シテ領土内ニ於テ将来日本軍及露國聯邦共和国赤衛軍並「バルチザン」間ニ衝突ナカラソコトヲ希望ス」トノ電報アリ

三月十日ニ至リ二月六日以來音信不通ナリシ我尼港無線電信隊長ヨリ海軍々令部長宛左ノ電報アリ

「二月二十四日赤衛軍ヨリ今後ノ犠牲ヲ避クル為協商ヲ遂ケタキ旨申込アリ同日ヨリ休戦二十八日午後協商成立ス本隊ハ陸軍ト協議ノ上我領事館護衛ヲ担任シ赤衛軍ノ入市ニ先チ二十七日ヨリ隊員全部領事館ニ移リ引続キ警戒シ居レリ二十九日赤衛軍入市勞農政府ノ樹立ヲ見ル各

戒シ居レリ

海軍當局及浦潮派遺軍等ニ於テモ無線電信其ノ他ノ方法ヲ以テ通信連絡ヲ試ミタルモ悉ク成功セス

三月十四日哈府革命軍司令官ヨリ在哈府山田旅團長ニ對シ尼港市内ニ於テ十一日夜ヨリ再ヒ日露両軍間ニ戰闘行動ヲ

#### 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六四一

七八四

開始セリ依テ互ニ戰闘中止ニ尽力シタルキ旨申出タルヲ以テ翌十五日哈府両国代表者評議ノ上連名ヲ以テ尼港両軍指揮官ニ戰闘中止勸告ノ電報ヲ発送シ且両軍代表者ノ派遣ヲ協定セシモ後ニ至リ右派遣ハ其ノ生命及通信ニ関シ過激派軍ヨリ保障セラレサルノ故ヲ以テ之ヲ中止セリ

右ノ外務、陸海軍当局並出先官憲ハ所在露國側ニ反覆交渉シ極力尼港方面ノ情況ヲ探査シ且居留民ノ安全ヲ確保スルノ途ヲ講スルニ努力シタルモ遂ニ目的ヲ達セス而シテ四月ニ入り沿海州地方ノ情況益々混亂ニ陥レリ

#### 第四 尼港救援隊ノ派遣及尼港占領

我當局ハ諸情報ヲ綜合シ尼港ノ事態甚々重大ナルヲ知リ更ニ確実ナル情報ヲ迅速ニ蒐集シ且同方面ノ解氷ヲ見ハ直ニ進発セシムル目的ヲ以テ先キニ待命セシメタル尼港派遣隊ヲ取敢ヘス亞港ニ派遣スルニ決シ該隊ハ軍艦三隻、見島掩護ノ下ニ四月十九日小樽ヲ発シ二十二日亞港ニ上陸セリ

同地「パルチザン」ハ我軍上陸ト共ニ遠ク遁走シ其ノ他ハ白旗ヲ掲ケテ我ヲ迎フ派遣隊ハ該地方ノ治安ヲ維持シ且救恤施療ヲ行ヒテ露民ノ窮状ヲ救ヒ該方面極メテ平穩ナリ

派遣隊長多門大佐ハ四月二十三日亞港ニ於テ捕虜トセル極

東「パルチザン」總指揮官ト称スル「グバーノフ」ヲ介シ

尼港過激派軍司令官「トリヤピーツイン」ニ対シ生存セル日本軍人及在住邦人ノ官氏名ヲ問合セタルニ二十四日「トリヤピーツイン」ヨリ全部ノ捕虜及降参セル住民ハ存命ニシテ俘虜ハ一般規定ニ拠リ管理シアリ國際法ニヨリ姓名及數ハ追テ報道スヘキ旨ノ返電アリ然レトモ爾後數次ノ督促ヲナシタルモ回電ヲ得ルニ至ラス

爾來尼港方面ノ情況ヲ諜知シタル結果ニ依レハ同地附近過激派軍ノ兵力頗ル優勢ナルニ鑑ミ更ニ兵力ヲ増派スルノ必要ヲ認メ新ニ北部沿海州派遣隊（司令官津野少将）編成セラレ海軍亦第三艦隊（司令長官野間口中將）主力及第三水雷戰隊（司令官桑島少將）ヲ派遺シ哈府ヨリ下航セル國分中佐ノ指揮スル歩兵二中隊（石川大隊ノ半部）並中村少將ノ指揮スル臨時海軍派遣隊ト共ニ黒龍江方面及海面ヨリ相協同シテ尼港ニ向ヒ前進シ六月三日ヲ以テ同港ヲ占領スニ港過激派軍ハ我軍ノ前進ヲ察知スルヤ黒龍江ノ上下流水道ヲ閉塞シテ我行動ヲ妨害シツツ一方予メ撤退準備ヲナシタルカ如ク先ツ無慘ニモ我生存者ヲ悉ク慘殺シ又強制的ニ人民ヲ尼港以外ニ撤退セシメタル後全市ニ放火シ之ヲ灰燼

ニ帰セシメ遁走セリ之ヨリ先我派遣隊ハ我生存者ノ救援ニ關シ種々考慮ヲ廻ラシタルモ交渉スヘキ機関ナク已ムヲ得ス到著前海軍飛行機ニ依リ我意ノ存スル所ヲ明ニシ救援ノ目的ヲ達成スルト共ニ生存者ノ災厄ヲ未然ニ防止スルノ策ニ出テシモ遂ニ何等ノ效果ヲ見ル能ハサリキ如斯ニシテ領事官ヲ始メ守備隊將卒三百三十余名海軍將卒四十余名居留民約三百五十名ハ悉ク難ニ殉シ一名ノ生存者ヲモ救出シ得サリシハ真ニ遺憾トスル所ナリ

尼港過激派軍ノ兇暴ナル独リ邦人ヲ殺戮セルノミナラス同地及其ノ附近ニ於テ毒刃ニ斃レタル露國人亦多数ナリ

派遣隊上陸後附近ノ山中ニ隠匿セル者及附近諸部落ニ避難セル露民ハ続々尼港ニ帰来シ我軍ノ保護ヲ仰ケルモ一家離散ノ厄ニ遭ヒ住ムニ家ナク真ニ悲惨ヲ極メ居レリ

#### 尼港事件ニ對シハルビンニ於ケル反響報告ノ件

六四二 六月二十三日 在ハルビン石坂陸軍少将ヨリ

福田參謀次長宛（電報）

哈市特第四九四号

（六月二十八日參謀本部ヨリ外務省接受）

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ關スル件 六四二

七八五

東「パルチザン」總指揮官ト称スル「グバーノフ」ヲ介シニ港過激派軍司令官「トリヤピーツイン」ニ対シ生存セル日本軍人及在住邦人ノ官氏名ヲ問合セタルニ二十四日「トリヤピーツイン」ヨリ全部ノ捕虜及降参セル住民ハ存命ニシテ俘虜ハ一般規定ニ拠リ管理シアリ國際法ニヨリ姓名及數ハ追テ報道スヘキ旨ノ返電アリ然レトモ爾後數次ノ督促ヲナシタルモ回電ヲ得ルニ至ラス

爾來尼港方面ノ情況ヲ諜知シタル結果ニ依レハ同地附近過激派軍ノ兵力頗ル優勢ナルニ鑑ミ更ニ兵力ヲ増派スルノ必要ヲ認メ新ニ北部沿海州派遣隊（司令官津野少将）編成セラレ海軍亦第三艦隊（司令長官野間口中將）主力及第三水雷戰隊（司令官桑島少將）ヲ派遺シ哈府ヨリ下航セル國分中佐ノ指揮スル歩兵二中隊（石川大隊ノ半部）並中村少將ノ指揮スル臨時海軍派遣隊ト共ニ黒龍江方面及海面ヨリ相協同シテ尼港ニ向ヒ前進シ六月三日ヲ以テ同港ヲ占領スニ港過激派軍ハ我軍ノ前進ヲ察知スルヤ黒龍江ノ上下流水道ヲ閉塞シテ我行動ヲ妨害シツツ一方予メ撤退準備ヲナシタルカ如ク先ツ無慘ニモ我生存者ヲ悉ク慘殺シ又強制的ニ人民ヲ尼港以外ニ撤退セシメタル後全市ニ放火シ之ヲ灰燼

東「パルチザン」總指揮官ト称スル「グバーノフ」ヲ介シニ港過激派軍司令官「トリヤピーツイン」ニ対シ生存セル日本軍人及在住邦人ノ官氏名ヲ問合セタルニ二十四日「トリヤピーツイン」ヨリ全部ノ捕虜及降参セル住民ハ存命ニシテ俘虜ハ一般規定ニ拠リ管理シアリ國際法ニヨリ姓名及數ハ追テ報道スヘキ旨ノ返電アリ然レトモ爾後數次ノ督促ヲナシタルモ回電ヲ得ルニ至ラス

爾來尼港方面ノ情況ヲ諜知シタル結果ニ依レハ同地附近過激派軍ノ兵力頗ル優勢ナルニ鑑ミ更ニ兵力ヲ増派スルノ必要ヲ認メ新ニ北部沿海州派遣隊（司令官津野少将）編成セラレ海軍亦第三艦隊（司令長官野間口中將）主力及第三水雷戰隊（司令官桑島少將）ヲ派遺シ哈府ヨリ下航セル國分中佐ノ指揮スル歩兵二中隊（石川大隊ノ半部）並中村少將ノ指揮スル臨時海軍派遣隊ト共ニ黒龍江方面及海面ヨリ相協同シテ尼港ニ向ヒ前進シ六月三日ヲ以テ同港ヲ占領スニ港過激派軍ハ我軍ノ前進ヲ察知スルヤ黒龍江ノ上下流水道ヲ閉塞シテ我行動ヲ妨害シツツ一方予メ撤退準備ヲナシタルカ如ク先ツ無慘ニモ我生存者ヲ悉ク慘殺シ又強制的ニ人民ヲ尼港以外ニ撤退セシメタル後全市ニ放火シ之ヲ灰燼

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六四三 六四四

七八六

ノ輿論ハ露国内政不干涉、撤兵ニ傾キ居リシモ尼港事件以  
來論調一変シ右事件ニ関スル報復ヲ叫フノミナラスニ重政  
策ノ臨時政府ヲモ排斥スルニ至レリト自己ニ有利ナル如ク  
利用シツツアリ但シ識者中ニハ同情者多ク「サモイロブ」  
中将ノ如キハ當機関ニ弔意ヲ表シ来レリ又支那人ハ目下沈  
黙ノ態度ヲ取ルモ内心頗ル恐怖ヲ感シアルモノノ如ク東清  
鉄道ニ於ケル日本支那開戦説ノ如キモ尼港事件ヲ利用シテ  
日本、支那ヲ離間セントスル一部ノ宣伝ニヨリ起リタルモ  
ノナルヘシ来ル二十七日ヲ期シ陸軍側、領事及民会側ト協  
同シ一大遭難者追悼会ヲ開会セントス其ノ反響如何ハ追テ  
報告セン

六四三 六月二十四日 浦潮派遣軍參謀長（ヨリ）  
福田參謀次長宛（電報）

尼港事件ニ關シ浦潮ニ於ケル反響ニ付報告ノ件

浦參謀第五一四号

（六月二十八日參謀本部ヨリ外務省接受）

尼港事件ニ關スル輿論 当地方有識者階級ノ多クハ黙シテ

多ク語ラサルモ尼港虐殺事件ノ責任ハ當然負担スヘク日本

動ヲ共ニシ大部分戰死シ残余ノ者ハ五月二十五日頃監獄ニ  
在リタル軍人ト共ニ虐殺セラレシモノト認ム隨ツテ生存邦  
人ハ往電第一号別電ノ通り支那砲艦ニ避難セル婦人連十四  
名以外ハ數日前当地上流百六十露里ノ地点ニテ我陸海軍ノ  
為救ヒ出サレシ大工職山本糸三郎夫婦アルノミ日本商人二  
人「ケルビ」地方ニ連レ行カレ其後ノ情報ハ目下之ヲ確ム  
ルニ由無シ

委細郵報済

六四五 六月二十五日

浦潮派遣軍參謀長（ヨリ）  
福田參謀次長宛（電報）

尼港ヲ襲撃セシ「パルチザン」部隊ノ其後ノ動向並同部隊ニ對スル黒竜政權ノ態度ニ關スル件

ル件

浦參謀第五一五号

（六月二十八日參謀本部ヨリ外務省接受）

尼港ヨリ「アムグン」河ヲ經テ遁走セシ過激派五千ハ「セ  
レンジヤ」河上流ニ現ハレ其大部ハ「ストイバ」（武市上  
流四百露里）ニ到着セリ之カ為武市ヨリ汽船四艘ニ物資ヲ  
満載シ「セレムジャ」上流ニ派遣セリ該過激派軍中ニハ妻子

ノナルヘシ

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ關スル件 六四五 六四六

ノ出兵モ無理カラヌ事ト信シタルカ如キモ過激派新聞ハ舉

テ日本軍ノ無用ノ駐屯ニ基ク自然ノ結果ナリト論シ且日本  
軍モ極東各地ニ於テ屢々殘虐ヲ敢テシ其數ニ於テ大ナルヲ  
以テ敢テ露人ノミヲ罪スルハ不当ナリト論シ愚昧ナル労働  
者階級等ニアリテ之ヲ信スルモノヲ生セシ如キモ目下活動  
ノ中心タル有識階級ハ相當ノ責任ヲ負担スルコトヲ辞セサ  
ル如ク觀察セラル然レトモ此際尼港事件ヲ口実トシ從来日  
本ノ宣明ニ反シ新ニ沿海州ノ駐兵ヲ宣言シ以テ領土的野心  
ヲ有スルカ如キ態度ヲ取ランカ忽チ過激派勞農黨及「パル  
チザン」ノ蹶起ヲ來シ過去ヨリモ更ニ一層ノ混亂状態ニ陥  
ルコトナキヤヲ保セスト觀察ス

六四四 六月二十五日 在宗谷岬津野陸軍少將（ヨリ）  
陸軍省副官宛（電報）

尼港事件ニ於ケル居留民ノ生死情況ニ關シ花

岡書記官報告ノ件

花岡書記官ヨリ外務大臣ヘ

第二二号

貴電第一三号ニ關シ

当地居留民ハ今春二月十一日事件ノ際領事及ビ守備隊ト行

尼港過激派ニ對スル黒竜政權ノ態度如何ハ将来尼港事件解  
決上ニ重大ナル關係アルヲ以テ彼等ノ行動処置ハ特ニ注意  
探索ニ努メツツアリ

六四六 六月二十五日 在ハルビン石坂陸軍少將（ヨリ）  
福田參謀次長宛（電報）

尼港事件ニ關シハルビンニ於ケル露字新聞論

調報告ノ件

哈市特第四九九号

（六月二十九日參謀本部ヨリ外務省接受）

尼港事件愈々明白トナリ其慘虐言語ニ絶エ之ニ對スル日本  
國民ノ憤激今ヤ白熱ヲ極ムルニ至ルヤ當地露字新聞ハ挙テ  
論説ヲ掲クルニ至レリ而シテ其大部ハ大ナル同情ヲ寄セア  
ルモ是カ反動如何ヲ危ミツ、アリ左ニ其大要ヲ記スレハ  
革命紙ハ尼港事件ハ実ニ寒心スヘキ慘劇ニシテ日本國民カ  
之ニ憤激スルハ真ニ當然ナリ吾人ハ此事件ニ關シ日本側ノ  
報知ノ外材料ヲ有セサルモ事件ノ主班者タル「トリヤピツ  
イン」ノ宣言并ニ此過激派的（パルチザン）ナル人物ノ風  
貌言動ニ關スル諸新聞ノ報道ヲ綜合スルトキハ日本側ノ發

七八七

#### 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六四七 六四八

七八八

表セル報知ハ全部真実ナルカ如シ然レトモ是ニ対スル日本ノ態度ハ頗ル魯迫的ニシテ大戰前墮匈國カ塞爾比ニ対シタルカ如キニ彷彿シ國民ハ貝加爾迄ノ極東ヲ占領セヨト叫フ者スラ出現スルニ至レリ（不明）是ニ対シ日本政府カ如何ニ処置スルカハ明カラサルモ輿論沸騰ノ情況ニ見レハ政

府ハ國論ニ引キ込マルコトナシト断言スヘカラスト論シ又或革命紙ハ尼港ニ於ケル野獸的横暴事件ノ日本ノ民心ヲ激昂セシメ西伯利出兵ニ断然反対シタリシ反政府党タル憲政会スラ今ハ露國領土ニ日本軍隊ノ残留ヲ贊成スルニ至レリ「メドウエーデブ」カ尼港慘殺事件ハ甚シク沿海州「ゼムストウォ」政府ニ邪魔セリト云ヒシハ事実ニシテ日本政策ハ憤激シテ露國左党ヲ益々信用セサルニ至レリト述フ之ニ反シ過激派紙ハ世界大戰開始後殺伐ハ殆ト常時ニシテ生命ノ価値ヲ低減シタルノ時尼港事件モ單ニ其一ナリト云フコトヲ得ヘキモ実ハ日本カ無限ノ剛勇ト奇異ナル徳義心ヲ發揮シタル為ナリ友義ト誠実ヲ誓ヒ乍ラ夜間ニ眠レル公民ヲ襲ヒ喧嘩ニカヽラシムルコトヲナス人間ハ歐洲人ト全然別種ノモノニシテ此差異ハ日本カ文明國民ト了解ヲ得ル能ハスシテ孤立ニ陥ル原因トナルヘシト暴言ヲ吐キ更ニ憲政

会ハ尼港事件以来態度一変セルハ内閣攻撃ノ具ニ供セントスルニ過キスト論セリ

東京、浦潮、特務機関スミ

六四七 六月二十九日 内田外務大臣 在本邦英國大使会談

#### 薩哈連洲占領問題等ニ關スル件

本月二十九日英國大使來談尼港問題善後策ニ關シ種々質問スル所アリタルニ付本大臣ハ未タ確言スルコト能ハサルモ同大使限リ極内密ノ含マテニ申述フヘシト断リ結局「サガレエン」州内必要ナル地点ヲ占領スルコトトナルヘキカ目下同方面ニ我交渉ニ応シ得ヘキ地方政團サヘモ無キ狀況ニ鑑ミ要求条件ノ如キ到底今日予定シ難キ旨ヲ答ヘタルトコレソレハ尤ナル次第ナリト我立場ヲ諒トシ且附言シテ北樺太ハ「コルチャック」時代ニハ日本ニ讓渡スルヲ辞セサル模様アリタル旨ヲ語レリ（註 同大使ハ當時「コルチャック」ニ接近シ居リタル人ニ付右ノ言ハ多少根拏アルモノト思ハル）尚又「チタ」方面撤兵ノコトモ同大使ニ内告シ置ケリ

六四八 六月三十日 在宗谷岬津野陸軍少将ヨリ  
陸軍省副官宛（電報）

#### 尼港ニ於ケル本邦漁業家其他ノ業家ノ活動

##### 二対スル指導方針ニ付花岡書記官請訓ノ件

花岡書記官ヨリ外務大臣ヘ

第二八号

往電第一二号第二及第三ニ關シ本邦漁業家及業家ノ當方面活動ハ独リ本邦人ノ利益ナルノミナラス当地遭難露國子孫救濟ノ方法トモナルヘキモ帝国軍隊ノ当地上陸ハ占領ノ性質ヲ有セサルヲ以テ從来ヨリ適法ノ權利ヲ有スルモノノ外妄リニ本邦人ノ活動ヲ許ス時ハ掠奪的所業ト批難セラルル虞アル上實際ニ於テ露國行政機關ナキ以上何等取締ノ方法モナキヲ以テ如何ナル程度及方法ニ依リ本邦漁業家並實業家ノ發展ヲ支持スヘキヤ御方針至急御回訓アリタシ因ニ本邦漁業家ニシテ當地ニ來リタルモノ既ニ二三三アリ

六四九 六月三十日 外務省公表

#### 尼港事件ニ關スル件

外務省公表（第三回）

「ニコライエフスク」市ハ黒龍江ノ河口約三十海里ノ上流ニアリ「サハレン」州ノ首府ニシテ人口約一万五千ヲ有ス

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ關スル件 六四九

明治二十五年以降本邦人ノ同地ニ往来スルモノ漸次增加シ漁業、輸出入貿易業、大工職、湯屋業、和洋服裁縫業、飲食店業等ニ從事シ近年同地ニ在留スル本邦人數四百名内外ヲ算スルニ至レリ

客年晚秋「コルチャック」政府動搖ヲ來シ十一月十五日「オムスク」ヲ撤退セサルヘカラサルニ至リシ以来西比利亞ノ政情漸次變転シ本年一月上旬同政府遂ニ崩壊セリ同月下旬ヨリ二月上旬ニ亘リ沿、黑兩州各地ニ於テ政變踵キ過激派ノ勢力又尼港方面一帶ニ波及シ情況險惡トナリタルニヨリ同地駐劄石田領事ハ駐屯軍守備隊ト協力シ我居留民自衛團ノ組織ニ尽力スル等銳意在留民保護ノ事ニ当リタルカ一月二十六日同領事ヨリ陸戰隊ノ派遣ヲ電請シ來リ之ト前後シテ海軍軍令部長ニ対シ尼港駐在海軍武官三宅少佐ヨリモ亦同様ノ申請アリタリ當時浦潮及ヒ哈府方面ノ情勢ハ同方面ヨリ増援隊ノ分遣ヲ許ササルモノアリシヲ以テ本邦ヨリ救援隊ヲ派遣スルコトニ決定シ該部隊ハ小樽ニ於テ不取敢乗船ヲ開始シタルモ韓靼海峡方面ノ偵察ヲ行ヒ更ニ軍事上ノ攻究ヲ遂ケタル結果該計画ヲ延期スルノ已ムナキニ至リ尼港救援隊ハ一時旭川ニ待命スルコトトナレリ

七八九

我手ニ由ル尼港ト外部トノ通信連絡ハ二月上旬ヨリ以降全ク断絶シテ石田領事ト通信ノ途ナク直接同地ノ情況ヲ知ル能ハサリシヲ以テ外務省ハ他ノ在西比利亜領事官等ニ訓令シテ同地ノ情況ヲ探知セシメムト努メタル処本年三月十七日ニ至リ在「ハバロフスク」杉野領事ヨリ

「ニコライエフスク」ニ於テ目下過激派軍ト日本軍トノ間ニ猛烈ナル市街戦行ハレツツアルヲ以テ戦闘中止ノ措置ヲ取り度旨当地「ソヴィエト」側ヨリ申出アリタルニ付

三月十五日日露両軍代表者当領事館ニ会合シ協議ノ結果尼港日露両軍ニ宛テ無益ノ戦闘ヲ中止スヘキ旨電報シタリ尚事件調査ノ為メ日露雙方ヨリ同地ニ委員ヲ急派セムトシタルモ右ニ関シ過激派軍ヨリ派遣員ノ生命竝ニ通信ノ保障ヲ為ス能ハスト申出テタルニ付之ヲ中止シタリトノ電報ニ接シタリ尋テ同月二十四日再ヒ杉野領事及ヒ在浦潮菊池總領事ヨリ接受セル電報ニ拠レハ尼港事變ニ於テ多数ノ犠牲者ヲ出シ石田領事モ亦其ノ中ニ在ルモノノ如ク右ニ関シ同領事官等ハ孰レモ露國官憲ニ交渉シテ事實ノ真相ヲ究ハメムトシタルモ結局要領ヲ得サリシトノ事ニシテ當時陸海軍當局ニ在リテモ亦略ホ同様ノ情報ヲ接受セル

ニヨリ二十五日在「ペテローパフロフスク」塩田領事館事務代理ニ対シ何等カノ方法ニ依リ事件ノ真相ヲ探知シ報告スヘキ旨ヲ訓電シ置ケルニ之ト行違ニ同月十八日塩田發電報ニヨリハニ外務省ニ到着シタリ之ニ拠レハ尼港駐屯日本軍ト過激派軍トノ間ニ昼夜ニ亘ル激戦アリ其ノ結果駐屯軍隊及ヒ在留民合計約七百名殆ント全部慘殺セラレ司令部、領事館其ノ他邦人家屋ハ全部焼払ハレタル旨ノ情報ヲ得タリトノ事ナリ

事態頗ル重大ナリト認メ在西比利亜領事官等ニ命シテ引続キ事実ノ真相ヲ探ルニ努メタルニ同官等ヨリノ回電ハ何レモ前記塩田ノ電報ヲ裏書スルモノナリシト雖其ノ根拠皆露人又ハ支那人側ヨリ出テタル断片的報道ナルヲ以テ在浦潮菊池總領事及ヒ在「ハバロフスク」杉野領事ニ対シ此ノ際尼港ヘ特使ヲ急派シ实地調査ヲ遂クヘキ旨訓令シタリ然ルニ菊池ヨリハ四月初旬ニ於ケル日露軍衝突ノ結果烏蘇里鉄道破壊セラレ当分開通ノ見込ナク從テ同地ヨリ特使ノ派遣不可能ナル趣及ヒ杉野ヨリハ黒竜江沿岸ノ交通既ニ杜絶シ道路ノ通行困難ナルノミナラス事變後過激派軍ノ残兵附近ニ横行セルカ為メ如何ニ多額ノ報酬ヲ提供スルモ之ニ応ス

### ルモノナキ趣回電アリタリ

外務省ハ尚絶エス在浦潮及ヒ同方面駐在領事官ヲ督励シテ露國官憲トノ交渉ヲ継続セシメ尼港在留者ノ安全ノ保持ト信拠スヘキ情報ノ蒐集トニ付努力セシメタルモ西比利亜ノ政情及ヒ尼港ト外部トノ交通杜絶ノ為メ其ノ目的ヲ達スル能ハス四月三日在浦潮政務部ヨリ「ウイレンスキ」ハ労農政府極東外交全權ノ肩書ヲ以テ政務部ニ書翰ヲ寄セ尼港事件ニ対シ遺憾ノ意ヲ表シ來リタル趣電報アリタルモ其ノ外彼ニ於テ何等ノ要領ヲ得ス其ノ他ノ露人側ニ在リテモ亦我出先軍憲及ヒ領事官等ノ交渉ニ対シテ均シク要領ヲ得ス又何等ノ明言ヲモ与ヘス然ルニ當時引続キ各方面ヨリ接到セル情報ハ何レモ尼港ノ事態甚々重大ナルヲ語レリ

事情右ノ如クナルヲ以テ外務省ニ於テハ現場ニ就キ事件ノ真相ヲ查明シ必要ナル措置ヲ講セシムル為メ直接本省ヨリ

人ヲ尼港ニ急派セムト計画セシモ當時諸般ノ狀況ハ容易ニ之カ遂行ヲ許サス百方其ノ手段ニ就キ腐心攻究中恰カモ各方面ノ解氷ト共ニ進発セシムル目的ヲ以テ襄ニ待命セシメタル尼港派遣隊ヲ出動セシムルコトトナリ之カ掩護ノ為メ軍艦三笠、見島同方面ニ向フコトトナリタルニ依リ花岡大

航路ニ沈メ機雷ヲ沈置シ為メニ我津野少将本隊ハ今尚全

部上陸スルヲ得サル状況ナルカ海軍「アムール」砲艦隊及ヒ「デ」港ヨリ進出セル多門隊ハ迅速ナル前進ヲ為シ五月

二十四日「マリンスク」ニ出テタルヲ以テ過激派ハ愈々最後ノ慘虐ヲ逞フシ五月二十四日夜半ヨリ二十七日ニ亘リ我生存者百二十余名ヲ殺戮シ市民ニシテ自己ニ便ナラサルモノモ亦慘殺シ市街ニ放火セル為メ六月三日多門隊ノ尼港ニ到達シタル時ハ曰ニ住民殆ント全部避難シ全市火焰ニ包マレ「トリヤピヂン」外數名ノ過激派幹部及ヒ其ノ部下等ハ「アムグン」上流ニ向ケ遁走シ居タリ尼港在留帝國臣民ハ幸ニ避難シ得タル十數名ノ子女ヲ除キ全滅セリ避難者ノ姓名左ノ如シ

中村ミヅ 平石トミ 末松トメ 宗キク 上田ツグノ

池尻カヨ 佐藤サキ 佐藤ツユ（小兒） 佐藤空之助

（小兒） 長島イキ 桑原イマ 長浜ミセ 重浦トミエ

友永キソ 川島セキノ 島谷タネ

此ノ外六月二十日頃尼港上流百六十露里ノ地点ニ於テ我陸海軍ノ為メ救出サレタル山本桑三郎夫婦アリ又「ケルビ」地方ニ連レ行カレタル本邦商人二名アル由ナルモ

消息不明ナリ

一、多門隊到着後猶ホ数日ニ亘リ尼港ノ火焔容易ニ熄マス殆ント同市灰燼ニ帰シ漸クニシテ鎮火セリ

過激派軍ノ残党ニハ猶ホ「マリンスク」其ノ他ノ地点ニ出没シテ土民ヲ脅カシ居レトモ尼港附近漸次鎮靜スルニ従ヒ避難民ハ昨今日々白旗ヲ掲ケタル小舟ニ依リ帰還シツ、アリ然ルニ彼等ハ唯焼跡ヲ眺メ住スルニ家ナク衣食ニ窮シ施スノ術ヲ知ラス而カモ其ノ多数ハ過激派ノ為メニ親子夫妻ヲ慘殺セラレタルモノナリ避難者ノ総数約三千ニ達ストノ事ニシテ今後之ニ対スル措置ニ就キ相当攻究ヲ要スヘシ現ニ島田元太郎ノ如キモ一鉄工場ヲ除クノ外其ノ所有建物全部焼失ノ厄ニ遭ヘル為メ身ヲ寄セムト

スル多数旧知ノ处分ニ窮セル状況ナリ之ヲ要スルニ現下ノ尼港ハ露人自主ノ政治団体ヲ組織スルコト當分望ナク秩序ノ維持ヨリシテ住民ノ給養ニ至ル迄我手ヲ借ラサルヘカラサルノ状態ニ在リ

三、支那領事及ヒ露人側ノ言竝ニ新聞其ノ他ヲ綜合スルニ尼港日本守備隊ハ石田領事其ノ他ノ斡旋ニ依リ二月二十四日過激派トノ間ニ戰闘ヲ中止シ二十八日ニ至リ協定成

立シ白衛隊ニ於テ武装ヲ解除シ過激派軍ハ之ヲ虐殺セサ

ルコト、ナシタルニ白衛隊ノ武装解除後過激派軍ハ直チニ約ニ違ヒテ慘殺ヲ恣ニシ且ツ支那人及ヒ朝鮮人ヲ集メ

テ部隊ヲ編成シ其ノ勢力ヲ張レルノミナラス過激派軍ハ

革命記念日ヲ期シ我軍ヲ斬殺スヘシトノ風評專ラナル一

面三月十一日午後ニ至リ我軍隊ニ武装解除ヲ求メ然モ其

ノ期限ヲ翌十二日正午トナシタルヲ以テ我海陸守備隊ハ

戰闘ノ避クヘカラサルヲ察シ茲ニ自衛上意ヲ決シテ過激

派本部ヲ攻擊セシモ成功セス退イテ海軍部隊ハ領事館ニ

立籠リ陸軍守備隊ハ主トシテ中隊兵舎ニ入りタルカ領事

館ハ同十二日過激派軍ノ砲撃ヲ蒙リ石田領事及ヒ其ノ家

族竝ニ三宅海軍少佐以下難ニ殉セリ而シテ突出セル少數

残余ノ兵ハ悉ク途上ニ倒レタルモノノ如ク又陸軍守備隊ハ残存部隊ヲ以テ其ノ後モ猶ホ兵舎ニ拠リ五昼夜ニ亘リ

テ奮戦シ殆ント負傷セサルモノナキニ至レリ三月十七日

過激派軍々使來リ在「ハバロフスク」司令官ノ戰闘中止

勧告ヲ伝フルヤ評議ノ上三月十八日戰闘ヲ停止シタルカ

過激派軍ノ為メ武器ヲ奪取セラレタリ爾來百二十余名ハ

監獄ニ收容セラレ時々労役ニ苦使セラレ終ニ五月二十四

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件

六五〇

六五〇 六月三十日

内田外務大臣ヨリ  
在浦潮松平政務部長宛（電報）

薩哈連州占領及チタ方面ヨリノ撤兵ニ関スル

我新方針ニ付浦潮臨時政權ニ通告方訓電ノ件

第一二五号（極秘）

#### 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六五一

七九四

「チタ」方面ヨリノ撤兵竝「ニコライエフスク」事件ニ関スル措置ニ付今回別電(註)第一二六号ノ通り廟議決定シ七月三日公表スヘク愈々公表ノ上ハ其ノ旨電報スヘキニ付貴地臨ガ為万一同政府ヨリ質問スル場合ニハ同政府ハ帝国政府ニ於テ未タ承認セザルノミナラズ尼港カ名義上ハ鬼ニ角事実上臨時政府ノ政権内ニ在ラザルヲ以テ已ムヲ得ズ公表文通リノ措置ニ出デザルヲ得ザル旨可然説明セラレタシ

註 別電第二二六号ヲ省略ス該別電ハ後出ノ在米大使宛第一二一号別電ト同文ナリ

六五一 六月三十日 内田外務大臣ヨリ在米國幣原大使宛(電報)

北樺太ノ保障占領ニ関スル廟議決定ニ付訓令

ノ件

別電 同日内田外務大臣幣原大使宛電報第一二二号廟議決定

第二八一號(極秘)

今回別電第二八二号ノ通り廟議決定シ七月三日公表スヘク愈々公表ノ上ハ其旨電報スヘキニ付右責任国政府ニ通告方

リタル旨ヲ語レリ同大臣ハ御承知ノ如ク當時「コルチャク」ニ接近シ居リタル人ニ付右ノ言ハ多少根拠アルモノト思ハル尚又「チタ」方面撤兵ノコトモ同大臣ニ内告シ置ケリ本大臣訓令トシテ本電並別電第二八二号及第二八三号英仏伊ニ転電アリタシ

註 右在米大使宛電報第二八一號ハ同日松平政務部長宛第一二七号ヲ以テ転電セラレタリ  
(別電) 六月三十日内田外務大臣発在米國幣原大使宛電報第一二二号薩哈連州占領チタ方面ヨリノ撤兵及浦潮方面駐兵ニ関シ廟議決定ノ件

第二八二号 別電(極秘)

本年三月十二日以来五月末ニ亘リ「ニコライエフスク」港

ニ於テ帝国守備隊領事館員及在留臣民約七百名老幼男女ノ別ナク同方面過激派ノ為メ虐殺セラル其状誠ニ悲惨ヲ極ム帝国政府ハ國家ノ威信ヲ全フセンカ為メ必要ナル措置ヲ執テサルヘカラス然ルニ目下実際上交渉シ得ヘキ政府ナク如何トモスルコト能ハサル情況ニ在ルニ依リ将来正当政府樹立セラレ本事件ノ満足ナル解決ヲ見ルニ至ル迄薩哈連州内於テ必要ト認ムル地点ヲ占領シ軍政ヲ執行ス但シ尼港ヲ

ニ於テ必要ト認ムル地点ヲ占領スヘシ

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六五一

六五一

取計ハレ度万一同政府ニ於テ薩哈連州(尼港ハ行政区劃上同州ニ属ス)ノ必要地点ニ関シ質問セハ交通氣候其他諸般ノ關係ヲ顧慮スル必要アリテ今日ノ処单ニ必要地点ト称スルヨリ外致方ナキ次第ナルカニ港ハ虐殺ノ現場トシテ之ヲ占領スヘキ事勿論ナルモ北樺太ノ「アレキサンドロウスク」及同地ニ接続スル海岸線上ノ地点並ニ対岸「デカストリ」湾ノ如キハ尼港トノ交通確保上当分占領ヲ必要トスヘキ旨ヲ答ヘラレ又帝国政府ニ於テ領土獲得ノ計画ヲ有スルヤ否

ル場合ニ至ラサレハ帝国政府ニ於テ今日予メ善後処分ニ関スル条件ヲ定メ難カルヘキ旨程能ク説明シ置カレタシ尚昨二十九日英國大使來談尼港問題善後策ニ関シ種々質問スル所アリタルニ付本大臣ハ未タ確言スルコト能ハサルモ同大使限リ極内密ノ含迄ニ申述フヘシト断ハリ結局「サガレエン」州内必要ナル地點ヲ占領スルコトナルヘキカ目下同方面ニ我交渉ニ応シ得ヘキ地方政團サヘモナキ状況ニ顧ミ要求条件ノ如キ到底今日予言シ難キ旨ヲ答ヘタルトコロ夫レハ尤ナル次第ナリト我立場ヲ諒トシ且附言シテ北樺太ハ「コルチャク」時代ニハ日本ニ譲渡スルヲ辞セサル模様アナルニ顧ミ此等地方ノ安定ヲ得ル迄已ムヲ得ス相当数ノ軍隊ヲ駐ムヘシ

註 右廟議決定ハ六月二十八日行ハレタリ

六五二 七月一日 開議決定

薩哈連州占領及極東露領駐兵ニ関スル件

尼港及極東露領ニ對スル政策ニ基キ左ノ如ク措置ス

一、現北部沿海州派遣隊ヲ改編シ歩兵二聯隊砲兵一大隊ヲ基幹トスル部隊ヲ以テ薩哈連州派遣軍トシ薩哈連州内ニ於テ必要ト認ムル地点ヲ占領シ軍政ヲ執行ス但シ尼港ヲ占領スル部隊ハ結氷期間北樺太ニ移駐シ尚一部ヲ南樺太ニ配置ス

二、在知多第五師團ヲ帰還セシメ黒河駐屯部隊ヲ原所属ニ

七九五

## 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 大正九年六月三日

復シ歩兵一旅団ヲ浦潮ニ急派ス而シテ東支東線及東支南線ハ沿海州地方ト南満州トノ連絡ヲ確実ニスル為軍事ノ必要上帝国軍カ沿海州地方ニ駐在スル期間ハ概々現時ノ状態ヲ以テ駐兵ベ

〔〕、第一項ニ伴フ経費別紙ノ通り（別紙略）

社別紙省略

六五三 七月三日 官報告示

## 薩哈連州占領及後貝加爾方面撤兵ニ關スル件

## 備ノ件

附記 七月十六日陸軍省ヨリ内閣ニ提出ハ「薩哈連州占領地施政方針」

## 告示

本年三月十二日以来五月末ニ至リ「リカライロスク」港ニ於テ帝国守備隊領事館員及在留臣民約七百名老幼男女ノ別ナク同方面過激派ノ為虐殺セラル其ノ状誠ニ悲惨ヲ極ム帝国政府ハ國家ノ威信ヲ全ウセムカ為必要ナル措置ヲ執ラサルヘカラス然ルニ日下實際上交渉シ得ヘキ政府ナク如何トモスルコト能ハサル情況ニ在ルニ依リ将来正当政府樹立セラレ本事件ノ満足ナル解決ヲ見ルニ至ル迄薩哈連州内

大正九年七月三日

内閣總理大臣

原敬  
加藤友三郎

海軍大臣

子爵 内田 康哉  
高橋 是清

外務大臣

男爵 大藏大臣

陸軍大臣

農商務大臣

山本 達雄

内務大臣

文部大臣

中橋徳五郎

通信大臣

deem necessary.

Having regard to the complete evacuation of the Zabaikal provinces by the Czecho-Slovak troops, the Japanese Government have decided to withdraw their troops from these regions in conformity with their repeated declarations.

Between March 12th and the latter part of May, nearly 700 Japanese, men, women and children, including the men and officers of the garrison, and the consul and his family, were massacred by the Bolsheviks in the most revoltingly cruel manner. Faced by such an event, the Japanese government felt it incumbent upon them to take steps to uphold the honour and prestige of this country, but, in the absence, at the moment, of any responsible government to whom representations might be made, the Japanese government have been at a loss as to the proper line of action they should follow to achieve their end. In these circumstances, the Japanese government have come to the decision, pending the establishment of a legitimate government, and a satisfactory settlement of the present affair, to occupy such points in the province of Saghalien as they may

The districts round Vladivostok, however, stand on a different footing. Not only is the menace from those quarters against Korea still present, but the situation tends rather to aggravate. Moreover, there is a large number of Japanese residents in the neighborhood and Habarovsk constitutes a point of strategic importance on the way to the province of Saghalien. In view of these considerations, the Japanese government find themselves compelled, until such time as peace and order shall have been completely secured, to maintain a sufficient number of troops in these regions.

〔〕、〔〕示ハ未尾丘附及首標以降ハ出外省略

一四 尼港事件及樺太内必要地點ハ薩哈連州内

於テ必要ト認ムル地點ヲ占領ベシ  
後貝加爾方面ニ關シテハ「チヨック・スローヴァック」軍カ同方面ヨリ全然撤退セル今日ノ事体ニ顧ミ帝国政府累次ノ声明ニ基キ今回同地方ヨリ撤兵スルコトニ決定セリ但シ

浦潮方面ハ朝鮮ニ対スル脅威排除セラレサルノミナラス却テ悪化ゼンヌスル傾向アリ且多数ノ本邦人同地方ニ在留シ又「ハバロフスク」ハ薩哈連州ニ通スル要衝ノ地點ナルニ顧ミ此等地方ノ安定ヲ得ル迄已ムヲ得ス相当数ノ軍隊ヲ駐

ムクシ

一四 尼港事件及樺太内必要地點ハ薩哈連州内

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六五四 六五五

七九八

七月十六日陸軍省ヨリ内閣ニ提出ノ「薩哈連州占領地施政方針」

大正九年七月十六日陸軍省

薩哈連州占領地施政方針

尼港ノ変ハ曠古ノ慘事ニシテ我將卒官民約七百戻ク難ニ殉シタリ然ルニ露國ノ現状ハ問責ノ道ナク姑ク薩哈連州ノ要地ヲ占領スルニ至レリ今ヤ同州ニ民政ヲ執行スルニ方リ之

カ統治ニ任スルモノハ須ク内外ノ情勢ヲ考量シ國際ノ通則ト民政ノ本旨トニ稽ヘ特ニ左記ノ要項ヲ体シ我民政ノ目的ヲ達成スルヲ要ス

一、施設ハ概々露國從前ノ要領ヲ採リ根底アル帝国ノ經濟的發展ヲ図ルヲ要ス

二、民政施行ノ地域ハ地方ノ情況ニ鑑ミ我經濟發展ノ必要

ヲ顧慮シ適宜之ヲ定メ露國ノ政權ハ之ヲ認メサルモノトス

三、我統治ニ服従スルモノハ何レノ国籍ニ屬スルヲ問ハス之ヲ撫恤保護シテ帝国ノ恩威ニ悦服セシムヘシ

四、薩哈連州地方ニ來往移住スル帝國臣民ヲ督勵シ公法ニ準シ道義ヲ重シ円満ニ利ヲ収メ確実ニ業ヲ起スヲ得セシムベシ

(欄外註記)

「大正九年七月二十日陸相手交(内田康哉印)」

薩哈連州占領措置ニ付仏國政府へ通告ノ件

(七月七日接受)

六五四 七月五日 在仏國松井大使(ヨリ)

内田外務大臣宛(電報)

在米大使宛貴電第一八一号ニ閲シ在英大使宛貴電第三〇八号モ接到シタルニ付同日「パレオローグ」ヲ訪ヒ帝國政府ノ宣言書訖文ヲ手交シ御電訓ノ趣旨ヲ通告シタル處帝國政府ノ占領ガ正当政府樹立迄トノコトナラバ仏國政府トシテハ別ニ異議ヲ挾マザル可シト答ヘタリ尚本使ハ為念本件ハ「ミルラン」氏ニモ伝ヘラレ度キ旨附言シタルニ取計フ可シト答ヘタリ

在歐米各大使ヘ転電セリ

六五五 七月九日 在米國幣原大使(ヨリ)

内田外務大臣宛(電報)

薩哈連州占領措置ニ付スル米國政府ノ反響ニ

付報告ノ件

第三四二号

往電第三三四号ニ閲シ

六五五 七月九日 在米國幣原大使(ヨリ)

内田外務大臣宛(電報)

七月八日國務長官代理ニ面会ノ節同官ハ日本軍ノ薩哈連州

占領ノ件ニ言及シ右占領ハ一時的ノ措置(temporary measure)ト解シ差障ナキヤト問ヒタルニ付本使ハ七百名以上ノ日本臣民カ虐殺セラレタルニ方リ帝國政府ハ当然ノ職責上到底之ヲ黙過スルコトヲ得ザルト共ニ目下露國ニ於テ交渉ノ衝ニ当ルヘキ政府ナキニ顧ミ追テ適當ナル政府ノ樹立セラレ本件ノ満足ナル解決ヲ得ルニ至ル迄右軍事的占領ヲナスノ趣意ナリト答ヘタルニ同官ハ自分モ其ノ趣旨ニ了解セリ只露國領土ノ現状(status quo)ヲ変更シ其ノ領土ノ如何ナル部分ト雖之ヲ分割併合スルカ如キコトハ極メテ重大ナル事態ヲ誘致スルモノニシテ自分等ハ之ヲ認諾スルコトヲ得ズト述ヘタリ右國務長官代理ノ言説ニ対シテハ本使ハ只聽取スルニ止メ意見ノ表示ヲ避ケ置キタリ  
英仏独伊ヘ転電セリ

六五六 七月十五日 在米國幣原大使(ヨリ)

内田外務大臣宛(電報)

薩哈連州占領措置ニ付スルデーヴィス米國務

長官代理ノ批判的見解報告ノ件

第三五二号

(七月十六日接受)

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ閲スル件 六五六

六五六

七九九

#### 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六五七

八〇〇

状変更ヲ求ムルハ賢明ナル政策ニアラサル可シ米国モ亦墨國ニ於テ自国人ノ虐殺セラレタル者頗ル多キニ拘ハラス常ニ隠忍自制シテ未タ之力為メ墨国占領ヲ企テタルコトナシ之ヲ尼港事件ニ比スレバ只慘状ノ程度ニ闊スル差異ハ(脱)従テ之ニ対スル措置ニ差異ヲ生スルハ当然ナル可キヲ指摘シ置キタリ

次ニ「デービス」ハ尼港ニ於テ発生シタル事件ノ為ニ対岸ノ薩哈連港ヲ占領スルハ如何ナル趣意ナリヤト問ヒタルニ付本使ハ尼港カ薩哈連州ノ一部ヲ成スモノナルコト並ニ尼

港ノ氣候位置ノ關係上同港ヲ確実ニ占領センカ為ニ韓靼海峡ノ兩岸ニ亘ル薩哈連州ノ重要地點ヲ同時ニ占領スルノ必要アルコトヲ説明シ置キタリ

尚「デービス」ハ何レ本問題ハ「コルビー」國務長官訪問ノ上篤ト考量ヲ加フルコトナル可ク要スルニ之ニ關シ日米両国政府間ニ隔意ナキ意見ヲ交換スルコトハ有益ナル可シト語レリ

以上「デービス」ノ談話ハ同官ニ於テ單ニ一個ノ私見ニ止マル旨ヲ附言シタルモ或ハ何等力大統領ノ意図ヲ受ケタルモノト推測セラレサルニ非ラス何レニスルモ「デービス」

ハ薩哈連州内一時ノ占領力結局永久ノ領土割譲要求ニ至ル

可キヲ予想シ此ノ際米国政府ニ於テ本件ニ付帝国政府ト意見ノ交換ヲ開始スルノ必要ヲ認ムルモノノ如ク察セラル英仏独伊ヘ転電セリ

#### 六五七 七月十六日 内田外務大臣ヨリ

在尼港花岡書記官宛(電報)

#### ニ対スル指導方針ニ関シ回訓ノ件

##### 第三四号

貴電第二八号ニ閑シ貴地方ニ於ケル本邦人ノ事業ハ出来得ル限り助長誘導セラルヘキハ勿論ナルモ帝国政府カ今回ノ事件ヲロ実トシテ不当ノ利益ヲ奪取スルカ如キハ大局上望マシカラサルノミナラス仮令帝国国民ヲシテ一時不当ノ利益ヲ取得セシメタリトスルモ後日帝国軍隊ノ貴地引揚ノ曉ハ折角ノ利益モ根柢ヲ覆ヘサルルノ虞モ有之旁貴地方ニ於ケル帝國々民ノ利権等ニ付テハ從来我方ノ享有シ得ヘキ権利ノ程度ニ於テ之ヲ保護スルノ外ナシト思考セラル就テハ右様御含ノ上大体左記ニ依リ御処置相成度シ

一、貴地方本邦漁業者ノ保護ハ六月三十日陸軍次官ヨリ北

部沿海州派遣隊司令官宛電訓ノ趣旨ニ依リ処置セラレ苟

モ条約法令及慣行ニ基カサル漁撈又ハ製造ハ之ヲ禁止セラレ度シ

二、漁業家以外ノ本邦実業家ノ保護ニ付テハ露國側行政制度ノ下ニ在リテ帝國々民ノ享有シ得ヘキ権利及事業ニ限

リ之ヲ許可シ度キニ付

(1) 従来露國側ノ特許ヲ要セサリシ事業ニ付テハ事業者ノ人格業体其他ノ關係上貴地ニ於テ事業ヲ営マシムル

ヲ好マシカラスト思考セラルモノノ外貴官ニ於テ相当便宜ヲ供与セラレ度ク

(2) 露國側ノ特許ヲ要スル事業ニ付テハ目下貴地ニ正当露國官憲ノ存在セサル為メ軍ニ於テ便宜露國官憲ニ代

リ之ヲ許可スルノ外ナキモ右許可ハ(a)露國現行法規ヲ準用スルコト(b)内外人ニ区別ヲ設ケサルコトノ二条件

ヲ厳守スヘク猶ホ軍ノ特許ハ貴地方占領ノ期間ニ限り効力ヲ有シ特許事業ノ権利カ将来ニ存続スヘキヤ否ヤ

ハ勿論露國側トノ他日ノ協定ニ俟ツヘキ義ナリ

猶駐屯軍ノ設備及給養等ノ關係上右ニ依リ難キ場合ニ於テハ軍事上必要已ムヲ得サル範囲内ニ於テ便宜取計ハレ差支

#### 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六五八

八〇二

遣スルニ至ラシメタル共同政策ノ趣旨ニ鑑ミ後貝加爾地方ヨリ日本軍隊ヲ撤退シ得ラルコトトナレル趣拝承スルハ米国政府ノ頗ル欣快トスルモノナルコトヲ茲ニ通報致候前記決定第三項即チ浦潮斯徳及「ハバロフスク」附近ニ日本軍隊ヲ駐屯セシムル御計画ニ関シテハ米国政府ハ未タスカル行動ヲ執ルヘキ軍事上ノ必要アリヤ否ヤニ関シ判断ヲ下スニ足ルヘキ充分ナル資料ヲ有セス從テ此点ニ関シ一層精細ナル報道ヲ得ルニ至ル迄意見ノ表示ヲ留保可致候

前記決定ノ第一項即チ露國ニ正當政府成立シ三月十二日ヨリ五月末日ニ至ル間ニ「ニコライエフスク」ニ發生シタル事件ノ満足ナル解決ヲ見ルニ至ル迄薩哈加哩州ノ某々地点ヲ占領セントスル貴国政府ノ決定ニ関シテハ米国政府ハ該地ニ於テ無規律不逞ノ匪徒カ日本軍隊竝居留民ニ対シ加ヘタリト認メラル暴虐行為ヲ慨嘆スルモノナリト雖モ之ト同時ニ是等ノ悲慘ナル出来事ト今回日本政府ノ声明セラレタル決定トノ間ニ連鎖ヲ發見スルコト能ハサル旨忌憚ナク貴大使ニ通報セサルヲ得サル次第ニ有之候

貴大使ヨリ御送付ノ覚書ニハ是等ノ事件ハ薩哈加哩州「ニコライエフスク」ニ於テ起レルモノナル旨記載有之候得共

当省ノ有スル報道ニ依レハ「ニコライエフスク」ハ西比利亞本土ノ「プリモルスカヤ」即チ所謂沿海州ニ在リ薩哈加哩州トハ同名ノ島ノ北部ヲ包含スルニ過キスト存シ候右覺書ニ依レハ薩哈加哩州ニ含マレタル地域内ニ於テハ日本臣民ハ何等危害ヲ受ケタル模様ナク又同州ノ官憲カ「ニコライエフスク」ニ於ケル暴虐事件ニ関与シ或ハ該事件ニ對シ責任ヲ負フヘキモノニ非サルモノノ如ク認メラレ候加之右覺書ハ薩哈加哩州内ノ地域ノ占領カ西比利亞本土ニ居住スル日本臣民ノ生命財産ノ保護トナリ得ヘキコトヲ推定セシムヘキ何等ノ理由ヲ暗示スル所無之候

二年前西比利亞ニ於ケル日米両国ノ共同軍事行動ノ目的ハ正當權力悉ク崩壊ノ結果惹起セラレタル事態ノ安定ニアリタリトノ日米両國間ノ諒解ニ鑑ミ又自國ノ運命ヲ開拓スヘキ露國人民ノ權利ヲ承認スル事ヲ基礎トセル両國政府間ノ其後ノ協同動作ニ顧ミ米国政府ハ西比利亞ノ困憊窮迫セル人民ノ為メ両國共同シテ引受ケ且之ヲ全ウセントンタル使命ト全然反馳セル決定ヲ承リ憂慮ニ堪ヘサルモノナルコトヲ本官ニ於テ閣下ニ申述ヘサルハ却テ卒直ヲ欠クモノナルヘシト存候

他國ニ在リテハ貴國ノ今回懇ヘラル所ニ酷似セル挑発竝損害ヲ受ケタルコトアルモ露國窮憊ノ今日其領土ノ侵略トモナルヘキ手段ヲ差控ヘ来レル事實ニ付テハ敢テ茲ニ申迄モナキコトナルヘク尚貴大使覚書ニ示サレタルカ如キ露國領土ノ侵害ハ露國ノ同胞カ戦争ノ結果陷リタル困難ヲ救

ハントノ希望ヲ以テ一九一八年七月日米間ニ成立シタル諒解ノ結果ナルコトヲ米国々民カ知ルニ於テハ必ス失望スヘキコトハ特ニ力説スルヲ要セサルヘシト存候日米両国民間ノ關係ノ特色タル友好的坦懐ニ基キ本官ハ米国政府ニ於テ薩哈加哩州ニ関スル貴国政府声明ノ決定ニ参加スルコトヲ得ス且露國以外ノ權力ニ依ル該地ノ占領ヲ承認スル能ハサル旨ヲ貴大使ニ通報セサルヲ得サル次第ニ有之候

本件ニ關シ合衆国政府カ已ムヲ得ス採用セル叙上ノ態度ヲ貴国政府ニ通報スルニ当リ本官ハ貴大使ニ於テ米国政府カ右ノ態度ヲ執ルニ至レル理由竝米国政府ハ前頭覚書ニ声明セラレタル日本政府ノ見解及意図ニ同意ヲ表スルヲ得サルハ頗ル遺憾トスルモノナルコトヲ明カニセラレンコトヲ誠実希望致シ候

敬具

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六五九

六五九 七月二十日 在米國幣原大使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

#### 日本軍ノ薩哈連州占領ニ對スル米国ノ抗議通

#### 告ニ関シ意見具申及請訓ノ件

第三六二号

近來米国政府ノ對露方針ヲ通觀スルニ過激派官憲ト露国人民トノ間ニ區別ヲ設ケ過激派官憲ニ對シテハ一切ノ關係ヲ避ケ之ニ承認ヲ与ヘサルノ態度ヲ示スト共ニ露國人民ニ對シテハ其ノ早晚復興ス可キコトヲ予期シ之カ向背ハ政治上及經濟上米國ノ将来ニ重大ナル影響ヲ及ス可キヲ思ヒ今ヨリ露國人民一般ノ歎心ヲ収ムルノ必要ニ着目スルモノノ如シ最近國務省ガ對露通商ノ制限撤廢ヲ公表シタルモ（往電第三四七号）此ノ方針ニ基クモノニシテ即チ米國カ何等露國人民ノ通商上ノ利益ヲ阻害スルモノニ非サルコトヲ明カニシ右制限ノ撤廢ニ拘ハラス事實上米露通商ノ行ハレ難キハ畢竟過激派官憲ノ虐政ニ伴フ必然ノ結果ニシテ全ク同官憲ノ責任ニ属スルコトヲ露國人民ニ了得セシメントスルノ趣旨ト解セラル將又今日ニ於テ予メ米露接近ノ素地ヲ作ラムトスル政策ハ民主黨政府ノミナラズ共和黨ノ有力者例

八〇三

ヘハ「ルート」ノ如キモ熱心ニ唱道スル所ニシテ此ノ際米國政府ハ日本ノ薩哈連州ニ於テ一時的占領ニ対シテモ要ナリトスル信念ニ出テタルモノナル可シト雖モ亦一ハ前記親露方針ニ基クモノト推測ス

以上ノ見地ヨリ往電第三六〇号國務長官ノ來信ヲ查スルニ米國政府ハ日本ノ薩哈連州ニ於テ一時的占領ニ対シテモ之ヲ以テ露國領土ノ現状ヲ変更スルモノト認メ反対ノ意ヲ表スルニ顧ミ若シ他日日本カ何等領土的要求ヲ為スコトアリトセハ米國ノ反対ハ一層強硬ナル可キヲ覺悟セサルヲ得

ス右國務長官來信中ニハ充分弁駁ヲ加フ可キ点鮮カラサルモ要スルニ帝国政府ノ之ニ対スル回答ニ於テ他日領土的要求ヲ為スノ余地ヲ存セントスルトキハ到底米國政府ノ了解ヲ得ルノ望ミ無カルヘク又英仏政府ニ於テモ結局帝国政府

ノ主張ヲ支持スヘキヤ懸念ナキ能ハス就テハ帝国政府ニ於テ如何ナル外國ノ反対アリトモ断然領土的要求ヲ為スノ権利ヲ留保スルヲ必要ト認メラルルヤ若シ追テ外國ノ態度ヲモ観測ノ上領土的要求ヲ為スト否ヤトヲ決セラル可キ方針ナルニ於テハ少クトモ米國ノ閑スル限り来ル十一月大統領選挙ノ結果如何ニ拘ハラス形勢ノ我ニ有利ナル發展ヲ為ス

六六〇 七月二二十三日 陸軍省ヨリ外務省宛

### 薩哈連州ノ經濟開発ニ関スル各省ノ業務分担

#### 方二付意見開示ノ件

(七月二十六日陸軍省ヨリ外務省接受)

薩哈連州ニ於ケル經濟的施設ニ就テ

薩哈連州ニ於ケル我經濟的施設ハ同州占領ノ主旨ニ鑑ミ尚経営スヘキ事業ノ多種廣汎ナルニ顧ミ其ノ実施ヲ円活適切ナラシメ且他日ニ於ケル障礙ヲ貽ササルカ為左ノ要領ニ準拠スルコトト致度

### 一、油田炭田及之ニ関聯スル運輸機関ノ諸施設ニ関スル諸

方針ノ案劃及其ノ実施ニ伴フ諸問題ノ立案審議ハ海軍省之ニ當ルコト

一、油田炭田ヲ除クノ外鉱山森林水産等ニ関スル諸方針ノ案劃及其ノ実施ニ伴フ諸問題ノ立案審議ハ農商務省之ニ當ルコト

一、海軍省及農商務省ハ前二項ノ案件ヲ陸軍省及外務省ニ内議シ必要アルモノハ閣議ノ決定ヲ經タル後其ノ实行ニシテ薩哈連州派遣軍ノ措置ニ依ルヘキモノハ之ヲ陸軍省ニ移スコト

一、海軍省及農商務省ハ計画ニ伴フ必要ナル経費ヲ直接大蔵省ト協議シ支出ヲ受クルコト但シ之力為派遣軍自体ノ為必要アル経費ハ陸軍省ヨリ大蔵省へ協議スルコト

一、關係各省ノ業務ヲ円活ナラシムル為必要ニ応シ陸軍省ニ於テ關係諸官ノ会同ヲ行フコト

一、經濟的施設ニ關係アル諸情報ハ之ヲ關係各省相互ニ分配スルコト

(附屬書)  
七月十一日「ケルビ」發行ソ連邦赤軍機関新聞「クラースヌイ、クリュチ」第二七号所載右処刑判決文和訳文  
「トリヤピーチン」一派処刑ノ件  
先般当方面活動中ノ駆逐艦カ当地上流「マガ」及「ツイル」間ニ於テ捕ヘタル過激派三名ハ「ケルビ」地方ヨリ潛入セルモノニシテ同人等ハ「トリヤピーチン」一派カ他ノ「アンドレーフ」一派ノ為ニ処刑セラレタルヲ語リ尚其ノ所持セル「ケルビ」地方發行「クラースヌイ、クリニチ」紙ニモ別添訳文ノ通り記載有之候間及報告候 敬具

六六一 七月二十四日 在尼港花岡書記官ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

尼港襲撃ノパルチザン部隊ノ指導者トリヤピ

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六六一

八〇五

ヘキ望ミナキモノト信セラルルカ故ニ寧ロ此ノ際帝国政府ニ於テ領土的要求ノ意思ハ当初ヨリ之ヲ有セス今回占領ノ目的ハ追テ相当ノ賠償ヲ求ムルノ担保及本邦人ノ生命財産ニ対スル保障ニ外ナラサルコトヲ速ニ自發のニ声明シ次テ露國領土ノ保全力ニ米國ノ努力ニ負フモノナルカ如キ感想ヲ露國人民ニ与ヘサルコト大局上得策ナルヤニ思考ス何分ノ儀至急御詮議ノ上本件國務長官來信ニ対スル回答方御電訓ヲ請フ 英仏独伊ヘ転電セリ

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六六一

八〇六

露国社会「ソウエト」聯合共和国「クラースヌイ、クリュチ」紙（赤軍機関新聞）第二七号「ケルビ」発行

判決文

千九百二十年七月九日「ニコライエフスク」地方赤軍臨時革命本部ノ命令ニ依リ陸軍衛戍各管区ノ代表者及「ケルビ」

村労務者ノ代表者ヨリ構成セル国民裁判ハ公判ニ於テ左記被告ノ犯罪事実ヲ聽取セリ

被告

「ウラジミロフスカヤ」県「ムロムスキイ」郡

「セワステイカ」村 平民

「ヤコフ、イワノウイチ、トリヤピーツイン」二十三歳

「モスクワ」市 平民

「ニーナ、パウロウナ、レベデワ」

二十一歳

「サマルスカヤ」県「ブヅルクスキイ」郡「キセレフ

カ」村 平民

「マカル、ミハイロウイチ、ハリコフスキイ」三十七歳

「シンビルスカヤ」県「クルムイシュスキイ」郡「ルチ

エイ」村 平民

「フョードル、ワシリエウイチ、ゼレージン」三十五歳

「ザバイカルスカヤ」州「ネルチンスキイ」郡 平民  
「イワン、コプリヤノウイチ、オツエウイリ、パウルツキ」

三十三歳

「ウオロネジスカヤ」県「ブラゴエスチエンスキイ」郡  
「オトラトノエ」村 平民

「ステパン、ルキチ、デーダ、ポノマレフ」五十七歳  
沿海州「ハリコーフスキイ」郡「マトウエーフカ」

村 平民

「エフィム、ワルフォロメウイチ、サーソフ」三十四歳

「薩哈壁嶋」平民

「ドルブチャニノフ、クルチエースイ」（名不詳）

六十四歳

（一）被告「トリヤピーツイン」ハ本年五月二十七日命令ヲ發シ責任アル「ソウエト」ノ首領共産主義者タル「ブードリン」「ミージン」「イワネンコ」及其他ヲ十分又ハ全然何等ノ根拠ナクシテ射殺セリ右ハ殺人ノ罪越權ノ罪及共産主義者ニ対スル挑戦ノ罪ナリ

（二）被告「トリヤピーツイン」ハ本年五月二十二日ヨリ七月四日ニ亘ル期間ニ於テ其部下ニ対シ「ニコライエフスク」

市及薩哈壁州諸村ノ住民及其家族ヲ虐殺スヘキ諸命令規則ヲ發布シ其大部分ハ既ニ實行セリ右ハ委任セル職權ヲ超越セルノ罪殺人ノ罪及殺人暴行ノ遂行ヲ勧誘セル罪ナリ

（三）被告「トリヤピーツイン」ハ命令及規則ヲ發布シ各部隊ノ「ソウエト」共和國政府ノ政治ニ能動的ニ反対セシ罪ナリ

「ニコライエフスク」地方赤軍參謀長「レベデワヤ」

同參謀部武装部長「ハリコフスキイ」

薩哈壁州勞働委員「オツエウイリ」

州執行委員長「ゼレージン」

薩哈壁州糧食委員「デーダ、ポノマレフ」

「アムグン、ツイル」戰線司令官「サーソフ」

以上ハ前掲諸犯罪行為ノ共犯者ナリ「ツルブチャニノフ」

ハ教唆ニ依リ住民ヲ殺害シ拷問シ及殺害ヲ勧誘シタル犯罪者ナリ

国民裁判ハ適當ノ審理ニ依リ「トリヤピーツイン」「レベデワ」「ハリコフスキイ」「ゼレージン」「オツエウイリ」「サーソフ」「トルブチャーノフ」ヲ前記行為ニ於ケル犯罪人

ト認メ「デーダ、ポノマレナ」ハ該行為ニ於テハ無罪ナルモ「トリヤピーツイン」ノ政治ヲ進シテ保護シタル犯罪人トシ左ニ良心ノ命令ニ基キ判決ス

赤軍司令官トシテ在職中常ニ「ソウエト」政治ノ方針ヲ以テセス同政治ノ機関並其職權者ニ圧迫ヲ加ヘ又労務者間ニ共産組織ニ対スル信用ヲ害シタリ右ハ露国社会聯合

間ニ共産組織ニ対スル信用ヲ害シ又全世界ノ労務者

間ニ共産組織ニ対スル信用ヲ害シタリ右ハ露国社会聯合

六六一

八〇七

#### 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六六二

八〇八

第六三四号

(七月二十六日接受)

ノ眼前ニ於テ「ソウエト」政治ノ權威ニ打撃ヲ与ヘタル罪ニ依リ「ヤコフ、トリヤピーツイン」「テナ、レベデワ」「マカル、ハリコーフスキイ」「フヨードル、ゼレージン」「イワン、オツエウイリ、パウルツキー」「エフaim、サーソフ」及「トルブチャニノフ」ヲ死刑ニ処シ銃殺ニ付ス「ステパン、デーダ、ボノマレフ」ヲ「プラゴウエスチエンスク」トノ交通回復迄禁錮ニ処シ一般労役ニ從事セシム判決文ヲ読聞カシタル後国民裁判ハ判決執行ニ關シ左ノ決定ヲ為セリ

前記被告ニ對スル判決ヲ本日七月九日執行ス刑場時間刑ノ執行ハ革命本部ニ於テ之ヲ定ム  
刑ノ執行ニハ國民裁判ノ代表者（二名以上）立会フモノトス而シテ該代表者ハ今直ニ選挙スヘシ  
囚人ニ對スル刑ノ執行ハ七月九日午後十時四十五分終了セリ

六六二 七月二十五日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

#### 薩哈連州保障占領ニ關シ英国外務次官ヨリ事

情説明ヲ求メラレタル件

六六三 七月二十七日 開議決定（一）（二）

#### 薩哈連州ノ軍政実施ニ關スル件

（一）

薩哈連州占領地域内ニ於ケル占領軍ノ權力

今回帝國軍隊ニ依ル薩哈連州内必要地点ノ占領ハ國際法上

一種ノ平時復仇ト目スヘキモノナルカ此ノ種占領ノ場合ニ

於ケル占領軍ノ司法行政ニ關シテハ未タ國際慣例ノ確立セ

ルモノナシト雖大体ニ於テ戰時占領ニ關スル國際法規ヲ準

用スルヲ得ヘク占領軍ハ他ノ權力ヲ排斥シ自己ノ權力ヲ一

定ノ範囲ニ於テ占領地ニ行使スルヲ得ルモノトス依テ占領

軍ハ大体左ノ方針ニ依リ占領地域内ニ於ケル施政ニ任スルヲ至当トス

一 占領地域内ニ於テハ他ノ權力ヲ否認排除スルコト

二 絶対的ニ支障ナキ限り露國ノ現行法律ヲ尊重シ之ニ

準拠スルコト

三 占領地域内ニ於ケル我經濟利益ノ合法的發展ヲ図リ

特許ヲ要スル事業ニ付テハ可成本邦當業者ヲシテ機宜

ヲ失セサル様出願セシムコト

四 占領軍ノ權力ニ服スル者ハ其ノ国籍ノ如何ヲ問ハス

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ關スル件 六六三

第六三四号

（七月二十六日接受）

二十三日求メニ応シ外務次官「ハーデング」卿ヲ訪ヒタル  
處同卿ハ薩哈連州内必要地点占領ニ關シ過般代理大使ヨリ  
通告アリタル節同州ノ区域ニ付疑アリタルカ其ノ後考究ヲ  
遂ケ沿海州ノ一部其ノ域内ニ入りタル事明瞭セリト序言シ  
占領ノ理由ニ付質問シタルニ付本使ハ在米大使宛貴電第二  
八一号御訓令ノ趣旨ヲ敷衍弁明シタルニ同卿ハ右ノ事情ハ  
諒解ス但シ他日露國復興ノ時ニ於テ領土ノ割讓ニ對シ極力  
反対スヘキハ逆賄ニ難カラサル處本件ニ關聯シ日本ノ意図  
ニ対スル「サスピシオン」ハ幸當國ニハ左程是無キ模様ナ  
ルモ他國殊ニ米國ニ於テハ日本カ永久占領ヲ為スモノニア  
ラスヤト疑惧ヲ抱キ居ルモノト認メラルニ鑑ミ此ノ際日  
本政府ニ於テ右ノ意図無キ事ノ保障ヲ與フルヲ得ハ此ノ種  
猜疑心ヲ解消スルヲ得ヘシト思考セラル日本政府ハ果シテ  
永久占領ノ意図ヲ抱カルルヤト露骨ニ質問シタルヲ以テ本  
使ハ予テノ御訓令ヲ体シ本件占領ハ应急必要ノ措置ナル事  
前陳ノ通ナルカ其ノ将来ニ關シテハ自分ノ卑見ヲ以テスレ  
ハ主トシテ今後事態発展ノ如何ニ係ル問題ニシテ今日ヨリ  
予定シ得ヘキ事態ニアラスト思考スル旨ヲ答ヘ置キタリ

三、外事部長ハ占領地域内ニ於ケル行政事務中第三国人  
(占領地域外ニ居住スル露國臣民ヲ含ム)ニ關係アル事  
項ヲ管掌シ占領地域内ニ居住スル露國臣民ニ關係アル事  
項ニ付テハ軍政部長ノ協議ニ与ルモノトス

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六六四 六六五

八一〇

シ外務大臣ノ指揮ヲ乞フコトヲ得

四、軍政部長ハ軍司令官ノ認可ヲ得テ其ノ管轄区域ヲ区分シ軍政署及同支署ヲ設置スルコトヲ得

五、外事部長ハ軍司令官ノ認可ヲ得テ自己ノ管轄ニ属スル事務中重要ナラサルモノノ処理ヲ軍政署長ニ委任スルコトヲ得

六、軍政部長及外事部長ハ軍司令官ノ認可ヲ得テ部内ニ於ケル執務規定ヲ制定シ部務ヲ總理スヘシ

七、占領地域内ニ於ケル民政ハ大体戦時占領ノ場合ニ準シテ之ヲ行フ

覚書(註)

一、外務大臣ハ涉外政務ニ關シ直接ニ政務部長ニ指示スルコト

二、政務部長ハ前項指示ノ事項執行ニ付軍司令官ノ承認ヲ受クヘキコト

三、軍司令官軍事上ノ必要アルトキハ政務部長ニ右指示事項執行ノ延期又ハ停止ヲ命スルコトヲ得ルコト

四、前項ノ場合ニハ軍司令官ハ參謀総長ヲ經テ其ノ旨ヲ外務大臣ニ通牒スルコト

付通報ノ件

大臣ヨリ薩哈連州派遣軍司令官へ指示

作命第五十四号訓令ニ基キ所管事項ニ關シ

左ニ指示ス

一、我占領地域ニ對シテハ露国他地方政權ノ勢力ヲ蒙ラサ

ラシメ以テ占領地域ノ治安ヲ維持シ且隣接セル我領土ノ安全ヲ確保スルヲ要ス

二、施政ハ概々露國從來ノ法規慣習ヲ採用シ勉メテ其ノ手続ヲ簡易ナラシムヘシ而シテ政務ノ円滑ニ便ナラシムル為適宜露人ヲ使用シテ事務ニ當ラシムルヲトス

三、邦人ノ經濟的發展ニ直接關係アル事項ニ對シテハ其ノ価値ヲ査覈シテ之カ施設ヲ適切ナラシムヘシ

四、我軍隊ト露人及諸外国人トノ接触ヲ良好ニシ之ニ対スル措置ヲ適當ナラシメ我出兵ノ主旨ヲ誤解スルコトナカラシムルコトヲ勉ムヘシ施療救恤等必要ナル手段ナリ

五、軍隊ノ駐留久シキニ涉ルニ從ヒ或ハ軍紀風紀ヲ弛緩シ國軍ノ威信ヲ損スルナキヤヲ恐ル各級指揮官ハ須ク部下ヲ戒飭シテ遺憾ナカラシムヘシ

六、重要ナル法規ノ制定及處分ニ關シテハ予メ請訓スヘシ

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ關スル件

五、政務部長ハ涉外政務ノ施行ニ關シ軍司令官ノ承認ヲ経テ隨時外務大臣ニ報告ヲ為シ又ハ指示ヲ請フヘキコト

註 右覚書ノ冒頭余白ニ左ノ書入レアリ  
〔以下(覚書)ハ未ダ閲議ニ提出セズ九年七月二十八日記  
(内田外相印)〕

六六四 七月二十八日 内田外務大臣ヨリ  
在浦潮松平政務部長宛(電報)  
薩哈連州ノ軍政實施ニ關シ浦潮臨時政權ニ對

シ警告方訓電ノ件  
第一四七号

貴電第三一四号ニ關シ  
政府占領地域ニ軍政ヲ施ク害ニテ取急キ準備中ナルカ同地域内ニ於テハ全然露西亞側ノ權力ヲ認メス從テ占領期間中臨時政府カ右地域内ノ利權ニ付為スコトアルヘキ特許其ノ他ノ行為ノ効力ヲ認メサル次第ニ付此ノ点ニ付テハ臨時政府ニ對シ警告ヲ与ヘ置カレ度シ

花岡ヘ転電セリ  
貴電第三一四号ニ關シ  
政府占領地域ニ軍政ヲ施ク害ニテ取急キ準備中ナルカ同地域内ニ於テハ全然露西亞側ノ權力ヲ認メス從テ占領期間中臨時政府カ右地域内ノ利權ニ付為スコトアルヘキ特許其ノ他ノ行為ノ効力ヲ認メサル次第ニ付此ノ点ニ付テハ臨時政府ニ對シ警告ヲ与ヘ置カレ度シ

六六五 七月三十日 陸軍省ヨリ  
外務省宛(電報)

薩哈連州派遣軍司令官ニ對スル陸相ノ指示ニ

第三一九号  
六六六 八月一日 在浦潮松平政務部長ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)  
薩哈連州ヘノ外國資本進出ニ對スル我警告ニ  
關シ臨時政權外相ト会談ノ件

貴電第一四七号ニ關シ本官七月三十一日外相「ウイノグラドフ」ヲ訪ヒ御電訓ノ趣旨ニヨリ警告ヲ与ヘタルトコロ「ウ」ハ本件ハ内外關係上重要事ナルヲ以テ自分ハ政府ニ報告シ且ツ貴官ノ同意ヲ得テ一般ニ發表シ度シト述ヘタルニ依リ本官ハ右發表ニ關シテハ訓令ニ明記ナキヲ以テ同意ヲ明言スルコト能ハス只今迄ノ情報ニ依レハ貴國政府ハ未タ外国人ニ特權ヲ許与シ居ラレサルニ付(往電第三一七号「ブリネル」ノ言明ヲ引証セリ)右警告ニ從ヒ特許ヲ与ヘラレサレハ可ナルニアラスヤト言ヘルニ「ウ」ハ実ハ薩哈連州「コンセッショ」ニ關シテハ既ニ閑議モ略決定シ議會ノ協賛ヲ求ムルハカリトナリ居リ且英國政府ノ支持セル同國資本側其他ヨリノ請願中ニハ正ニ調印シテ議會ノ承認ヲ要求セントシ居ルモノアル關係上自分トシテハ調印ヲ拒ムニ当リ日本側警告ノ次第ヲ説明スルノ義務アリ云々ト申シタル

#### 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六六七 六六八

ニ付ソハ已ムヲ得サルコトナル旨答へ置キタリ

尚本官ハ個人的忠告トシテ尼港事件ニ関聯シテ帝国政府カ薩哈塘ヲ占領シタル折柄他地方ノ富源ヲ差シ措キ同地方ノ利權ニ關シ種々ノ計画ヲナシ殊更ニ第三國ノ資本家ヲ誘致スルカ如キハ徒ラニ事態ヲ紛糾セシメ尼港事件ノ解決ヲ一層困難ナラシムルノミナラス両國關係ニモ好マシカラサル結果ヲ惹起スルノ虞アルニ付此際充分誠意ト厚誼的精神ヲ以テ我行動ニ対セラルコト問題解決ノ良策ト思考スル旨注意シ置キタリ

六六七 八月一日 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

#### 薩哈連占領問題ニ関スル日米間ノ往復文書ノ

##### 公表二付モリス大使内談ノ件

第三八九号 （八月三日接受）

七月三十日「モリス」大使（目下極東及露国方面ノ事務ヲ臨時管掌ス）ニ会見セル處同官ハ今回薩哈塘問題ニ關スル米国政府ノ申入ハ畢竟米国政府在来ノ政策ヲ反覆宣明セルニ過キズシテ新タニ難問題ヲ提起スルノ意ニアラズ且全然友好的精神ニ出デタルモノナル處右申入ノ事実ハ今ヤ東京

ニ於テ一部漏洩セルモノノ如ク是ニ伴ヒ種々ノ流説ヲ生ズルニ至リタルハ遺憾ニシテ此ノ際世上ノ誤解ヲ除カシ為メ本件國務長官書面ヲ發表スル事得策ナラズヤト思考スル旨ヲ述べ本使ノ意見ヲ問ヒタルニ付本使ハ右日米交渉ノ事実ハ当初東京ニ於テモ又華盛頓ニ於テモ官辺ヨリ漏洩セルニアラズシテ恐ラクハ新聞記者ノ単純ナル憶測ノ適中セルニ基クモノナルベク今日ニ於テハ両國當局共ニ其ノ事実ヲ是認又ハ否認スル事ヲ得ザル為メ愈々世人ノ好奇心ヲ挑発スルニ至リタルハ自然ノ情勢ナルベシ何レニスルモ目下帝国政府ハ米国政府ノ申入ヲ慎重ニ考究中ナリト察セラルルニ付其ノ回答ノ發送ヲ俟タズシテ單獨ニ右國務長官ノ書面ノミヲ發表スル事ハ時宜宜敷ラズ得ザルモノト思考スル旨ヲ答ヘタルニ「モリス」ハ或ハ然ラントテ強ヒテ發表ヲ主張セズ只當國ニ於テ略真相ニ近キ報道ヲ伝ヘラレタルハ東京ヨリ近着ノ聯合通信電報ニ基クモノニシテ國務省ヨリ漏洩セルニアラザルコトハ充分了解セラレン事ヲ望ムト述ベタリ

六六八 八月一日 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）  
在仏國松井大使各宛（電報）

#### 黒竜江下流及同海湾所在漁場競売問題ニ付事

##### 情弁明方訓電ノ件

在米國大使宛（桑港、市俄吉、紐育ヘ郵送アリタシ）

在仏國大使宛（在英國大使ヘ転電）

合第一六九号

曩ニ帝國政府ハ「ニコライエフスク」派遣軍司令官ヲシテ

黒竜江下流及同海湾所在漁場ヲ日露人ニ競売セシメタル処

右ニ対シ露國側ハ事実ヲ曲解シ種々非難ヲ加ヘ居リ自然貴

方面ニモ本件ニ關シ誤報ノ伝ハルコト可有之ニ付必要ノ場

合ハ左記趣旨ニ依リ可然弁明方御取計アリタシ

記

化場ノ事業ヲ約三倍ニ拡張シ益々魚族ノ蕃殖ヲ計ラムトスルモノニシテ蓋シ日露両國ノ為漁利ヲ永遠ニ保全シ之ヲ進展セシメムトスルニ外ナラス露國政情ノ帰趨測知シ得ヘカラサル今日ニ於テ帝國政府ノ措リタル処置ハ日露漁業協約締結ノ当事者トシテ正ニ當然ノモノニ属ス

六六九 八月三日 海軍省ヨリ

#### ペトロパウロフスクノ冬期警備方針ニ関シ企

##### 業団体ニ対スル口述覚書通報ノ件

堪察加方面企業団体ニ対シロ口述覚書

(一) 堪察加方面冬期不穩ノ情勢ニ鑑ミ当局ハ夙ニ画策スル所アリシカ会々露領水產組合及日本毛皮株式会社其ノ他ノ請願モアリ関係各省ニ於テ精細ナル調査研究ヲ進メ遂ニ閣議ニ於テ概ね左ノ決定ヲ見タリ

一、軍艦ヲ堪察加方面政變ノ中心地タル「ペトロパウロ

ウスク」ニ今冬越年セシム

一、前項ノ海軍兵力ハ在「ペトロパウロウスク」領事館及同地居留民保護ヲ主目的トシ兼テ漁区及鑽詰工場番人ノ收容ニ任ス

(2) 「ペトロパウロウスク」ニ冬當スヘキ海軍兵力ノ達成ス

ヘキ目的ハ前項ノ如ク同地所在領事官及居留民保護ヲ主眼トシ兼テ漁区及罐詰工場番人ノ最後収容所ニ任スルニ

アリ從テ之カ任務遂行上一時陸戦隊ヲ揚陸スル場合アル

ヘシト雖モコハ「ペトロパウロウスク」市及其ノ附近ニ

限定セラルヘキモノニシテ遠ク隔絶セル地点ニ派遣セラ

ルヘキモノニ非ス故ニ露領水産組合ニ能ク本件ヲ知承シ

若シ漁区及罐詰工場ニ番人ヲ残置スル場合ニ在リテハ海

軍兵力ハ「ペトロパウロウスク」ニ於ケル之カ最後収容

ニ対シ適當ナル手段ヲ講スヘシト雖之ヲ以テ隨時隨所海

軍兵力ノ直接救援ヲ期待スヘキモノニ非サルヲ確実ニ諒

解セシムルヲ要ス

(3) 勘察加方面冬期警備ニ対スル政府ノ方針敍上ノ如キヲ以

テ各企業団体ハ之ヲ考料シ速ニ冬期ニ対スル具体的方針

ヲ策定セラルベシ

(欄外註記) 「大正九年八月三日閣議ニ海相提出(内田外相印)」

六七〇 八月九日 在浦潮松平政務部長ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

六七一 八月十日 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)

薩哈連州占領其他ニ関スル我宣言ニ対スル米

国政府ノ所見ニ回答方訓電ノ件

別電 同日内田外務大臣發在米國幣原大使宛電報第三

四六六号  
右回答文

第三四五号

薩哈連州占領其他ニ関スル我宣言ニ対スル米國政府ノ所見ヘノ  
回答文

第三四六号

貴電第三六〇号ニ閲シ帝国政府ハ事体ノ性質国民ノ意向等慎重考慮ノ結果七月三日ノ宣言ヲ發表シタル次第ニ付米國其他ノ態度如何ヲ予測シテ御來示ノ如キ声明ヲ為シ能ハサルノミナラス國務長官ノ來信ハ或ハ貴電第三六二号御觀察ノ如キ政策ヲ基礎トスルモノナルヤ難計モ該來信ニ拠レハ米國政府ハ事体ノ輕重極東ノ情勢ニ対シ未タ十分ノ考覈ヲ運ラシタルモノトモ見受ケ難ク旁々別電第三四六号ノ通り回答スルコトニ決定シタルニ付右國務長官ニ送達方取計ハレタシ尚別電ノ写ハ在本邦米國代理大使ニモ送附ノ必要アルニ付國務長官ニ送達ノ日取決定ノ上ハ右日取直ニ當方ニ電報アリタシ將又薩哈連州ノ必要地点ハ其内確定スヘキモ大体大陸ニ於テハ「ニコライエフスク」「デカストリ」等ノ地点ヲ指称スルモノナルモ北樺太ハ各種ノ關係上其ノ全部ノ地域ヲ包括スル義ニ付右御含置アリタシ本電並ニ別電在欧各大使ニ転電アリタシ(別電)

八月十日内田外務大臣發在米國幣原大使宛電報第三四六号

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六七一

六七一

表ニ閲シ花岡ニ通報シタル件  
第三三七号 花岡ヘ左ノ通り電報セリ

第二〇〇号

七月七日当港發尼港ニ向ヘル調査救援隊搭乗船「Ewarin」「Uzuruiwauteri」ノ二隻ハ八月五日七日ノ両日帰浦シタ

ルガ爾来救援隊ノ報告ニ基キ発表セラレタル所ヲ見ルニ大

体ニ於テ「トリヤピッチン」一派ノ非行ニ閲スル詳報ヲ齎

シ居リ現ニ社会革命党機關新聞社ノ如キハ同社ノ前ニ「ト

リヤピッチン」一派ノ蛮行ノ跡ヲ証明セル写真日本兵又ハ

露人ノ慘殺屍体及焼跡其他ヲモ亦掲ゲ一般見ルモノヲシテ

却テ我ニ有利ナル感情ヲ持タンム尚今後發表セラルベキ報

告ハ取調ノ上追報スベキモ右不取敢

大臣ヘ転電セリ

#### 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六七

八一六

鮮内地ニ侵入シテ民家ヲ襲撃シ幾多人命ヲ戕害シ財産ヲ損壊スル等殆ト戰闘ト選フナシ此ノ如ク朝鮮ノ平和ト安全ニ對シ重大且緊切ニシテ而カモ其背後ニ強大ナル過激派ノ脅威ヲ包藏スル危險ノ存在スルハ帝国政府ノ誠ニ痛心ニ堪ヘサル所ニシテ從テ浦潮方面ニ相当数ノ軍隊ヲ駐ムルハ我居留民ヲ保護シ且朝鮮ノ安寧ヲ保持スル自衛措置トシテ絶対ニ必要ナリ又「ハバロフスク」ハ薩哈連州ノ首府タル尼港ニ至ル交通ノ要衝ニ位スルカ故ニ港駐屯兵トノ連絡ヲ確保スルノ見地ヨリ相當数ノ軍隊ヲ同地ニ駐ムルコト是亦必要ナリ而シテ右浦潮方面及哈府ニ於ケル駐兵カ啻ニ該地方ニ於ケル帝国並帝國臣民ノ利益ヲ保護スルニ必要ナルノミナラス同時ニ一般露国人ノ安寧幸福ニ對シテ亦貢獻スル所アルヘキヤ必セリ

第一点ニ付テハ米国政府ニ於テハ尼港ハ西比利亜本土タル「ブリモールスカヤ」即沿海州（マリタイム、プロヴィンス）ニ所在シ薩哈連州ハ單ニ樺太島ノ北部ヲ指称スルモノナリトノ前提ノ下ニ尼港事件ト薩哈連州内必要地点占領トヲ無関係ナリト断セラルモノノ如シ帝國政府ノ承知スル所ニ依レハ「ニコライエフスク」市及其附近一帯ハ千九百

十四年二月二十六日（露曆）露國ノ勅令ニ依リ沿海州ヨリ分離シテ北樺太ト共ニ薩哈連州ニ編入セラレ爾來尼港ハ同州ノ首府タリ即ニ尼港ハ露國ノ行政区劃上薩哈連州ノ一部ナルコト明ナル以上前記米国政府ノ非難ハ其基礎薄弱ナリト謂ハサルヘカラス

米国政府ハ日本政府ノ宣言ヲ読ムモ北樺太ニ於ケル日本人ハ何等損害ヲ受ケサルモノノ如ク又同地方ニ於ケル露國官憲ハ尼港慘殺事件ニ關係ナク又責任ナキモノノ如シト主張セラレ且北樺太ノ占領ハ西比利亜本土ニ於ケル日本在留ノ生命財産ニ對スル保護トナラサルヘキ旨言明セラレタル処北樺太ノ占領ハ尼港ヲ占領スルト同時ニ同港トノ地理的關係ノ必要ニ基因スルモノニシテ本事件ノ解決ニ便ナランメンカ為ナリ

持シ来レル協調トハ何等抵触スルモノニ非ス將又米国政府ハ他ノ國民モ日本同様ノ損害ヲ受ケタルニ拘ラス彼等ハ憐ムヘキ露國ニ對シ領土侵略ヲ含メル措置ヲ執リタルコトナシト言明セラルモ他國民カ果シテ日本同様ノ悲慘事ニ遭遇シタルヤ否ヤハ帝國政府ノ承知セサル所ナルカ右ハ暫ク別問題トシ我方這回ノ占領ハ前記ノ通り悲慘極マル損害ニ對シ他ニ救濟ノ道ナキ現状ノ下ニ於テ全ク不得已措置ニシテ之ヲ以テ直ニ領土侵略ト為スハ當ヲ得サルモノナルヘシ日本カ露國ノ憐ムヘキ現状ニ同情シ過去ニ於テ多大ノ犠牲ヲ払ヒタル次第ハ米国政府ノ諒知セラル所ニシテ日本政府ハ今日ニ於テモ何等此精神ヲ没却スルモノニ非ス乍去過般ノ尼港事件ノ如キ悲慘事ハ我國民ノ未タ曾テ経験セサル所ニシテ若シ帝國政府ニシテ今回ノ如キ措置ニ出ツルコトナクムハ固ヨリ國民ノ寛倣スル所トナラサルヘキナリ帝國政府ハ米国政府ノ明智必ス以上縷陳ノ事情ヲ首肯シ前記宣言中ニ声明セル帝國政府ノ決定ニ對シ同情的見解ヲ持セラルヘキヲ確信セムト欲ス

#### 薩哈連州保障占領ニ關スル対米回答ニ付追加 説明ノ件

第三四七号（極秘）

往電第三四五号末段ニ關シ

就中冬期中南北樺太間ノ交通ヲ確保スル為メ我占領軍ニ於テ近々「アレキサンンドロウスク」港ヨリ「ルイコフ」（ア）港ノ東ニ方リ中央部ニ位シ南北樺太ニ通スル主要道路上ニ在リ迄輕便鉄道ヲ布設シ「ルイコフ」以南ハ旧道路ヲ使用シ我南樺太ニ連絡ヲ取ルノ計画ヲ有シ又我方ニ於テ占領地域内ニ於ケル鉱山森林等ニ對スル用益權ヲ行使スル等軍政上ノ關係ニ顧ミ北樺太全部ノ占領ヲ得策トスルト同時ニ北樺太ニ於ケル「パルチザン」ノ行動ハ我交通線ヲ脅威スルノミナラズ又直ニ接壤地タル南樺太ニ波及スル虞アル為メ我領土ノ治安維持上北樺太全部ヲ占領シ其秩序ヲ確保スルノ必要ヲ認メタル次第ナリ將又「オホツク」海沿岸ニ於ケル我漁業者ノ設備ハ「パルチザン」ノ為メ破壊セラレタルノミナラズ最近同地方ニ於テ第一ノ「ニ」港事件起リタルヤノ風説モアリ土地遠隔ノ為メ未ダ確報ニ接セズ偏ヘニ其虚報ナラン事ヲ祈ル次第ナルガ元來露領沿海州沿岸「オホツ

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六七三

八一八

ク「海「カムチャツカ」沿岸等ニ於ケル我漁業ハ比年盛況ニ  
赴キ我ガ主要産業ノ一トシテ我方ノ頗ル重ヲ措ク所ナルニ  
拘ラズ「ニ」港事件以来我當業者ニ於テモ多大ノ恐怖ヲ感  
ジツツアル次第ニテ旁々帝国政府ニ於テ「ニ」港事件ニ關

シ今回ノ決定以下ノ措置ニ出ヅルガ如キハ到底我國論ノ容  
認セザル所ナルニ付右様御含蓄相成度尚米國政府当局ト御  
折衝ノ際貴官ノ裁量ヲ以テ場合ニ依リ右等各種事情ノ内適  
宜利用セラルコト差支ナシ

在欧各大使ニ転電方取計ハレタシ

六七三 八月十三日 在浦潮松平政務部長ヨリ  
内田外務大臣宛

トリヤピーチン其他ニ対スル裁判及处罚ニ関  
スル件

機密軍政送第六六号

大正九年八月十三日

浦潮派遣軍政務部長 松平恒雄(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

「ツリヤピーチン」其他ニ対スル死刑執行ニ関ス  
ル件

刷セラルル「クラヌヌイ、クリチ」(「サウエイト」共和国  
「ニコラエウスク」区軍事革命司令部機関紙)アリ同紙ノ

七月九日発行第二十五号中ニ左記記事アリ

二、「ツリヤピーチン」一派ニ対スル裁判

七月九日「ケルビ」村ニ於テ

「ツリヤピーチン」竝其ノ一派ノ行動ハ審査委員会之ヲ調

査ス委員会ハ主犯者タル「ツ」ニ最モ多クノ注意ヲ払ヘリ

軍事革命裁判所ハ戦線ニ於テ選出セル国民裁判所竝ニ審査

委員会ヨリ成リ「パルチザン」及全住民ノ代表者ヲ参加セ  
シム裁判ハ公平ニシテ「サウエイト」政權ノ主義觀念ト一

致スルヲ要ス「ツ」ノ部下ハ何レモ危険ヲ恐レテ服従シ居

タルノミ尤モ中ニハ絶対ニ服従シ居タル者モナキニアラス  
又自己ノ利益ヲ計リテ參加シタルモノモアリ故ニ裁判ハ一

律ニ之ヲ行フコト能ハス各事情ヲ審査シテ決定スルヲ必要  
トス

三、「ツリヤピーチン」ニ対スル処罰

七月十一日発行「クラヌヌイ、クリチ」第二七号記事

臨時軍事革命部長兼赤衛軍司令官「アンドレエフ」ハ諸方  
ニ左記電報ヲ發セリ

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六七三

本件ニ關シ八月七日「ニコラエウスク」ヨリ帰来セル赤十  
字班書記ノ為セル報告概要別紙ノ通り及報告候間御查閱相  
成度此段申進候 敬具

(別 紙)

一、「ツリヤピーチン」ノ拘禁

尼港住民ノ語ル所ニ拠レハ「ツリヤピーチン」隊自身ノ内  
ニモ既ニ「ツリヤピーチン」ノ行政ニ付不平ノ声アリ就中

「チュヌイラフ」要塞砲兵「アンドレエフ」ナルモノノ不  
平甚タシカリキ「アンドレエフ」ハ自ラ一隊ヲ組織シ之ト

共ニ「ツリヤピーチン」隊ヲ去リタルカ「ツ」ハ之ヲ知ル  
ト共ニ命令ヲ發シ「アンドレエフ」ヲ拘禁シ裁判ニ附スヘ  
シトセリ然ルニ「ア」ハ其ノ以前ニ於テ突如「アムグン」

河ニヨリ「ケルビ」ニ向ヒ「ツ」竝ニ其ノ一派ノ搭乗シ居  
タル汽船「アングネツ」ヲ捕獲セリ

「ツ」及其ノ參謀長「ニーナ、レーべジエワ」ハ船室内ニ  
於テ拘禁セラレ其ノ他ノ者ト共ニ直ニ裁判ニ附セラレアリ  
ト謂フ

七月十九日予ハ「パルチザン」發行ノ新聞紙ヲ入手シタル  
カ内ニ「アムグン」野戰印刷所(在「ケルビ」)ニ於テ印

尚「スルーチャイヌイ、ネゲーウイク」及其ノ同僚數名ノ

拘禁ニ關シテハ夫々措置セリ云々

四、判決

一九二〇年七月九日「ニコラエウスク」地方赤軍臨時革

命司令部ノ要求ニ依リ在「ケルビ」軍憲労役階級ノ代表者  
ヨリ選出セラレタル国民裁判所ハ公会「ウラジミルスカヤ」

県人「ヤーコフ、イワノウイチ、ツリヤピーチン」「モスク  
」市民「ニーナ、パウロウチ、レーべジエワ」「サマル

スカヤ」県人「マカラ、ミハイロウイチ、ハリコフスキイ」

三十七年シンビルスカヤ県人「フェードル、ワシリエウイチ、  
ジョレーリン」三十五年「ザバイカルスカヤ」州人「イワ

ン、クブリヤノウイチ、オッエウイリ、パウルツキー」三  
八一九

#### 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六七三

八二〇

十三年「ウォロネジスカヤ」県人「ステパン、ルキチ、デタ、パノマレヨフ」五十七年沿海州人「エフィム、ミハイロウイチ、サーソフ」三十四年樺太島人「ツルブチャニーフ、クルチヨヌイ」六十四年事件ニ関シ審理スルコト左ノ如シ

「ツリヤピーチン」ハ「ニコラエウスク」地方赤軍司令官ノ職ニアリテ一九二〇年五月二十二日乃至六月一日ノ間「ニコラエウスク」市ニ於テ又同年五月二十二日乃至七月四日ノ間樺太州内ニ於テ公職ヲ有スル者ノ手ニ依リ平和ノ民竝ニ其ノ家族ヲ何等ノ理由ナクシテ拘禁銃殺シタリ又同人ハ五月二十七日有力ナル「サウイエト」吏員（共産党）即チ「ブードリン」「ミージン」「イワネンコ」其他ヲ充分ノ理由ナクシテ銃殺スヘキ旨ノ命令ヲ發セリ即チ越権ノ殺害及共産党トノ積極的争闘ヲ敢テセリ

「ツリヤピーチン」ハ又部下ノ者ニ対シ「ニコラエウスク」市及樺太州各地ニ於ケル平和ノ民竝其ノ家族ノ多数的殺戮ヲ命シ而シテ右ハ大部分執行セラレタリ右職権ヲ超越シテ殺戮迫害ヲ敢テセシモノナリ

「ツリヤピーチン」ハ又充分ノ理由ナクシテ同僚タル「パ

及「ツルブチャニーノフ」ハ銃殺ニヨリ死刑ニ処シ「データ、ボノマレヨフ」ハ禁獄ニ処ス  
右判決ハ七月九日之ヲ執行スヘシ  
右判決執行ハ七月九日午後十時四十五分行ハレタリ

#### 交換ノ件

（八月十六日接受）

八月十一日国務長官ハ本使ニ電話ヲ以テ薩哈哩問題ニ関シ日本政府ヨリ意見ノ表示ナキヤ間ヒタルニ付當時未ダ何等ノ消息ニ接セザル旨ヲ答ヘ置キタルガ八月十三日会見スルヤ同官ヨリ進ンデ直ニ本問題ニ言及セリ仍テ本使ハ貴電第三四六号帝国政府ノ回答ヲ読み上ゲ覺書トシテ之ヲ手交セルニ同官ハ右回答ヲ謝シ之ニ対スル意見ヲ述ブルコトナク唯何レ考究ヲ遂ゲタル上追テ意見ヲ交換スルコトトナルベシト答ヘタリ

次デ本使ハ国務長官過日ノ書面ヲ熟読セルガ本問題ノ討議ヲ続行スルニ当リ予メ米国政府ノ趣旨ヲ慥メルコトヲ要ス

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六七四

ルチザン」数名ヲ銃殺スヘキ旨ノ命令ヲ発セリ

「ツ」ハ赤軍司令官在職中常ニ「サウイエト」政權ノ方針ト離レ部下ノ機関吏員ニ対シ共産党政治ニ対スル信用ヲ害シタリ即チ「サウイエト」政權ニ反抗セシモノト謂フヘシ「レーベシェワ」ハ「ニコラエウスク」地方赤軍參謀長ノ職ニアリ「ハリコフスキ」ハ同司令部武装部長トシテ「オッエウイリ」ハ樺太州労働委員トシテ「ゼレジン」ハ州執行委員會長トシテ「データ、ボノマレヨフ」ハ樺太州糧食委員トシテ「サーソフ」ハ「アムグン、ツイルスキ」ハ戰線司令官トシテ前記「ツ」ノ犯罪ニ參加シ又「ツルブチャニーノフ」ハ使嗾セラレテ平和ノ民ヲ殺害シタリ

審理ノ末国民裁判所ハ「ツリヤピーチン」「レーベヂエフ」「ハリコフスキ」「ゼレズエン」「オッエウイリ」「サーソフ」「ツルブチャニーノフ」ヲ夫々前記犯罪アルモノト認メ又「データ、ボノマレヨフ」ハ「ツ」ノ權力ヲ積極的ニ防護シタルノ罪アリト認メ良心ノ命スル所ニ従ヒ左ノ通リ決定ス  
「ツリヤピーチン」「レベヂエフ」「ハリコフスキ」「ジエレズエン」「オッエウイリ」「パウルツキー」「サーソフ」

ルモノ一点アリト述べ本使ノ解釈スル所ニ依レバ今回ノ米國政府ノ異議ハ薩哈哩島ノ占領ニ関スルモノニシテ大陸内ニ位スル尼港及其ノ附近地點ノ占領ニ付テハ何等異議ナキコトト推測ス即チ該書面中薩哈哩島ニ於テ何等日本人ニ被害ナカリシコト又同島ノ官憲ガ毫モ本「ニコラエフスキ」ノ暴行ニ關係セルノ形跡ナキコト及同島ヲ占領セリトテ之ガ為大陸方面ニ在留スル日本人ノ安全ヲ保障スルニ足ラザルコトヲ指摘シアル處尼港ニ於テハ現ニ權力ヲ行使スル官憲ガ日本人ヲ虐殺セルノ事実明瞭ニシテ又同港附近ノ占領ハ其ノ地方在留日本人ノ安全ヲ保障スルニ足ルコト言ヲ俟タザルニ顧ミ米国政府ハ日本軍ノ尼港附近占領ニ付テハ相当ノ理由アルコトヲ默認スルモノノ如ク尚書面末段ニ薩哈哩占領ヲ承認スルコトヲ得ズトアルモ米国政府ノ所謂薩哈哩トハ單ニ同島北半ノミヲ指シ大陸内ノ領土ヲ包含セザルヲ以テ大陸内領土ノ占領ハ右不承認ノ範囲外ニ属スルモノト言ハザルヲ得ズ果シテ以上本使ノ解釈ニ誤ナキヤト問ヒタルニ國務長官ハ一応此ノ解釈ヲ是認シタル上尤モ右ハ同官即座ノ感想ニ止マリ本書面發送後數週間ノ久シキヲ経タル今日自分ハ正確ニ文意ヲ記憶セズト附言セリ（同官カ此

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六七四

八二二

ノ重要ナル点ニ付自己ノ署名セル書面ノ趣旨ヲ最終的ニ断言スルコトヲ避ケタルハ奇異ノ感ナキ能ハザルモノ之恐ラク同官自ラ本問題提起ノ主唱者タラザルコトヲ暗示スルモノナルベシ)

次ニ本使ハ前記解釈ニ誤ナシトセバ茲ニ米国政府ノ熟考ヲ促サントスル事実アリ即チ薩哈哩島北半ハ日本領土ト尼港方面トヲ連結スル交通ノ要衝ニ当リ若シ同島ヲ過激派ノ活動ニ放任センカ尼港方面ニ於ケル日本派遣隊及居留民ハ一年中八九ヶ月間ノ久シキニ亘ル結氷期間内ハ事實上孤立スルコトトナリ今後又々尼港事件ニ類スル虐殺ノ続出スペキ危険ヲ免カレズ之单ニ一片ノ杞憂ニハアラズ既ニ本年四月我救援隊ノ「アレキサンドロフスク」ニ寄港セル當時「パルチザン」ノ一派ガ同港附近ニ活動ヲ開始セルヲ認メタリト云フ從テ日本軍ノ薩哈哩島北半ヲ占領スルニ時期ヲ失スルニ於テハ尼港方面ノ駐兵占領ハ偶々危害ノ再発ヲ促スニ過キズ之ヲ要スルニ尼港方面ニ於ケル日本派遣隊及居留民ノ安全ヲ計ランガ為ニハ其対岸ニ当ル薩哈哩ノ要地ヲ占領スルコトノ必要ト其ノ方面ノ占領ハ當然關聯スルモノト認メラルル旨ヲ説明シタルニ國務長官ハ熱心ニ之ヲ聴取リ事

情ヨク了解セリト答ヘタリ  
本使ハ尚一点米国政府ノ注意ヲ乞ハントスルモノアリ本使ノ信ズル所ニ依レバ占領ハ其自体ニ於テ領土ノ併合ヲ意味スルモノニアラズ占領地ハ國際法上依然本国領土タルノ資格ヲ持続ス之元ヨリ自明ノ理ナリト雖モ世上往々占領ト併合トヲ混同スルモノアルガ如シト述ヘタルニ國務長官ハ之ヲ首肯シ此点ヲモ篤ト考量ニ加フベシト答ヘタリ

同官ノ語氣ニ微スルニ露国人ニ友情ヲ表シ過激派ヲ排斥スルノ根本主義並ニ基キ此際露國ノ領土保全ニ力ヲ尽スノ政策（此点ニ閃スル往電第三六二号本使ノ観測ハ往電第四〇八号米国政府ノ最近公表セル声明ニ依リテ確認セラル）ハ國務長官ニ於テ固ク之ヲ主張スルノ決心ナルト共ニ少クモ同官一個ノ意見トシテハ日本ノ薩哈哩州内占領ニ付テハ其自國民保護ノ目的ニ必要ナル限度ニ於テ之ヲ承認スルノ意アルモノノ如シ何レニスルモ一旦尼港方面ノ占領ヲ承認スル上ハ米国政府ノ異議ハ占領ノ行為自体ニ非ズンテ占領ノ区域問題ニ存スルモノト言フコトヲ得ベク果シテ然ラバ我ハ實際上ノ見地ヨリ薩哈哩島北半ヲ同時ニ占領スルコトノ必要ヲ説明シテ米国政府ノ異議ニ対抗スルノ途アル

ベキニ付米国政府ニ対スル我ガ立場ハ幾分鞏固ヲ加フルニ至ルベシト思考ス

在欧洲各大使ヘ転電セリ（十四日）

六七五 八月十五日 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

薩哈連州占領問題ニ関スル日米間往復文書ノ

公表ニ付米国政府ニ申入ノ件

（八月十七日接受）

第四一六号

（八月二十一日接受）

貴電第三四一号ニ関シ

八月十四日國務長官ヲ訪ヒ帝國政府ハ本件米国政府文書ノ発表カ本邦ニ於テ米国ニ対シ不快ナル評論ヲ益々挑發スルノ虞アリトシ両国々交ノ為當分右発表ヲ見合ハスヲ得策ト認ムル旨ヲ申入レタル處同官ハ今回米国政府ノ執レル措置カ結局日本ノ為又世界平和ノ為有益ナルヘシトノ信念ニ基キ全然友好的精神ヲ以テ誠意ヲ披瀝シタルモノナル事ヲ縷々切言シ両国共ニ神經過敏ナル人士ノ少ナカラサル事ヲ慨嘆シタル上本件文書ノ発表ニ付テハ予メ本使ト打合スヘキコトヲ約セリ

「クリスチャン、サイエンス、モニター」ノ伝フル所ニ依

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六七五

六七五 六七六 六七七

六七七 八月二十五日

薩哈連州派遣軍司令官ヨリ

田中陸軍大臣宛（電報）

八二三

## 薩哈連派遣軍ノ軍政施行地域ノ範囲ニ付請訓

ノ件

薩参一四 (八月二十七日陸軍省ヨリ外務省接受)

軍政ノ権力範囲ヲ確定スルコトハ目下ノ急務ナリ又軍政施行区域ハ北樺太全部及「ウドスキ」郡ノ一部ニシテ利權ハ漁業ト森林トニ在ルヲ以テ概ネ此ノ利權ヲ包含スル如ク

「ペロフスキ」岬ヨリ「チリヤー」湖ニ沿ヒ黒竜江ヲ経テ「ソフビースク」西方ニ於テ郡界ニ連ル「スコベレフ」ノ調査ニ依レバ「ウドスキ」郡沿岸ニ於テ直接獲得シ得ル利權線即チ此ノ線ヲ含ム地方ヲ管区トシテ發表セントス目下尼港ニハ派遣隊ノ民事部ニ於テ既ニ民政ヲ実施シリモ此ノ地ヨリ将来「インペラトール」港ノ北方附近迄ヲ管轄セシムルコト不可能ナリ故ニ間宮海峡以南ノ地区ニ於テ特ニ「デカストリー」附近ノ莫大ナル森林權ヲ得ル為ニハ同地ニ民政機關ヲ設置スルノ要アリ故ニ此際艦隊ト協力シ「デカストリー」附近ニ一時歩兵ノ小部隊及憲兵等ヲ派遣シ要点占領ノ実ヲ挙ケ該地附近ニ宣伝及救恤ヲ為シ以テ結冰期迄民政ヲ行ヒ利權獲得ノ基礎ヲ作ラントス是レ外交上ニ於テモ要点占領及民政施行ノ声明ヲ為ササレハ利權ノ

獲得安全ナラサレハナリ  
右軍政施行区域指定ノ件請訓六七八 八月二十五日 花岡書記官ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

## 薩哈連州地方代表者會議ノ模様報告ノ件

第六八号

八月十五日以来当地ニ於テ薩哈連州地方代表者會議アリ過激社會主義ノ実況ノ悲慘ヲ説キ穩健ナル主義ニ復帰セントヲ主張シ又露国各地政府ニ對スル關係ニ付テハ莫斯科及ビ「ウエルフネウデンスク」政府ヲ承認シ得ザルハ勿論「チタ」政府ハ遠クシテ接觸出来ズ浦鹽政府ニ至ツテハ過激派ニ近キモノアルノミナラズ斯ノ「トリヤビチン」一派トモ一種ノ聯絡アリタル上財政其他ニ付テ失政尠カラズ到底之ヲ承認サレズ從ツテ日本軍隊ノ為ニ救援セラレタル地方ニハ別ニ一種政治機關ヲ作ランコトヲ希望シ切ニ日本軍隊駐屯ヲ請願セリ委細郵便

註 右電報ハ小樽ヨリ發電セラレタリ

六七九 八月二十九日 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

## 薩哈連州占領問題其他ニ関シモリス大使ト意見交換ノ件

第四三〇号

(八月三十日接受)

八月二十五日「モリス」大使ト会見ノ節同大使ハ日本ノ薩哈連占領事件ニ論及シ米国政府ノ重キヲ置クハ広汎ナル主義ノ問題ニシテ露国ハ早晚必ス復興スヘク其ノ再ヒ強國ノ地位ヲ占ムルニ至ラハ露国領土ノ分割ヲ主張スル外国トノ間ニ重大ナル葛藤ヲ生スヘキコト疑ヲ容レス此際日本ニ於テ隱忍自制ノ態度ヲ取リシナランニハ此葛藤ヲ予防スルト共ニ日露親善ノ基礎ヲナシ日本ハ為ニ大局上有利ノ地位ニ立チシナルヘク從テ自分ハ日本カ右占領ノ措置ニ出テラレタルヲ惜ムモノナリトノ趣旨ヲ述ヘタリ本使ハ之ニ対シ過日國務長官ヨリ聞ク所ニ依レハ少クトモ同官ノ閑スル限り領大陸方面ニ於ケル尼港及其ノ附近地点ノ占領ニ異議ナキモノノ如ク果シテ然ラハ米国政府ノ主張ハ廣汎ナル主義ノ問題ヨリモ寧ロ占領地ノ範囲ニ関スルモノト解セラルル旨ヲ答ヘタルニ「モリス」ハ自分ノ觀察ヲ卒直ニ述フレハ元來日本ノ目的トスル所ハ大陸方面ニアラスシテ薩哈連島ノ北半ニ在リ之歷史上明確ナル事實ナリ自分カ昨年「オム

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六七九

八二五

スク」出張ノ際ニモ日本ハ既ニ「アレキサンドロフスク」港管理ノ要求ヲ「コルチャック」政府ニ提出セルコトヲ耳ニセリ今回ノ占領ハ要スルニ既定計画実行ノ一步ニアラサルカト想像セラルル旨ヲ述ヘタリ

本使ハ日本カ「アレキサンドロフスク」港管理ヲ要求セリト云フハ全然無根ノ流説ニシテ自分ノ知ル限リニテハ先年日本實業家カ薩哈連島ニ於テ鉱業特許權ヲ有スル露国商會ト合弁契約ヲ締結シ之カ確認ヲ「コルチャック」政府ニ請願セルニ当リ日本官憲ニ於テ支持ヲ与ヘタルコトアリ右契約中ニハ鉱物船積ノ便ヲ計ルノ目的ヲ以テ「アレキサンドロフスク」港ノ一部ヲ改築スルノ計画ヲ包含セリト云フ「モリス」ノ耳ニセル風説ハ此ノ事実ヲ誤聞セルモノナルヘシ何レニスルモ今回薩哈連州占領ノ動機ハ右實業家ノ計画ト何等関聯スル所ナシト説明セルニ「モリス」ハ細日ニ閑シテハ自分ニ誤聞ノ点モアルヘシト雖大体ニ於テ占領ノ主要目的カ薩哈連島ニ存ストノ觀察ヲ改ムルコト能ハスト云ヘリ尚此機會ニ於テ本使ハ極東露領沿岸到ル處日本カ條約上ノ権利トシテ漁業ニ関スル重要ナル利益ヲ有スル事ヲ説明シ(?)尼港事件ノ惨禍ニ顧ミ日本カ单ニ漁業者ノ利益ヲ保護ス

#### 一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ闇スル件 六八〇

八二六

ル見地ヨリスルモ薩哈連州占領ノ必要ナル所以ヲ述ヘタルニ「モ里斯」ハ日本政府ガ右漁業保護ノ手段ヲ執ラルハ当然ナルヘク在横浜米商「フレーザー」ノ如キハ「カムチヤツカ」ニ於テ日本人ト協同シ漁業ヲ經營スル關係上其漁場ノ保護ヲ日本政府ニ請願セリトノ報告モアリ自分ハ日本政府ニ於テ鉱業及漁業ノ利益ヲ保全スルノ方法ヲ講セラルニ対シ何等批評ヲ加ヘントスルノ意ナク又日本力工業原料品ノ供給ヲ露領及支那方面ニ求ムルハ自然ノ情勢ナル事ヲ善ク了解ス然レ共日本政府ハ薩哈連占領ノ理由トシテ右鉱業又ハ漁業ノ保護ヲ標榜セラル事ナク主トシテ露國ニ対スル懲罰ノ意味ヲ示スカ如キ宣言ヲ發セラレタルハ日本ノ為ニモ不得策ナルヤニ思考スト語レリ

本使ハ帝国政府ノ執レル措置カ自國ノ為ニ得策ナルヤ否ハ暫ク別問題トシ過般米国政府ノ來信ヲ閱スルニ自分ノ解シ難キモノ二点アリ第一ニ米国政府ハ日本軍隊ノ浦潮「ハバロフスク」方面ニ引続キ駐屯スル事ニ対シ追テ意見ヲ申入ルルノ余地ヲ留保セル処本年一月「ランシング」國務長官ノ覚書ニ依ルニ日本カ必要ト認ムル場合ニハ单独ニ西比利亞ニ軍隊ヲ留ムルモ又之ヲ増援スルモ米国政府ニ於テ何等異

議ヲ唱ヘサルヘキ事ヲ言明セリ右ハ米国政府ノ態度ノ変更ヲ示スモノナリヤ第二ニ本年一月初同長官ノ公文中ニハ米軍隊ハ「チェック」軍隊ノ引揚ヲ待タスシテ夙ニ単独ニ決行セラレ「チェック」後発部隊ハ漸ク最近ニ至リテ浦潮出發ノ準備整ヒタルノ報アリ之亦米国政府ノ公然通告セル趣旨ト抵触スル所ナキヤトノ質問ヲ發シタルニ「モ里斯」ハ第一点ニ就テハ全ク思ヒ浮ハサリシトテ直ニ係官ヲ呼ヒ関係文書ヲ取り寄せ一読セルカ結局更ニ篤ト其顛末ヲ調査スヘシト答ヘ第二点ニ至リテハ確カニ米国政府ノ通告ト其實際ノ行動トニ抵触スル所アルヲ認メ當時米軍撤退ハ手続ニ種々ノ錯誤アリ自分ハ最初共同ニ出兵セル日米両國軍隊ハ撤退ニ際シテモ亦共同ニ行動スヘキモノナリトノ意見ヲ有シタリシカ其意見ノ行ハレサリンハ遺憾ナリト答ヘタリ  
英仏独伊ニ転電セリ

六八〇 九月八日 津野少将ヨリ  
陸軍省副官宛（電報）  
薩哈連州ニ於ケル郵便及警察業務類似行為ヲ

#### 浦潮臨時政府ヲシテ行ハシメ居ルコトニ付花

岡ヨリ意見具申ノ件

花岡書記官ヨリ外務大臣ヘ

第七七号

（九月九日接受）

九月三日哈府ヨリ普通郵便及旅客用汽船下江シ來リ浦潮政府ノ派遣セル民警十數名護衛トシテ便乗シ居レリ当地ニテ

ハ右民警武器ヲ携ヘ上陸スルヲ許サズ只將校ノミ大半上陸セシメタルモ帝国政府ニ於テ薩哈連州ノ占領ヲ聲明セルニ拘ハラズ尚浦潮政府ヲシテ郵便並ニ警察事務ニ類セル行為ヲ為サシムルハ面白カラズ然レドモ事實ニ於テハ帝国軍隊

ハ今ヤ大部分北樺太ニ移リ尼港方面ハ郵便其他ハ勿論黒竜江航行ノ安全モ保証スルノ地位ニアラザルニヨリ彼等自ラ

其ノ護衛ヲ付シ来港シ自ラ郵便事務ヲ扱フハ已ムヲ得ザル状態ナルガ斯クシテハ遂ニ占領ハ所謂紙上ノ占領ニシテ実力ノ占領ニアラズト云フガ如ク國際法上紙上封鎖ニ対スルト同一ノ非難ヲ招ク虞アリト存ゼラルニ依リ此ノ辺予メ御詮議アリタシ（九月四日）

註 右電報ハ小樽ヨリ發電セラレタリ

第六八一 九月二十九日

在尼港花岡書記官ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

日本軍ノ撤退及尼港殘留本邦人ニ闇スル件

第八八号

當地陸軍無線電信機械ハ愈々明九月三十日撤収セラレ翌十

月一日當地日本人一同「ニコラエフスク」趾仕末ヲ御報告ト同一ノ非難ヲ招ク虞アリト存ゼラルニ依リ此ノ辺予メ

日本軍撤退ニ先チ住民ノ大部ハ既ニ當地ヲ去リシモ幾分ハ各種ノ事情ニ依リ残留スルニ決シ昨日迄届出テタルモノ男女各二百五十小供三百合計八百之ニ目下漁場及「ケルビ」ス

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六八三

八二八

ニ在リ帰来「ニコラエフスク」ニ冬越スヘキモノヲ加ヘ概算千五百ニ達スベシ当地司令部ニテハ右殘留者ニ總代ヲ選ビ委員会ヲ組織セシメ「ニコラエフスク」ニ残存スルモノノ世話及建物ノ監視竝ニ冬期樺太ヘノ通報ヲ命ズルト共ニ糧食日用品及自衛用武器ヲ与フルコトトシ彼等亦之ヲ了セルモ尚心細キ感アルガ如ク「アムール」氷結迄日本駆逐艦ノ碇泊ヲ請願シ居レリ國家瓦壞シ友邦ノ對露政策亦不徹底ニシテ那辺ニ向ハシカト迷ヒ居ル露國良民ノ現状亦哀レナリト云フベシ

六八三 九月二十九日 日露特種協定

日本軍司令部ト在尼港露國委員トノ間ニ成立

セル協定

千九百二十年九月二十九日日本軍司令部ト在尼港露國委員トノ間ニ成立セル協約左ノ如シ

一、露國委員ハ日本軍司令部及ビ軍隊ノ宿營タル工業學校舍及石造兵營ノ保管ニ任ス露國委員ハ前記建築物ノ保護ノ為三名ノ番人ヲ置ク而シテ日本軍ハ各人ニ対シ一箇月參拾円宛ノ報酬ヲ支払フモノトス又露國委員ハ「チヌ

薬ヲ供給ス

前記武器及弾薬ハ日本軍司令官ノ許可ヲ得テ補充スルコトヲ得

前記武器ハ委員ニ於テ良民間ニ配給スルモノトス

六、市中ニ於テ掠奪襲撃其他不法行為アリタルトキハ露國委員ハ該犯罪人ヲ捕縛シ監獄ニ収容シ必要アルトキハ之ヲ日本軍ニ引渡スベシ

七、露國委員ハ毎日一回「ウドスキ」郡及尼市ノ一般狀態ヲ在亞港日本軍司令部又ハ日本軍隊ニ報告スベシ特別ナル場合ニ関シテハ其ノ都度報告スルコトヲ要ス本件ニ要スル費用ハ日本軍司令部ニ於テ支弁ス

八、露國委員ハ日記ヲ作リ翌年之ヲ日本軍司令部ニ提出スベシ

九、露國委員ニ於テ保護ノ任ヲ完フシタルトキハ日本軍ハ翌年之ニ對シ報酬ヲ与フベシ

少佐 中山

委員長 エボフ

書記

イワノフ

(和訳文)

(十月二十六日接受)

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六八四 六八五

イラフ「要塞ノ兵營建築物竝市内殘留ノ家屋ノ保管監督ニ任ス

二、日本軍ハ糧食ヲ尼港ニ残シ置キ露國委員ヲシテ其ノ見込ニ依リ貧窮ナル住民ニ対シ之ヲ給与セシム但日本軍ニ於テ既ニ「セルギエフスク」「ボリシエ、ミハイロフスカヤ」及「マリンスカヤ」諸村ノ住民ニ配給セル糧食ハ

シ之ヲ「ハバロフスク」方面ニ輸送セシムベシ若シ「アムグネツ」号ニ船腹ノ余裕アルトキハ露國委員ハ他ノ乗客及貨物ヲ輸送スルコトヲ得但シ全部無貨トス

三、近日汽船「アムグネツ」ハ上流ヨリ航行シ来ルヲ以テ日本軍ハ露國委員ヲシテ該船ニ避難民及其手荷物ヲ搭載シ之ヲ「ハバロフスク」方面ニ輸送セシムベシ若シ「アムグネツ」号ニ船腹ノ余裕アルトキハ露國委員ハ他ノ乗客及貨物ヲ輸送スルコトヲ得但シ全部無貨トス

四、露國委員ハ尼港殘留ノ小舟艇保管ノ為メ日本港務部トヨリ提供スルモノトス

五、日本軍ハ露國委員ニ対シ自衛ノ為当地ニ在ル武器及彈交渉スルヲ得

六八四 十月十四日

日本外務省ヨリ  
在日本露國大使館宛

黒竜江沿岸住民自衛ノ為ノ小銃供給方ニ關シ

回答ノ件

帝国外務省ハ黒竜江沿岸村落住民ガ自衛ノ為帝国軍憲ヨリ小銃ノ供給ヲ受ケンコトヲ希望スル件ニ關シ露國大使館ヨリ申出ノ次ニ付早速陸軍省ニ照会シタル処今般同省ヨリ諸般ノ關係上乍遺憾其希望ニ応シ難キ旨回答ニ接シタリ

六八五 十月二十五日

在本邦露國大使ヨリ  
内田外務大臣宛

抗議ニ關スル件

委員 ワシーリエフ

(欄外註記)  
「花岡書記官持參」

一四 尼港事件及樺太内必要地点ノ一時占領ニ関スル件 六八六

外務大臣閣下

以書翰致啓上候陳者貴国薩哈哩派遣軍司令官小島將軍カ本年八月三十日附ニテ發シタル命令中ニ左記ノ諸項アリタル旨承リ及候

第二条 鉱山採掘権ノ移転ハ當分ノ内之ヲ禁止ス

第四条 鉱山採掘権ノ行使ハ之ヲ禁止ス但シ從前ヨリ該権利ヲ行使シ現ニ採掘ニ從事セル場合ハ此限リニ在ラス

第五条 軍政部長ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ鉱山採掘権ヲ制限シ又ハ全然之ヲ停止スルコトヲ得

以上ノ諸点ハ日本ノ官權カ領土権ヲ占有シ露國領土内ニ於テ露國ノ法律ヲ廢棄セル事實ヲ構成スルモノニシテ從テ上記ノ命令ハ本年七月三日附帝國政府聲明ノ趣意及精神竝之ニ關シ閣下ヨリ口頭ヲ以テ与ヘラレタル保障ニ背戾セルモノニ有之候

依テ本使ハ右ニ關シテ日本帝國政府ノ注意ヲ喚起シ且露國ノ利益ヲ侵害スル前記小島將軍ノ命令施行ニ対シテ抗議スルコトヲ本使ノ義務ナリト信スルモノニ有之候

右申進旁本使ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

訓電ノ件

第二号

貴官ノ権限ニ關シ今般左ノ通リ陸軍省ト協定シタルニ付貴官ハ之ヲ遵守シ能ク司令部ト意見ヲ交換シテ事務ヲ処理セラルベシ

薩哈哩州派遣軍司令部附外交官ノ権限ニ關スル覺書

一、司令部附外交官ハ軍司令官ノ命ヲ承ケ占領地ニ關スル涉外事項ヲ掌ルモノトス

二、外國若ハ外國人(占領地域内ニ居住スル露國人ヲ除ク)又ハ外國トノ條約ニ関係アル事項(軍政部管掌事項ヲ除ク)ハ總テ涉外事項ニ屬スルモノトス

三、軍政部管掌事項ト雖重要ナルモノニ付テハ軍司令部ハ隔意ナク司令部附外交官ノ意見ヲ徵スルコトヲ要スルモノトス

四、外務大臣ハ涉外事項ニ關シ直接ニ司令部附外交官ニ指示スルヲ得ルモノトス

五、司令部附外交官ハ前項指示事項ノ執行ニ付テハ予メ軍司令官ノ承認ヲ受クルヲ要シ其ノ外部ニ發表スヘキモノハ軍司令官ノ名ヲ以テスルモノトス

六、軍司令官若シ軍事上ノ必要ニ依リ第四項指示事項執行

ノ延期又ハ停止ヲ命シタルトキハ直ニ理由ヲ附シ陸軍大臣ヲ經テ其ノ旨ヲ外務大臣ニ通牒スルモノトス

尚北部沿海州派遣隊司令部附外交官ノ権限ニ關スル覺書ハ

自然消滅セルモノト御承知アリタシ

八三〇

内田外務大臣ヨリ  
在亞港松村總領事宛(電報)

六八六 十二月十五日 薩哈連州派遣軍司令部附外交官ノ権限ニ關シ